平成 25 年度 文化庁委託事業

諸外国の現代美術に関する状況等に係る調査事業 報告書

平成26年3月

株式会社野村総合研究所

目次

第1章	本調査事業の概要	5
1 - 1	. 背景と目的	6
1 - 2	2. 本調査の内容	6
1 - 3	3. 本調査の進め方	8
1 - 4	. その他の事項	11
第2章	世界の代表的な現代美術の国際美術展	13
2 - 1	. 現代美術の国際美術展の全体像	14
2 - 2	2. 世界の主な国際美術展	22
1)	ヴェネチア・ビエンナーレ(Venice Biennial)	25
2)	ドクメンタ (documenta)	29
3)	ミュンスター彫刻プロジェクト(Skulptur Projekte Münster)	32
4)	リヨン・ビエンナーレ(Biennale de Lyon)	34
5)	イスタンブール・ビエンナーレ(Istanbul Biennial)	36
6)	サンパウロ・ビエンナーレ (Bienal Internacional de Artes de São Paulo)	38
7)	シャルジャ・ビエンナーレ (Sharjah Biennial)	40
8)	シドニー・ビエンナーレ (Biennale of Sydney)	41
9)	アジア・パシフィック・トリエンナーレ (APT)	43
1 (り)上海ビエンナーレ(Shanghai Biennale)	45
1 1	1)台北ビエンナーレ(Taipei Biennial)	46
1 2	?)アジアン・アート・ビエンナーレ(Asian Art Biennial)	49
1 3	3)光州ビエンナーレ(Gwangju Biennale)	51
1 4	4)釜山ビエンナーレ(Busan Biennale)	54
1 8	5) シンガポール・ビエンナーレ(Singapore Biennale)	56
第3章	世界の代表的なアートフェア	59
3 - 1	. 世界のアートフェアの全体像	60
3 - 2	2. 世界の主要なアートフェア	68
1)	アート・ケルン (ART COLOGNE)	71
2)	フィアック(Fiac)	74
3)	アーモリー・ショー (The Armory Show)	77
4)	フリーズ・ロンドン (Frieze London)	79
5)	フリーズ・ニューヨーク (Frieze New York)	82
6)	リステ (LISTE)	84
7)	ヴォルタ(VOLTA)	87
8)	ナダ・マイアミビーチ(NADA Miami Beach)	89
9)	アート・バーゼル (Art Basel)	91

10) アート・バーゼル・マイアミビーチ(Art Basel Miami Beach)	96
11)アート・バーゼル香港(Art Basel Hong Kong)	100
12) アート・ステージ・シンガポール(ArtStage Singapore)	108
13) キアフ (KIAF)	108
14) アート台北 (Art Taipei)	11
15) アート北京 (Art Beijing)	114
4章 アジアの諸地域の現代美術に係る支援制度や状況	117
4-1. 香港の状況	118
4-2. 台湾の状況	119
4-3. 韓国の状況	120
4-4. シンガポールの状況	121
1) シンガポール政府の体制	122
2) 国立アートギャラリーの整備	128
3) ギルマン・バラックスの整備	128
4) シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュートの整備	124
5) シンガポール・フリーポートの整備	124
6) その他の施策	128
5章 世界的に活躍する現代美術の作家・キュレーターの状況	127
5-1. 世界的に活躍する現代美術の作家	128
5-2. 作家が参加する国際美術展・作家の取扱ギャラリー	135
5-3. 世界的に活躍する現代美術のキュレーター	138
6章 我が国の現代美術界の活性化・国際展開に向けた課題	14

第1章 本調査事業の概要

1-1. 背景と目的

我が国の現代美術の新進芸術家の海外出展や若手キュレーター等の海外での活動を活発化するとともに、昨今、国内のあらゆる地域において開催される現代美術の国際美術展の国際発信力を強化するため、世界の代表的な現代美術の国際美術展や国際アートフェア等の状況や諸外国の現代美術に対する支援制度などについて調査を行う。また、上記調査の結果や我が国の現代美術界の現状、課題等を踏まえ、我が国の現代美術界を活性化し、国際展開を推進していくために必要な施策の方向性を検討する。(本事業仕様書より引用)

1-2. 本調査の内容

本調査では以下の5つの項目に関して調査・検討を行っている。

- ・世界の代表的な現代美術の国際美術展(第2章)
- ・世界の代表的なアートフェア (第3章)
- ・アジアの諸地域の現代美術の支援制度や状況 (第4章)
- ・世界的に活躍する現代美術の作家・キュレーターの状況(第5章)
- ・我が国の現代美術界の活性化・国際展開に向けた主な課題(第6章)

世界の代表的な現代美術の国際美術展(第2章)

現代美術の関係者との議論をもとに、調査対象として以下の15の国際美術展を選定した。また、世界の現代美術界においてアジアの存在感が高まっており、アジアから重点的に選出した。

《世界の代表的な現代美術の国際美術展》

- 1) ヴェネチア・ビエンナーレ (Venice Biennial)、イタリア
- 2) ドクメンタ (documenta)、ドイツ
- 3) ミュンスター彫刻プロジェクト (Skulptur Projekte Münster)、ドイツ
- 4) リヨン・ビエンナーレ (Biennale de Lyon)、フランス
- 5) イスタンブール・ビエンナーレ (Istanbul Biennial)、トルコ
- 6) サンパウロ・ビエンナーレ (Bienal Internacional de Artes de São Paulo)、ブラジル
- 7) シャルジャ・ビエンナーレ (Sharjah Biennial)、UAE

《アジアの代表的な現代美術の国際美術展》

- 8) シドニー・ビエンナーレ (Biennale of Sydney)、オーストラリア
- 9) アジア・パシフィック・トリエンナーレ (APT)、オーストラリア
- 10) 上海ビエンナーレ (Shanghai Biennale)、中国
- 11) 台北ビエンナーレ (Taipei Biennial)、台湾
- 12) アジアン・アート・ビエンナーレ (Asian Art Biennial)、台湾
- 13) 光州ビエンナーレ (Gwangju Biennale)、韓国
- 14) 釜山ビエンナーレ (Busan Biennale)、韓国
- 15) シンガポール・ビエンナーレ (Singapore Biennale)、シンガポール

これらの美術国際展に関して以下の項目を整理している。

- 基本情報(開始時期、開催回数、実施頻度、開催都市、主な会場、会期、等)
- 沿革
- ・ 主な会場の詳細
- 運営方法
- · 入場料 · 来場者数
- ・キュレーター・参加作家

世界の代表的なアートフェア (第3章)

現代美術の関係者との議論をもとに、以下の15のアートフェアを選定した。国際美術展と同様に、アジアから重点的に選出した。

《世界の代表的なアートフェア》

- 1) アート・ケルン (ART COLOGNE)、ドイツ
- 2) フィアック(Fiac: Foire Internationale d'Art Contemporain)、フランス
- 3) アーモリー・ショー (The Armory Show)、アメリカ
- 4) フリーズ・ロンドン (Frieze London)、イギリス
- 5) フリーズ・ニューヨーク (Frieze New York)、アメリカ
- 6) リステ (LISTE)、スイス
- 7) ヴォルタ (VOLTA)、スイス
- 8) ナダ・マイアミビーチ (NADA Miami Beach)、アメリカ
- 9) アート・バーゼル (Art Basel)、スイス
- 10) アート・バーゼル・マイアミビーチ (Art Basel Miami Beach)、アメリカ

《アジアの代表的なアートフェア》

- 11) アート・バーゼル香港(Art Basel Hong Kong)、中国
- 12) アート・ステージ・シンガポール(ArtStage Singapore)、シンガポール
- 13) キアフ (KIAF)、韓国
- 14) アート台北(Art Taipei)、台湾
- 15) アート北京 (Art Beijing)、中国

これらのアートフェアに関して以下の項目を整理している。

- ・基本情報 (開始時期、開催回数、開催都市、主な会場、会期、等)
- 沿革
- 会場の詳細
- 運営方法
- ・入場料・来場者数
- ・出展者
- ・出展条件・方法

アジアの諸地域の現代美術に係る支援制度や状況 (第4章)

世界の代表的な現代美術の国際美術展、アートフェアが実施されているアジアの地域・国(香港、 台湾、韓国、シンガポール)を調査対象とし、アジアの諸地域の現代美術に係る支援制度や状況について調査を行った。具体的には以下のような項目について紹介している。

《香港》

・M+ (現代美術館) の整備

《韓国》

・国立近現代美術館ソウル館の整備

《台湾》

・アートフェア参加への補助制度

《シンガポール》

- 国立アートギャラリーの整備
- ギルマン・バラックスの整備
- シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュートの整備
- ・シンガポール・フリーポートの整備、等

世界的に活躍する現代美術の作家・キュレーターの状況(第5章)

世界的に活躍する現代美術の作家・キュレーターを一定の条件で抽出し、それらの作家・キュレーター及び作家の所属ギャラリーがこれまで参加してきた国際美術展を整理している。また、作家については所属ギャラリーも整理している。

我が国の現代美術界の活性化・国際展開に向けた課題(第6章)

各種調査(第 2~5 章)や関係者ヒアリング調査、シンポジウムの結果(後述)を踏まえ、我が国の現代美術界の活性化、国際展開に向けた課題を示している。

1-3. 本調査の進め方

本調査は主に「文献調査」、「関係者ヒアリング調査」、「シンポジウムの開催」により実施した。それぞれの内容については以下のとおりである。

文献調査

本調査における多くの情報は、各事業もしくは事業に関連する Web サイトや報告書をもとに整理している。

関係者ヒアリング調査

アジアの国・地域(香港、台湾、韓国、シンガポール)については、現地に訪問し、事業の関係者 にヒアリング調査を行った。ヒアリングの対象者は以下のとおりである。

《香港》

- M+ :
 - ーパオリーン氏 (Pauline J.Yao、M+キュレーター)
 - ードリアン氏 (Doryun Chong、M+キュレーター)
- ・コレクター:
 - ーハラム氏 (Hallam Chow)

《台湾》

- 台北ビエンナーレ
 - ーシャオ氏 (Hsiao Shu-wen、台北市立美術館 展示部門 チーフ)
- ・アジアン・アート・ビエンナーレ
 - ーイリス氏(Iris Shu-Ping HUANG、国立台湾美術館 美術部門 キュレーター)
- ・ 關渡 ビエンナーレ
 - ーチュ氏(Chu Teh-I、關渡美術館館長・国立台北美術大学教授)
 - ーワン氏(Wang Jun-Jieh、關渡美術館館長・国立台北美術大学准教授)
 - ウ氏(Wu Dar-Kuen、關渡美術館 展示部門)
- ・アート・バーゼル
 - ージェニー氏(Jenny Lee、アート・バーゼル 台湾 VIP リレーションズ)
- ・コレクター
 - ールディ氏(Rudy Tseng)

《韓国》

- ・光州ビエンナーレ
 - ーチョ氏(Cho Inho、光州ビエンナーレ 政策研究センター長)
- ・メディアシティ・ソウル
 - ーヘジン氏(Hyejin Jang、メディアシティ・ソウル チーフ・キュレーター)
 - ーパク氏(Park Jaeyong、イルミン美術館 キュレーター、元メディアシティ・ソウル アシスタント・キュレーター)
- KIAF
 - ーピョ氏(Pyo Mi Sun、韓国画廊協会会長・PYO ギャラリー ディレクター)
- ・クッチェ・ギャラリー
 - ーホン氏(Hong Gyeong、クッチェ・ギャラリー アシスタント・ディレクター)
 - -ヨー氏(Yoo Bona、クッチェ・ギャラリー)
- · 韓国国立近現代美術館
 - ーパク氏(Park Youngran、韓国国立近現代美術館 キュレーター)
 - ーリー氏(Lee Young-in、韓国国立近現代美術館 開発部マネジャー)

《シンガポール》

- ・シンガポール・アート・ミュージアム (SAM)
 - ースージー氏 (Susie Lingham、SAM ディレクター)
 - ーミシェル氏 (Michelle Ho、SAM キュレーター)
 - ーナタリー氏(NatalieTan、SAM マーケティング&企業コミュニケーション マネジャー)

- ・シンガポール国家遺産局
 - ータン氏(Tan Boon Hui、国家遺産局プログラミンググループ長)
 - ーシルビア氏 (Sylviah Goh、国家遺産局マネジャー)
- 国立アートギャラリー
 - ーユージン氏(Eugene Tan、国立アートギャラリー ディレクター)
 - ーイェオ氏(Yeo Wei Wei、国立アートギャラリー ディレクター補佐)
- ・アート・ステージ・シンガポール
 - ーロレンツオ氏(Lorenzo Rudolf、アート・ステージ・シンガポール創立者・ディレクター)
- ・ギャラリー・ペロタン
 - -中嶋悦子氏(ギャラリー・ペロタン ディレクター)
- ・イッカン・アート・インターナショナル
 - -眞田一貫氏(Ikkan Art International Pte Ltd)
- ・オオタ・ファイン・アーツ
 - -金子泰子氏(OTA FINE ARTS ディレクター)
- ・シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート (STPI)
 - ーエミー氏(Emi Eu、STPI ディレクター)
 - リタ氏 (Rita Targui、STPI ギャラリー長)
 - -小川栄太郎氏(STPIチーフ・プリンター)
- ・シンガポール・フリーポート
 - リンカーン氏(Lincoln Ng YC、フリーポート・マネジメント社 CEO)
- ・シンガポール国際企業庁
 - ーチュア氏 (Chua Taik Him、国際企業庁 CEO 代理)

シンポジウムの開催

本事業のなかで、「アジアがつくる世界のアートフェアと国際展」と題したシンポジウムを実施し (2014年3月9日(日)14:30~16:30)、日本の現代美術作家が世界で活躍するための障害とその障害を乗り越えるための方策について議論を行った。シンポジウムの登壇者は以下のとおりである。

《登壇者》

- 飯田志保子
 - (インディペンデント・キュレーター、札幌国際芸術祭 2014 アソシエイト・キュレーター)
- ・金島隆弘 (アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)
- ・塩見有子(NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(AIT/エイト)理事長)
- ・白石正美 (スカイ・ザ・バスハウス代表)
- · 南條史生(森美術館 館長)
- ・ローゼン美沙子 (MISAKO&ROSEN ディレクター)

《モデレーター》

・綿江彰禅(野村総合研究所 公共経営コンサルティング部 主任コンサルタント)

1-4. その他の事項

本報告書における表記について

金額での表記については各国の通貨を日本円に換算しており、その際には財務省「関税定率法第4条の7に規定する財務省令で定める外国為替相場」の平成26年3月9日から平成26年3月15日までのレートを採用した。具体的なレートは以下のとおりである。

・USドル: 102.29円
 ・ポンド: 170.45円
 ・ウォン: 0.0955円
 ・人民元: 16.74円
 ・台湾ドル: 3.38円

・香港ドル:13.18円 ・オーストラリアドル:91.95円

・シンガポールドル:80.87円

出所が明記されていない図表に関しては野村総合研究所が作成したものである。また、出所が明記されていない写真については筆者(野村総合研究所 綿江)が撮影したものである。

調査研究体制

本調査研究は、各分野の専門的な知見を活用するため、野村総合研究所と各分野に精通する外部の調査員で協力して行った。具体的な体制は次のとおり。

- ・綿江 彰禅 ㈱野村総合研究所 公共経営コンサルティング部 主任コンサルタント(主担当)
- ・金島 隆弘 アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター
- ・木村 絵理子 横浜美術館 主任学芸員、ヨコハマ・トリエンナーレ 2014 キュレーター
- ・那波 佳子 アートフェア東京
- ・井關 悠 ㈱資生堂 企業文化部 学芸グループ 資生堂ギャラリー・キュレーター

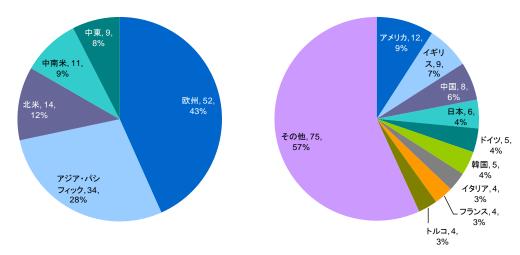
(2014年3月時点)

第2章 世界の代表的な現代美術の国際美術展

2-1. 現代美術の国際美術展の全体像

本節では世界で実施されている主要な国際美術展を整理している 1 。情報を収集した 120 の国際美術展の開催地域をみると、うち約半数が欧州で開催されているものであった。また、開催国別ではアメリカでの開催が最も多く、12 展 (9%) が開催されている。また、イギリス (9 展、7%)、中国 (8 展、6%)、日本 (6 展、4%) などでの開催も多かった (図表・1)。

各国際美術展の開催国、開催都市、名称、開催年、会期、開始年、開催回数などを整理したものが図表・2である。



図表・1 国際美術展の開催地域(左)・開催国(右)

¹整理においては「Biennial Foundation」、「Universes in Universe」などを参考に作成。

図表・2 国際美術展の概要

(欧州)

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
用准凸		石柳 (T本田)	石柳(矢亩)	州好口	北川日	日数	年	回数
アイルランド	ダブリン	ダブリン・コンテンポラリー	Dublin Contemporary	2011/9/6	2011/10/31	56	2011	1
ノイルノンド	リメリック	エヴァ・インターナショナル	eva International	2012/5/19	2012/8/12	86	1977	34
アルバニア	ティラナ	ティラナ・ビエンナーレ	Tirana Biennial	2009/9/18	2009/10/22	35	2001	4
	ウィスタブル	ウィスタブル・ビエンナーレ	Whitstable Biennale	2014/3/31	2014/6/15	77	2002	7
	チェシャー	タットン・パーク・ビエンナーレ	Tatton Park Biennial	2012/5/12	2012/9/30	142	2008	3
	フォークストン	フォークストン・トリエンナーレ	Folkestone Triennial	2011/6/25	2011/9/25	93	2008	2
	ブライトン	ブライトン写真ビエンナーレ	Brighton Photo Biennial	2012/10/6	2012/11/4	30	2003	6
イギリス	ブリストル	ブリストル・ビエンナーレ	Bristol Biennial Community Arts Festival	2012/6/1	2012/6/16	16	2012	1
	マンチェスター	アジアトリエンナーレ・マンチェスター	Asia Triennial Manchester	2014/10/31	2014/11/27	28	2008	2
	リバプール	リバプール・ビエンナーレ	Liverpool Biennial	2012/9/15	2012/11/25	72	1999	8
	ロンドン	テート・トリエンナーレ	Tate Triennial	2009/2/3	2009/4/26	83	2000	3
		ザ・ロンドン・オープン	The London Open	2012/7/4	2012/9/14	73	2012	1
	カッラーラ	カッラーラ国際彫刻ビエンナーレ	Carrara International Sculpture Biennale	2010/6/26	2010/10/31	128	1957	14
1 h 11 7	トリノ	トリノ・トリエンナーレ	Turin Triennial	2008/11/6	2009/2/1	88	2005	2
イタリア	フィレンツェ	フローレンス・ビエンナーレ	Florence Biennale	2013/11/30	2013/12/8	9	1997	9
	ヴェネチア	ヴェネチア・ビエンナーレ	Biennale di Venezia	2013/6/1	2013/11/24	177	1895	55
ウクライナ	キエフ	アルセナーレ	Arsenale	2012/7/27	2012/9/29	65	2012	1
エストニア	タリン	タリン版画トリエンナーレ	Tallinn Print Triennial	2011/1/20	2011/5/8	109	1968	15
ゼルンク	アテネ	アテネ・ビエンナーレ	Athens Biennial	2013/9/27	2013/12/1	66	2007	4
ギリシア	テッサロニキ	テッサロニキ・ビエンナーレ	Thessaloniki Biennale of Contemporary Art	2013/9/18	2014/1/31	136	2007	4
グルジア	トビリシ	トビリシ・ビエンナーレ	Tbilisi Triennial	2012/10/19	2012/11/20	33	2012	1
スウェーデン	ヨーテボリ	ヨーテボリ・ビエンナーレ	Göteborg International Biennial for Contemporary Art	2013/9/7	2013/11/17	72	2001	7
スペイン	ポンテベドラ	ポンテベドラ・ビエンナーレ	Bienal de Arte de Pontevedra	2010/6/4	2010/9/12	101	1969	31
スロベニア	リュブリュアナ	リュブリュアナ・ビエンナーレ	Ljubljana Biennial of Graphic Arts	2013/9/14	2013/11/24	72	1955	30
チェコ	プラハ	プラハ・ビエンナーレ	Prague Biennale	2013/6/6	2013/9/15	102	2003	6

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催日数	開始年	開催回数
	カッセル	ドクメンタ	documenta	2012/6/9	2012/9/16	100	1955	13
	フェルバッハ	フェルバッハ・トリエンナーレ	Fellbach Triennial of Small-scale Sculpture	2013/6/22	2013/9/29	100	1980	12
ドイツ	ベルリン	ベルリン・ビエンナーレ	Berlin Biennale for Contemporary Art	2012/5/25	2012/7/22	59	1998	7
	ボン	ビデオナーレ	Festival for Contemporary Video Art	2013/2/15	2013/4/7	52	1984	14
	ミュンスター	ミュンスター彫刻プロジェクト	Skulptur Projekte Münster	2007/6/16	2007/9/30	107	1977	4
	カベルヴォーグ	ロフォーテン国際アート・フェスティバル	Lofoten International Art Festival LIAF	2013/9/6	2013/9/26	21	1992	11
ノルウェー	ベルゲン	ベルゲン・アッセンブリ	Bergen Assembly	2013/8/31	2013/10/27	58	2013	1
	モス	モメンタム	Momentum	2013/6/22	2013/9/29	100	1998	7
	パリ	ラ・トリエンナーレ	La Triennale	2012/4/20	2012/8/26	129	2006	3
	リヨン	リョン・ビエンナーレ	Biennale de Lyon	2013/9/12	2014/1/5	116	1991	12
フランス	ルアーブル	アルス:ルアーブル	Arts: Le Havre	2012/9/28	2013/5/15	230	2006	4
	レンヌ	アトリエ・ド・レンヌ	Ateliers de Rennes	2012/9/15	2012/12/9	86	2008	3
ベルギー	スコール	ボーフォール・トリエンナーレ	Beaufort Triennale	2012/3/31	2012/9/30	184	2003	4
	メヘレン	コンツアー	Contour. Biennial of Moving Image	2013/8/24	2013/11/3	72	2003	6
	ポズナン	メディテーションズ・ビエンナーレ	Mediations Biennale	2012/9/14	2012/10/14	31	2008	3
ポーランド	ワルシャワ	WROメディアアート・ビエンナーレ	WRO Media Art Biennale	2013/5/1	2013/5/9	9	1989	15
ボスニア・ヘル	ヘルツェゴビナ=				, ,			
ツェゴヴィナ	ネレトヴァ	D-0 ARK アンダーグラウンド	D-0 ARK Underground	2013/4/26	2013/6/26	62	2011	2
ポルトガル	セルベイラ	セルベイラ・ビエンナーレ	Cerveira Bienal	2013/7/27	2013/9/14	50	1978	17
ラトビア	リガ	リガ彫刻クアドリエンナーレ	Sculpture Quadrennial Riga	2012/10/5		52	1972	11
リトアニア	ヴィルニュス	バルティック・トリエンナーレ	Baltic Triennial of International Art	2012/8/24	2012/9/9	17	1979	11
	ブカレスト	ブカレスト・ビエンナーレ	Bucharest Biennale	2012/5/25	2012/7/22	59	2005	5
ルーマニア	ブカレスト	ビエンナーレ・オブ・ヤングアーティスト	The Biennial of Young Artists		2012/11/11	32	2004	5
	エカテリンブルク	ウラル産業ビエンナーレ	Ural Industrial Biennial	2012/9/13		40	2010	2
		モスクワ・ビエンナーレ	Moscow Biennale	2013/9/20		31	2005	5
ロシア	モスクワ	モスクワ・インターナショナル・	Moscow International Biennale for Young				•	
		ビエンナーレ・フォア・ヤングアート	Art	2012/7/10	2012/8/10	32	2008	3

開催国•都市	名称(日本語)	名称(英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
用惟国*和川					日数	年	回数
9 tz 11.	マニフェスタ	Manifesta, European Biennial of Contemporary Art	2012/6/2	2012/9/30	121	1996	9
ヨーロッパ各地	欧州・地中海若手アーティスト・ビエンナーレ	Biennial of Young Artists from Europe and the Mediterranean	2013/6/6	2013/8/31	87	1985	16

(北米)

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
	所任和可	4777 (日本田)	石柳 (天阳)	711.7H H	小: 1 日	日数	年	回数
	カリフォルニア	カリフォルニア・パシフィック・トリエンナーレ	California-Pacific Triennial	2013/6/30	2013/10/17	110	1984	1
	<i>カッフオルー</i>	ゼロワン・ビエンナーレ	ZERO1 Biennial	2012/9/12	2014/12/8	818	2006	4
	サンタフェ	サンタフェ国際ビエンナーレ	Site Santa Fe International Biennial	2010/6/20	2011/1/2	197	1995	8
	デンバー	バイエニアル・オブ・アメリカ	Biennial of the Americas	2013/7/16	2013/9/2	49	2011	2
		グレーター・ニューヨーク	Greater New York	2010/3/23	2010/10/18	210	2000	3
7114		ハーレム・ビエンナーレ	Harlem Biennale	2012/5/3	2012/7/1	60	2010	2
アメリカ	ニューヨーク	ニューミュージアム・トリエンナーレ	New Museum Triennial	2012/2/15	2012/4/22	68	2009	2
		パフォーマ	Performa	2013/12/12	2013/12/14	3	2005	5
		プロスペクト・ニューオリンズ	Prospect New Orleans	2011/10/22	2012/1/29	100	2008	2
		ホイットニー・ビエンナーレ	Whitney Biennial	2014/3/7	2014/5/25	80	1932	77
	ピッツバーグ	カーネギー・インターナショナル	Carnegie International	2013/10/5	2014/3/16	163	1896	56
	ロサンゼルス	メイド・イン L.A.	Made in L.A.	2012/6/2	2012/9/2	93	2012	1
カナガ	ケベック	マニフダール	Manif d'art	2012/5/3	2012/6/3	32	2002	6
カナダ	モントリオール	モントリオール・ビエンナーレ	La Biennale de Montréal	2011/5/1	2011/5/31	31	1998	7

(南米)

19 11 7								
開催国	開催都市	名称(日本語)	 名称(英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
加胜国	いけ田田田	>U/V), (H/±HU)	石柳 (入間)	ם מענוען	W< 1 H	日数	年	回数
アルゼンチン	ウシュアイア	エンド・オブ・ザ・ワールド・ビエンナーレ	Biennial at the End of the World	2011/9/30	2011/10/13	14	2007	3
ウルグアイ	モンテビデオ	モンテビデオ・トリエンナーレ	Montevideo Bienal	2012/11/23	2013/3/30	128	2012	1
エクアドル	クエンカ	クエンカ国際ビエンナーレ	Cuenca International Biennial	2014/3/28	2014/6/27	92	1992	12
キューバ	ハバナ	ハバナ・ビエンナーレ	Havana Biennale	2012/5/11	2012/6/11	32	1984	11
コロンビア	ボゴタ	カルタヘナ・デ・インディアス・ビエンナーレ	Cartagena de Indias Biennial	2014/2/7	2014/4/7	60	2014	1
ハイチ	ポルトープランス	ゲットー・ビエンナーレ	Ghetto Biennale	2013/12/7	2013/12/14	8	2009	3
パナマ	パナマ	パナマ・ビエンナーレ	Panama Biennial	2013/1/15	2013/2/17	34	2002	8
プエルトリコ	サンフアン	サンフアン・ポリ/グラフィック・トリエンナーレ	San Juan Poly/Graphic Triennial	2012/4/28	2012/8/25	120	2004	3
	クリチバ	クリチバ・ビエンナーレ	Curitiba Bienal	2013/9/1	2013/12/1	92	1993	11
ブラジル	サンパウロ	サンパウロ・ビエンナーレ	São Paulo Biennial	2012/9/7	2012/12/9	94	2012	30
	メルスコール	メルスコール・ビエンナーレ	Mercosul Biennial	2013/9/13	2013/11/10	59	1996	9

(アジア・パシフィック)

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称(英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
加胜国	いは田田りい	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	7177. (XIII)	ם מענוען	小く 1 日	日数	年	回数
インド	ケーララ州	コーチ・ムジリス・ビエンナーレ	Kochi-Muziris Biennale	2012/12/12	2013/3/13	92	2012	1
インドネシア	ジャカルタ	ジャカルタ・ビエンナーレ	Jakarta Biennale	2013/11/9	2013/11/30	22	1968	15
1 ントホン)	ジョグジャカルタ	ジョグジャ・ビエンナーレ	Biennale Jogja	2013/11/16	2014/1/6	52	1988	12
	アデレード	アデレード・ビエンナーレ	Adelaide Biennial of Australian Art	2014/3/1	2014/6/11	103	1990	13
オーストラリア	クイーンズランド	アジア・パシフィック・トリエンナーレ	Asia Pacific Triennial of Contemporary Art	2012/12/8	2013/4/14	128	1993	7
	シドニー	シドニー・ビエンナーレ	Sydney Biennial	2014/3/21	2014/6/9	81	1973	19

開催国・地域	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
用准图 地坝	州(桂伯)111	和你(日本語)	石が (火 品)	 	业≤ 1 □	日数	年	回数
	ソウル	メディアシティ・ソウル	Media City Seoul	2012/9/9	2012/11/4	57	2000	7
	安養市	安養パブリックアート・プロジェクト	Anyang Public Art Project	2010/9/4	2010/10/31	58	2005	3
韓国	釜山	釜山ビエンナーレ	Busan Biennale	2012/9/22	2012/11/24	64	2000	7
	光州	光州ビエンナーレ	Gwangju Biennale	2012/9/7	2012/11/11	66	1995	9
	仁川	仁川女性アーティスト・ビエンナーレ	Incheon Women Artists' Biennale	2011/10/1	2011/10/30	30	2004	5
シンガポール	シンガポール	シンガポール・ビエンナーレ	Singapore Biennale	2013/10/26	2014/2/16	114	2006	4
スリランカ	コロンボ	コロンボ・ビエンナーレ	Colombo Art Biennale	2014/1/31	2014/2/9	10	2010	3
	台中	台湾ビエンナーレ	Asian Art Biennial	2013/10/5	2014/1/5	93	2008	4
台湾	台北	關渡ビエンナーレ	Kuandu Biennale	2012/9/29	2012/12/26	89	2008	3
	日北	台北ビエンナーレ	Taipei Biennial	2012/9/29	2013/1/13	107	1998	8
J.	広東省広州	広州トリエンナーレ	Guangzhou Triennial	2012/9/28	2012/12/16	80	2002	4
	四川省成都	成都ビエンナーレ	Chengdu Biennale	2011/9/29	2011/10/30	32	2001	5
	上海	上海ビエンナーレ	Shanghai Biennale	2012/10/2	2013/3/31	181	1996	9
中国	深圳	深圳 BI シティ・ビエンナーレ	Shenzhen Bi-City Biennale of Urbanism/Architecture	2013/12/14	2014/2/28	77	2005	5
		深圳彫刻ビエンナーレ	Shenzhen Sculpture Biennale	2012/5/12	2012/8/31	112	1998	7
		北京ビエンナーレ	Beijing International Art Biennale	2012/9/28	2012/10/22	25	2003	5
	北京	中央美術学院美術館ビエンナーレ	CAFAM Biennale	2014/2/28	2014/4/20	52	2011	2
		西中国国際ビエンナーレ	Western China International Art Biennale	2012/10/12	2013/1/12	93	2010	2
- 33 = 12	オークランド	オークランド・トリエンナーレ	Auckland Triennial	2013/5/10	2013/8/11	94	2001	5
ニュージーランド	クライストチャーチ	スケープ:クライストチャーチ・ビエンナーレ	SCAPE Christcharch Biennale	2013/9/27	2013/11/9	44	2000	7
バングラディシュ	ダッカ	アジアン・アート・ビエンナーレ	Asian Art Biennale	2012/12/1	2012/12/31	31	1981	15
モンゴル	ウランバートル	モンゴリア・ランドアート・ビエンナーレ	Mongolia 360° Land Art Biennial	2012/8/6	2012/8/31	26	2010	2

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
州准四			石柳(癸亩)	州炉口	业≤ 】 □	日数	年	回数
	愛知	あいちトリエンナーレ	Aichi Triennale	2013/8/10	2013/10/27	79	2010	2
	横浜	横浜トリエンナーレ	Yokohama International Triennial of	2011/8/6	2011/11/6	93	2001	4
			Contemporary Art		,, -			_
	新潟	越後妻有トリエンナーレ	Echigo Tsumari Art Triennial	2012/7/29	2012/9/17	51	2000	4
日本				2013/3/20	2013/4/21			
	香川、岡山等	瀬戸内国際芸術祭	Setouchi Triennale	2013/7/20	2013/9/1	108	2010	2
				2013/10/5	2013/11/4			
i	福岡	福岡アジア美術トリエンナーレ	Fukuoka Asian Art Triennale	2009/9/5	2009/11/23	80	1999	4
	兵庫	神戸ビエンナーレ	KOBE Biennale	2013/10/1	2013/12/1	62	2007	4

(中東)

胆龙豆	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
開催国			4 () 			日数	年	回数
UAE	シャルジャ	シャルジャ・ビエンナーレ	Sharjah Biennial	2013/3/13	2013/5/13	62	1993	11
レバノン	ベイルート	ミーティング・ポインツ	Meeting Points	2013/10/25	2014/2/16	115	2001	7
	イスタンブール	イスタンブール・ビエンナーレ	Istanbul Biennial	2013/9/14	2013/10/20	37	1987	13
トルコ	スィノップ	スィノパール	Sinopale	2012/8/24	2012/9/12	20	2006	4
\[\bar{\bar{\bar{\bar{\bar{\bar{\bar{	チャナッカレ	チャナッカレ・ビエンナーレ	Canakkale Biennial	2012/9/28	2012/11/3	37	2008	3
	マルディン	マルディン・ビエンナーレ	Mardin Biennial	2012/9/21	2012/10/21	31	2010	2
パレスチナ	エルサレム	カランディア・インターナショナル	Qalandiya International	2012/11/1	2012/11/15	15	2012	1
ハレステナ	ラッマラー	リワーク・ビエンナーレ	Biennale Riwaq	2012/11/1	2012/11/15	15	2005	4
モロッコ	マラケシュ	マラケシュ・ビエンナーレ	Marrakech Biennale	2014/2/26	2014/3/2	5	2005	5

(アフリカ)

開催国	開催都市	名称 (日本語)	名称 (英語)	開始日	終了日	開催	開始	開催
州准凶					₩£. 1 ⊟	日数	年	回数
アルジェリア	オラン	オラン地中海ビエンナーレ	Biennale Méditerranéenne d'art contemporain d'Oran	2012/3/29	2012/3/31	3	2010	2
カメルーン	ドゥアラ	サロン・アーバイン・デ・ドゥアラ	SUD, Salon Urbain de Douala	2013/12/3	2013/12/10	8	2007	3
コンゴ	ルブンバシ	ルブンバシ・ビエンナーレ	Biennale de Lubumbashi	2013/10/1	2013/10/6	6	2008	3
サントメ プリンシペ	サントメ	サントメプリンシペ・ビエンナーレ	São Tome e Príncipe Biennial	2013/11/1	2013/11/30	30	1995	7
セネガル	ダカール	ダカール:アフリカ現代美術ビエンナーレ	Dak'Art: African Contemporary Art Biennale	2012/5/11	2012/6/10	31	1992	10
ナイジェリア	ラゴス	アフィリ・パフォーマ・ビエンナーレ	AFiRIperFOMA Biennial	2013/11/8	2013/11/22	15	2013	1
西アフリカ	タンザニア等	東アフリカ・ビエンナーレ	East Africa Art Biennale	2013/11/9	2013/12/1	23	2003	6
ベニン	ベニン広域	ベニン・リガード・ビエンナーレ	Benin Regard Biennale	2012/11/8	2013/1/13	67	2012	1
マリ	バマコ	ランコントル・デ・バマコ	Rencontres de Bamako, Biennale Africaine de la Photographie	2011/11/1	2012/1/1	62	1994	8

2-2. 世界の主な国際美術展

本章では、以下の国際美術展について調査を行った結果を示している。

《世界の代表的な現代美術の国際美術展》

- 1) ヴェネチア・ビエンナーレ (Venice Biennial)、イタリア
- 2) ドクメンタ (documenta)、ドイツ
- 3) ミュンスター彫刻プロジェクト(Skulptur Projekte Münster)、ドイツ
- 4) リヨン・ビエンナーレ (Biennale de Lyon)、フランス
- 5) イスタンブール・ビエンナーレ (Istanbul Biennial)、トルコ
- 6) サンパウロ・ビエンナーレ (Bienal Internacional de Artes de São Paulo)、ブラジル
- 7) シャルジャ・ビエンナーレ (Sharjah Biennial)、UAE

《アジアの代表的な現代美術の国際美術展》

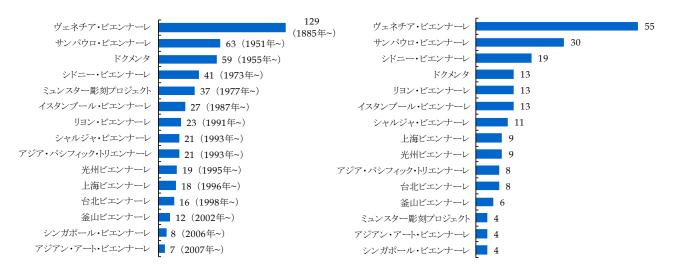
- 8) シドニー・ビエンナーレ (Biennale of Sydney)、オーストラリア
- 9) アジア・パシフィック・トリエンナーレ (APT)、オーストラリア
- 10) 上海ビエンナーレ (Shanghai Biennale)、中国
- 11) 台北ビエンナーレ (Taipei Biennial)、台湾
- 12) アジアン・アート・ビエンナーレ (Asian Art Biennial)、台湾
- 13) 光州ビエンナーレ (Gwangju Biennale)、韓国
- 14) 釜山ビエンナーレ (Busan Biennale)、韓国
- 15) シンガポール・ビエンナーレ (Singapore Biennale)、シンガポール

これらの国際美術展について、以下のような項目の整理を行っている。

- 基本情報(開始時期、開催回数、実施頻度、開催都市、主な会場、会期、等)
- 沿革
- ・会場の詳細
- 運営方法
- · 入場料 · 来場者数
- ・キュレーター・参加作家

これらの国際美術展の継続年数や実施回数の比較を行った結果が図表・3である2。

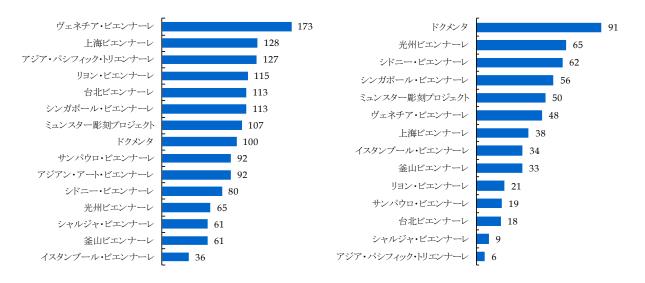
最も歴史が長く、実施回数が多かったのはヴェネチア・ビエンナーレ、次いでサンパウロ・ビエンナーレであった。また、ドクメンタ、シドニー・ビエンナーレ、ミュンスター彫刻プロジェクトも比較的歴史が長かった。アジアの国際美術展の多くは1990年代以降に実施されたものであり、比較的歴史が浅いものが多かった。



図表・3 各国際美術展の継続年数(左)・実施回数(右)

また、会期日数をみると、ヴェネチア・ビエンナーレが最も長く、約6ヶ月程度実施しているのに対して、約1ヶ月程度のイスタンブール・ビエンナーレ、約2ヶ月程度の光州ビエンナーレ、シャルジャ・ビエンナーレ、釜山ビエンナーレのようなものもあり、ばらつきがみられた。

来場者数はドクメンタが最も多く約91万人であった。



図表・4 各国際美術展の会期日数(左、日)・来場者数(右、万人)

2000 年以降に実施されたこれらの国際美術展への参加回数が多い日本人作家を整理したものが図表・5、図表・6 である。オノ・ヨーコ、さわひらきなどの参加回数が多かった。

_

² 直近の開催回の情報を基に比較を行っている。

図表・5 国際美術展への日本作家の参加回数

参加回数	作家名
6 旦	オノ・ヨーコ、さわひらき
4 回	やなぎみわ、高嶺格、小谷元彦、草間彌生、島袋道浩、小沢剛
2 🖂	束芋、会田誠、岩崎貴宏、篠田太郎、森万里子、川俣正、大竹伸朗、
3 回	中谷芙二子、田中功起、田中敦子、畠山直哉
	Chim↑Pom、パラモデル、塩田千春、下道基行、笠原恵実子、宮島達男、
2 回	小金沢健人、松蔭浩之、照屋勇賢、杉本博司、折元立身、曽根裕、大巻伸嗣、
	中山ダイスケ、中村政人、中村哲也、藤本由起夫、麻谷宏

図表・6 日本作家の参加国際美術展

参加回数	作家	国際美術展名	実施回	実施年
		シドニー・ビエンナーレ	第 12 回	2000年
		ヴェネチア・ビエンナーレ	第 50 回	2003年
		上海ビエンナーレ	第5回	2004年
	オノ・ヨーコ	台北ビエンナーレ	第4回	2004年
		ヴェネチア・ビエンナーレ	第 53 回	2009年
		リヨン・ビエンナーレ	第 13 回	2013年
6 回		リヨン・ビエンナーレ	第8回	2003年
		アジアン・アート・ビエンナーレ	第1回	2007年
	J-1-71 > 4.	釜山ビエンナーレ	第4回	2008年
	さわひらき	アジア・パシフィック・トリエンナーレ	第6回	2009年
		シドニー・ビエンナーレ	第 17 回	2010年
		リヨン・ビエンナーレ	第 13 回	2013年
		リヨン・ビエンナーレ	第7回	2001年
	めわざりも	シドニー・ビエンナーレ	第 13 回	2002年
	やなぎみわ	光州ビエンナーレ	第6回	2006年
		ヴェネチア・ビエンナーレ (日本館)	第 53 回	2009年
		ヴェネチア・ビエンナーレ	第 50 回	2003年
	高嶺格	釜山ビエンナーレ	第2回	2004年
	同領俗	アジア・パシフィック・トリエンナーレ	第7回	2012年
		釜山ビエンナーレ	第6回	2012年
		リヨン・ビエンナーレ	第6回	2000年
	小谷元彦	イスタンブール・ビエンナーレ	第7回	2001年
	小台儿多	光州ビエンナーレ	第4回	2002年
4 回		ヴェネチア・ビエンナーレ (日本館)	第 50 回	2003年
4 🖽		シドニー・ビエンナーレ	第 12 回	2000年
	草間彌生	アジア・パシフィック・トリエンナーレ	第4回	2002年
	平间 州工	リヨン・ビエンナーレ	第8回	2003年
		シンガポール・ビエンナーレ	第1回	2006年
		ヴェネチア・ビエンナーレ	第 50 回	2003年
	島袋道浩	サンパウロ・ビエンナーレ	第 27 回	2006年
	西衣担旧	シャルジャ・ビエンナーレ	第 11 回	2013年
		台北ビエンナーレ	第9回	2014年
		ヴェネチア・ビエンナーレ	第 50 回	2003年
	小海圖	イスタンブール・ビエンナーレ	第8回	2003年
	小沢剛	アジア・パシフィック・トリエンナーレ	第5回	2006年
		リヨン・ビエンナーレ	第 11 回	2009年

1)ヴェネチア・ビエンナーレ(Venice Biennial)

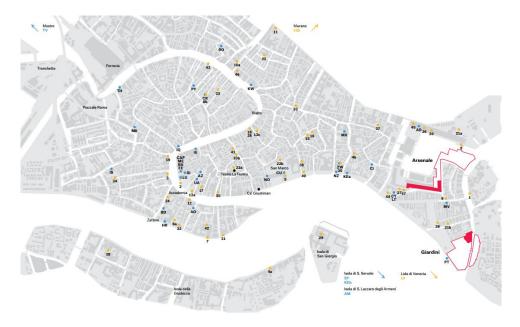
(1)基本情報·沿革

開始時期	1895 年
開催回数	55 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	イタリア・ヴェネチア (Venice)
主な会場	ジャルディーニ(Giardini)、アルセナーレ(Arsenale)、 ヴェネチア内各所
	・173 日間
会期	・2013年6月1日(土)~11月24日(日)
	・10 時~18 時

- ・1893 年、イタリア国王と王妃の銀婚式を記念して、ヴェネチア・ビエンナーレの開催が市議会で決定される。その2年後の1895年に初回のビエンナーレが開催されている。
- ・1930年に、開催主体がヴェネチア市からイタリア政府に移る。
- ・その後は、美術以外にも領域を拡大し、1932年には音楽、映画、演劇の祭典(ヴェネチア国際 音楽祭、ヴェネチア国際映画祭、ヴェネチア国際演劇祭)、1979年には建築の祭典(美術展が実 施されない年に、美術展と同じ場所で行われる)を開始している。
- ・2004年、会期以外の時期にも活動を行えるように財団が設立され、運営を行っている。

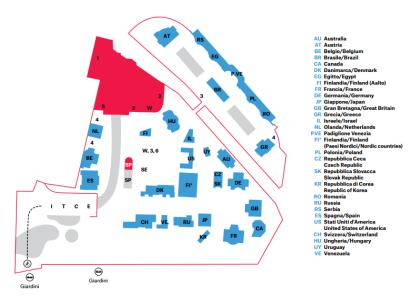
(2)主な会場・運営方法

- ・ヴェネチア・ビエンナーレは2年に1回の頻度で実施されている(1916~1918年、1944~1946年 の間は大戦の影響を受け中断されている)。
- ・企画展示部分と国別展示、関連企画から構成され、企画展示では、ヴェネチア・ビエンナーレ事務局が毎回ディレクターを任命し、ディレクターがテーマ、作家の選定を行う。国別展示では、 各国がキュレーター、テーマ、作家を選定し展示を行う。
- ・会場は、ジャルディーニとアルセナーレをメイン会場としつつも、ヴェネチア各所でも国別展示や関連企画が実施されている(2013年には88ヶ国が参加)。
- ・古くから参加している国・地域はジャルディーニにパヴィリオンを構えているが、参加国・地域の増加により、ジャルディーニにパヴィリオンを構えられなくなった国・地域は、アルセナーレ、もしくはヴェネチア内の建築・屋外にパヴィリオンを構えるようになっている(日本は1956年からジャルディーニに日本館を構えている)。
- ・ジャルディーニには 29 ヶ国・地域のパヴィリオンが常設され、また、企画展示の会場となるセントラル・パヴィリオン (2,800m²) が立地している。
 - -29 ヶ国・地域の内訳は、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、デンマーク、エジプト、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、イギリス、ギリシア、イスラエル、オランダ、ヴェネチア、北欧 (ノルウェー、フィンランド、スウェーデン)、ポーランド、チェコ&スロバキア、韓国、ルーマニア、ロシア、セルビア、スペイン、アメリカ、スイス、ハンガリー、ウルグアイ、ベネズエラ



図表・7 ヴェネチア・ビエンナーレの会場

※赤枠の部分がメイン会場(アルセナーレ、ジャルディーニ)、青字で示されているものがヴェネチアに展開されている各国のパヴィリオン、 黄色で示されているものがヴェネチア・ビエンナーレの関連イベント。 出所)ヴェネチア・ビエンナーレ Web サイト



図表・8 ジャルディーニのマップ

※赤で示されている部分がセントラル・パヴィリオン 出所)ヴェネチア・ビエンナーレ Web サイト

- ・国立造船所として使用されていたアルセナーレは企画展示の会場として使用されるとともに、各国・地域の展示も行われている(2013年は16ヶ国・地域が展示を行った)。敷地面積は50,000 m^2 (屋内は25,000 m^2)に及ぶ。
- ・展示会場は財団の所有物ではなく、ヴェネチア市議会により使用を認められたものか、イタリア 海軍や内国歳入庁との合意のもと認可されたものである。

Shuttle per/to
Arsenale Nord

Arsenale

E.C.I.T.W.P.S

1,2,3,4

Libano/Lebanon

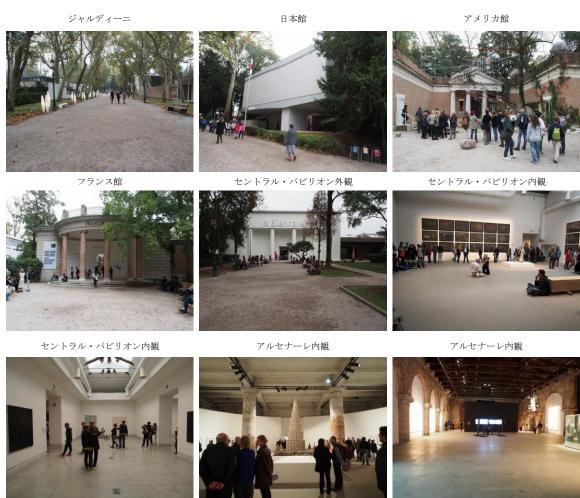
C.C.Ile/Chile

Repubblica del Kosvo
Repubblica del Indenesia
Reproded Bahrain
Kingdom of Bahrain
Kingdom of Bahrain
Kingdom of Bahrain
Ringdom of Ringdom of

図表・9 アルセナーレのマップ

出所) ヴェネチア・ビエンナーレ Web サイト

図表・10 ヴェネチア・ビエンナーレの風景



・ジャルディーニとアルセナーレの企画(国別企画は除く)の実施予算(2013年)は、430万ドル (約4.4億円、230万ドルは政府からの支出、200万ドルは個人や財団等からの寄付)とされている。国別展示は各国の自前の支出によることが多い。

・国や作家には、国別パヴィリオン部門として金獅子賞や特別表彰が、企画展参加アーティスト部門として金獅子賞、銀獅子賞、特別表彰などが主催者側から付与され、これらの賞を巡って国同士で争う側面があることから、美術のオリンピックと称されることもある。

(3)入場料·来場者数

- ・ヴェネチア・ビエンナーレの1日チケット(2会場それぞれ1回のみ入場が可能)は25ユーロ(約3,500円)、2日チケットは30ユーロ(約4,200円)である。
- ・第 55 回 (2013 年) の来場者数は約 47.5 万人、第 54 回 (2011 年) の来場者数は約 44 万人であった。若者や学生は全入場者の 32%を占め、また、グループで訪れた学生は全入場者の 21%を占めた。

(4)キュレーター・参加作家

・ヴェネチア・ビエンナーレでは、ディレクターを立て、ジャルディーニのセントラル・パヴィリオン及びアルセナーレのキュレーションを行っている。

開催回	開催年	ディレクター
第 50 回	2003年	Francesco Bonami (イタリア)
第 51 回	2005年	Maria de Corral、Rosa Martinez(スペイン)
第 52 回	2007年	Robert Storr (アメリカ)
第 53 回	2009年	Daniel Birnbaum(スウェーデン)
第 54 回	2011年	Bice Curiger (スイス)
第 55 回	2013年	Massimiliano Gioni(イタリア)
第 56 回	2015年	Okwui Enwezor(ナイジェリア)

図表・11 ヴェネチア・ビエンナーレのディレクター

- ・2013年のヴェネチア・ビエンナーレのジャルディーニとアルセナーレの企画には、38ヶ国から 161人の作家が参加した。また、国別展示では88の国・地域がパヴィリオンを設け参加した(そのうち10ヶ国が初参加)。あわせて、国際的な組織や機関が47の関連企画を実施した。
- ・日本はこれまで、日本館において次表のようなコミッショナーと作家が参加してきた。

開催年	コミッショナー	参加作家
1990年	建畠晢	遠藤利克、村岡三郎
1993年	建畠晢	草間彌生
1995年	伊東順二	日比野克彦、河口洋一郎、崔在銀、千住博
1997年	南條史生	内藤礼
1999年	塩田純一	宮島達男
2001年	逢坂恵理子	畠山直哉、中村政人、藤本由起夫
2003年	長谷川祐子	曽根裕、小谷元彦
2005年	笠原美智子	石内都
2007年	港千尋	岡部昌生
2009年	南嶌宏	やなぎみわ
2011年	植松由佳	束芋
2013年	蔵屋美香	田中功起
	1990 年 1993 年 1995 年 1997 年 1999 年 2001 年 2005 年 2007 年 2009 年 2011 年	1990 年 建畠晢 1993 年 建畠晢 1995 年 伊東順二 1997 年 南條史生 1999 年 塩田純一 2001 年 逢坂恵理子 2003 年 長谷川祐子 2005 年 笠原美智子 2007 年 港千尋 2009 年 南嶌宏 2011 年 植松由佳

図表・12 ヴェネチア・ビエンナーレ日本館のコミッショナーと参加作家

・また、ジャルディーニやアルセナーレにおける企画展示には次表のような日本出身の作家が参加 してきた。

		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
開催回	開催年	出品作家
第 46 回	1995 年	幸村真佐男
第 47 回	1997年	森万里子
第 48 回	1999 年	_
第 49 回	2001年	折元立身
第 50 回	2003年	曽根裕、高嶺格、小沢剛、土屋信子、島袋道浩、オノ・ヨーコ、
		磯崎新
第 51 回	2005年	森万里子
第 52 回	2007年	加藤泉、藤本由起夫、束芋、米田知子、森弘治
举 52 回	回 2009年	具体(金山明、元永定正、村上三郎、嶋本昭三、白髪一雄、
第 53 回		田中敦子、山崎つる子、吉原治良、吉原通雄)、オノ・ヨーコ
第 54 回	2011年	_
第 55 回	2013 年	大竹伸朗、吉行耕平、澤田真一

図表・13 ヴェネチア・ビエンナーレ企画展示への参加作家

2)ドクメンタ(documenta)

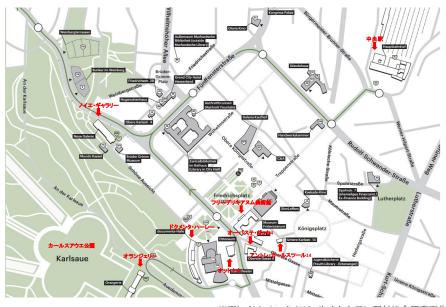
(1)基本情報·沿革

開始時期	1955 年
開催回数	13 回
実施頻度 5年に1回	
開催都市	ドイツ・カッセル (Kassel)
主な会場	フリーデリキアヌム美術館、ノイエ・ギャラリーなど
	・100 日間
会期	・2012年6月9日(土)~9月16日(日)
	・10 時~20 時

- ・ドクメンタは、カッセル出身の画家であり教授のアルノルト・ボーデにより、自国の誤った啓蒙 活動を自省し、ナチ独裁政権によって分断されてしまった国際社会との調和をはかる目的で 1955 年に開催された。
- ・初回は同年にカッセルで開催された「第3回西ドイツ連邦庭園見本市」の関連企画との位置づけだった。当初は $4\sim5$ 年おきに実施されてきたが、第5回目(1972年)以降は5年毎の開催に固定されている。
- ・1人のディレクターがテーマと作家の選定を一任され、大きな権限を有している。

(2)主な会場・運営方法

・ドクメンタは実施会場を固定していない。第 13 回(2012 年)では、フリーデリキアヌム美術館(Museum Fridericianum)、ノイエ・ギャラリー(Neue Galerie)、ドクメンタ・ハレ(documenta-Halle)、オットナム(Ottoneum)、カールスアウエ公園(Karlsaue)、中央駅(Hauptbahnhof)、オランジェリー(Orangerie)、オーバステ・ガッセ 4(Oberste Gasse 4)、アントレ・カール通り 14(Untere Karlsstr.14)、グリム兄弟博物館(Brothers Grimm Museum)、など様々な場所で開催されている。



図表・14 ドクメンタの主な会場

出所)ドクメンタ Web サイトを元に野村総合研究所作成

・その中でもフリーデリキアヌム美術館は初回(初回時は廃墟であった)から継続して使用されており、ドクメンタ・ハレ(第9回~)、ノイエ・ギャラリー(第4~7、9、12、13回で使用)、オランジェリー(第2~4、6~8、10、11、13回で使用)なども恒例の会場となっている。

図表・15 ドクメンタの主な会場

フリーデリキアヌム美術館







(3)入場料·来場者数

- ・ドクメンタでは、1 日チケットは 20 ユーロ (約 2,800 円)、2 日チケットは 35 ユーロ (約 4,900 円)、シーズンチケットは 100 ユーロ (約 14,000 円) である。
- ・第13回(2012年)の来場者数は約90.5万人であった。

図表・16 ドクメンタへの来場者数

開催回	開催年	会期	予算 (千ドル)	来場者数
第1回	1955 年	約9週間	90	約 13.0 万人
第2回	1959 年	約 13 週間	237	約 13.4 万人
第3回	1964 年	約 14 週間	467	約 20.0 万人
第4回	1968 年	約 14 週間	706	約 20.7 万人
第5回	1972 年	約 14 週間	1,091	約 22.0 万人
第6回	1977年	約 14 週間	2,070	約 35.5 万人
第7回	1982 年	約 14 週間	2,863	約 38.7 万人
第8回	1987年	約 14 週間	4,978	約 48.7 万人
第9回	1992年	約 14 週間	12,306	約 61.6 万人
第10回	1997年	約 14 週間	12,540	約 62.9 万人
第 11 回	2002年	約 14 週間	16,620	約 65.1 万人
第12回	2007年	約 14 週間	34,730	約 75.1 万人
第 13 回	2012年	約 14 週間	38,341	約 90.5 万人

出所)art-finance.com「The Documenta Effect」を元に野村総合研究所作成

(4)キュレーター・参加作家

- ・ドクメンタでは第1~4回までドクメンタの創始者であるアルノルト・ボーデがアーティスティック・ディレクターも担っていた。
- ・第5回以降は国際的に著名なキュレーターを迎えている。
- ・第13回(2012年)には約200名のアーティストが参加した。

図表・17 ドクメンタのアーティスティック・ディレクター・参加作家数

開催回	開催年	アーティスティック・ディレクター	参加作家数
第1回	1955 年	Arnold Bode	148
第2回	1959 年	Arnold Bode	339
第3回	1964 年	Arnold Bode	353
第4回	1968 年	Arnold Bode	150
第5回	1972年	Harald Szeemann(スイス)	222
第6回	1977年	Manfred Schneckenburger (ドイツ)	622
第7回	1982 年	Rudi Fuchs(オランダ)	181
第8回	1987年	Manfred Schneckenburger (ドイツ)	317
第9回	1992年	Jan Hoet(ベルギー)	195
第 10 回	1997年	Catherine David(フランス)	138
第 11 回	2002年	Okwui Enwezor(ナイジェリア)	117
第12回	2007年	Roger M.Buergel (ドイツ)	118
第13回	2012年	Carolyn Christov-Bakargiev(アメリカ)	194
第 14 回	2017年	Adam Szymczyk(ポーランド)	_

	開催回開催年		参加作家			
第8回 1		1987年	磯崎新、出光真子、遠藤利克、小野陽子、川俣正、 鈴木昭男、中井恒夫、中嶋興、吉澤美香			
	第9回	1992年	片瀬和夫、川俣正、竹岡雄二、長沢英俊、舟越桂			
	第 10 回	1997年	河原温			
	第 11 回	2002年	宮本隆司			
	第 12 回	2007年	青木陵子、田中敦子			
	笙 13 回	2012 年	大竹伯朗			

図表・18 日本からの参加作家

3)ミュンスター彫刻プロジェクト(Skulptur Projekte Münster)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1977 年
開催回数	4 回
実施頻度	10年に1回
開催都市	ドイツ・ミュンスター(Münster)
主な会場	ミュンスター市内各所
∧ ₩п	・107 日間
会期	・2007年6月16日(土)~9月30日(日)

- ・ミュンスター彫刻プロジェクトは1977年から開始されている。
- ・1970年に彫刻家のジョージ・リッキー(George Rickey)がミュンスター市に彫刻の寄贈を提案 したが、市や住民が難色を示したことから、この街におけるパブリックアートへの理解の促進を 期して、ヴェストファーレン州立美術館(Westfälisches Landesmuseum)の館長のクラウス・バ スマン(Klaus Bussmann)が 1977年に始めた展覧会に端を発する。
- ・1997年の第1回は美術館内で行われた展覧会の関連企画として行われたものである。

(2)主な会場・運営方法

図表・19 ミュンスター彫刻プロジェクトの会場



出所) ミュンスター彫刻プロジェクト Web サイト

- ・10年に1回の頻度で実施され、会期は3ヶ月程度である。10年おきに新作が制作されているが、 各回のうち一部の作品はミュンスター市によって購入され、継続して展示されている。現在では、 恒常的に30の作品が展示されている。
- ・全体予算は約500万ユーロ(約7億円)である。
- ・予算はノルトライン=ヴェストファーレン州(State of North Rhine-Westphalia)、ファーレン・ リッペの地域協会(the Landschaftsverband Westfalen-Lippe: LWL)、ミュンスター市が費用を 負担している。

(3)入場料·来場者数

- ・ミュンスター彫刻プロジェクトの作品は主にどのような人々でもアクセス可能な屋外に展示して あるため、入場料は徴収していない。
- ・1997年には約50万人、2007年には約55万人が来場した。
- ・2007年の会期中の市内のホテルの予約数は前年同期より 20%以上増加し、海外からの訪問数も増加した。特に増加率が大きかったのは日本(前年比 200%増)、アメリカ(前年比 40%増)からであった。

(4)キュレーター・参加作家

- ・ミュンスター彫刻プロジェクトのキュレーターは図表・20 のとおり。第 1~4 回まで Kasper König がキュレーションを担当している。
- ・2007年の彫刻プロジェクトでは14ヶ国の36のアーティストによって34のプロジェクトが制作された。

開催回 開催年 キュレーター 展覧会マネジメント: Klaus Bußmann 第1回 1977年 プロジェクト担当: Kasper König コンセプト作成・ショーオーガナイズ: 第2回 1987年 Klaus Bußmann, Kasper König 第3回 1997年 キュレーター: Kasper König 第4回 2007年 | キュレーター: Brigitte Franzen、Kasper König

図表・20 ミュンスター彫刻プロジェクトのキュレーター

図表・21 ミュンスター彫刻プロジェクトへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家
加压凹	加压干	多加TF3
第1回	1977年	
第2回	1987年	川俣正、曽根裕
第3回	1997年	_
第4回	2007年	_

4)リヨン・ビエンナーレ(Biennale de Lyon)

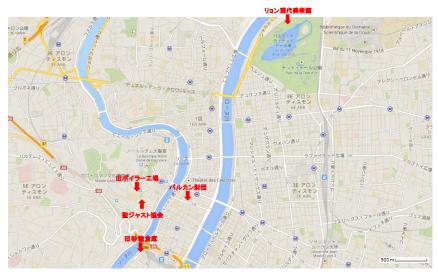
(1)基本情報・沿革

開始時期	1991 年
開催回数	13 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	フランス・リヨン (Lyon)
主な会場	リヨン現代美術館、旧砂糖倉庫、バルカン財団、旧ボイラー工場、 聖ジャスト協会
	・115 日間
会期	・2013年9月12日(木)~2014月1日5日(日)
	・11 時~18 時(土日は 11 時~19 時)

- ・1985 年にパリ・ビエンナーレが中断したのを受け、リヨン現代美術館が 1984~88 年まで毎年、「アートの 10 月 (October of the Arts)」というイベントを開催していた。
- ・フランス文化省(当時)はこのイベントに着目し、リョン市とフランス文化省によって、1991年にリョン・ビエンナーレが開始された。以降、現在に至るまでリョン市とフランス文化省の共催によって行われている。

(2)主な会場・運営方法

- ・リョン・ビエンナーレはダンス・ビエンナーレと現代美術ビエンナーレを隔年で実施している。
- ・現代美術ビエンナーレでは、アーティスティック・ディレクターであるティエリー・ラスパイユ (Thierry Raspail) がキュレーター及びキュレーションチームを選出している。
- ・ティエリーは予めキーワードを設定し、キュレーターはそのキーワードに呼応する形でテーマを 設定している
 - -第 13 回(2013 年)のキーワードは「transmission」であり、キュレーターのグンナー・B・ クヴァラン(Gunnar B. Kvaran)が設定したテーマは「The Narrative」、タイトルは 「Meanwhile... Suddenly, and Then」であった。
- ・リョン・ビエンナーレでは3つのプラットフォームを設定している。1つ目は、国際美術展(The international exhibition) と呼ばれるもので、5つの会場(リョン現代美術館(The Museum of Contemporary Art)、旧砂糖倉庫(La Sucrière)、バルカン財団(The Bullukian Foundation)、旧ボイラー工場(The Chaufferie de l'Antiquaille)、聖ジャスト協会(The Saint-Just Church))で実施されている。
- ・2つ目は、Veduta(風景画の意)と呼ばれるプロジェクトである。40以上の住宅とネットワークを形成し、アーティストをレジデンスさせている。また、そのほか60の個人の住宅でもそれぞれにリョン現代美術館の作品を展示している。
- ・3つ目は Résonance と呼ばれるもので、様々な主体によってリョンの周辺の地域(ローヌ・アルプ地方)で 200 もの関連プログラムが実施されている。
- ・第 13 回(2013 年)の実施費用は、主にグレーター・リヨン(Greater Lyon)、リヨン市(City of Lyon)、文化・コミュニケーション省(Ministry of Culture and Communications)、ローヌ・アルプ地域協議会(Rhône-Alpes Regional Council)等によって拠出されている。



図表・22 リョン・ビエンナーレの主な会場の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

(3)入場料·来場者数

- ・リョン・ビエンナーレの通常チケットは13ユーロ(約1,800円)である。
- ・第13回(2013年)の際には約20.5万人が来場した。

(4)キュレーター・参加作家

- ・各回のキュレーターは図表・23のとおり。
- ・第13回(2013年)には21の国々から70のアーティストが参加した。
- ・作品の80%はリョン・ビエンナーレのために新しく制作された作品である。

開催回	開催年	キュレーター名
第6回	2000年	Jean Hubert Martin
第7回	2001年	Anne Bertrand、Jean-Marc Chapoulie、Yvane Chapuis、
		Laurence Dreyfus、Klaus Hersche、Richard Robert、
		Guy Walter
第8回	2003年	Xavier Douroux、Franck Gautherot、Eric Troncy、
		Anne Pontegnie、Robert Nickas
第9回	2005年	Nicolas Bourriaud、Jerome Sans
第 10 回	2007年	Stéphanie Moisdon(フランス)、
		Hans Ulrich Obrist(スイス)
第 11 回	2009年	Hou Hanru(中国)
第 12 回	2011年	Victoria Noorthoorn(アルゼンチン)
第 13 回	2013年	Gunnar Kvaran(アイスランド)

図表・23 リヨン・ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	参加作家
第3回	1993年	川俣正
第4回	1995年	岩井俊雄、古橋悌二
第5回	1997年	森万里子、柳幸典
第6回	2000年	小谷元彦、中山ダイスケ、福田美蘭、村上隆
第7回	2001年	やなぎみわ
第8回	2003年	草間彌生、さわひらき、できやよい
第9回	2005年	_
第 10 回	2007年	佐藤公威、
第 11 回	2009年	岩崎貴宏、小沢剛(「西京人」として参加)
第 12 回	2011年	-
第13回	2013年	さわひらき、竹川宣彰、南隆雄、オノ・ヨーコ

図表・24 リヨン・ビエンナーレへの日本からの参加作家

5)イスタンブール・ビエンナーレ(Istanbul Biennial)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1987 年
開催回数	13 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	トルコ・イスタンブール(Istanbul)
主な会場	Antrepo no.3, Galata Greek Primary School, ARTER, SALT Beyoğlu, 5533
	・36 日間
会期	・2013年9月14日(土)~10月20日(日)
	・10 時~19 時(SALT Beyoğlu のみ 12 時~20 時)

※第13 回 (2013 年) は例年より会期が短く、第12 回 (2011 年)、第11 回 (2009 年) はともに57 目であった。

- ・イスタンブール文化芸術基金 (IKSV) により 1987 年に開始された国際美術展である。
- ・2012年からはイスタンブール・デザイン・ビエンナーレを開催している。

(2)主な会場・運営方法

図表・25 イスタンブール・ビエンナーレの主な会場の場所



出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

- ・イスタンブール・ビエンナーレは固定された会場を持たず、毎回、会場が設定されている。第 13 回イスタンブール・ビエンナーレは、Antrepo no.3、Galata Greek Primary School、ARTER、SALT Beyoğlu、5533 の 5 つの会場で実施されている(第 12 回は Antrepo no.3& no.5、第 11 回 は Antrepo No.3、Feriköy Greek School、Tütün Deposu(Tobacco Warehouse)で実施された)。
- ・アドバイザリー・ボードによって選出されるキュレーターがコンセプトの大枠を作り、それに従って様々な作家やプロジェクトが招聘される。期間中、無料の教育プログラムや、同時通訳付きのパネルディスカッション、カンファレンス、ワークショップも開催されている。
- ・アドバイザリー・ボードは Carolyn Christov-Bakargiev (アメリカ出身、美術史家・キュレーター、ドクメンタ 13 のアーティスティック・ディレクター)、Melih Fereli (トルコ出身、音楽研究者)、Hou Hanru (中国出身、批評家・キュレーター、第 10 回イスタンブール・ビエンナーレのキュレーター)、Jack Persekian (イスラエル出身、キュレーター、第 7~9 回シャルジャ・ビエンナーレのキュレーター) の 4 名である。

(3)入場料・来場者数

- ・第13回(2013年)の入場料は無料である(第12回までは入場料を徴収)。
- ・第 13 回 (2013 年) の 5 つの会場への延べ来場者は 33.7 万人であった。来場者数は、第 9 回 (2005 年) 5.1 万人、第 10 回 (2007 年) 9.1 万人、第 11 回 (2009 年) 10.1 万人、第 12 回 (2011 年) 11 万人と徐々に拡大している。

- これまでのキュレーターは次表のとおり。
- ・第 13 回のイスタンブール・ビエンナーレには 88 のアーティスト (うち 11 人がトルコ出身のアーティスト) が参加した。

開催回	開催年	キュレーター
第7回	2001年	長谷川祐子
第8回	2003年	Dan Cameron
第9回	2005年	Charles Esche、Vasif Kortun
第10回	2007年	Hou Hanru
第11回	2009年	What, How & for Whom (WHW) \ Ivet Curlin, Ana Devic \ Nataša Ilic \ Sabina Sabolovic
第12回	2011年	Adriano Pedrosa、Jens Hoffmann
第13回	2013年	Fulya Erdemci
第 14 回	2015年	Carolyn Christov-Bakargiev

図表・26 イスタンブール・ビエンナーレのキュレーター

図表・27	日本からの参加作家
-------	-----------

開催回	開催年	参加作家
第4回	1995年	久保田滋子、平川典俊、宮島達男
第5回	1997年	森万里子
第6回	1999年	木村友紀
数 7 回	2001 /T:	エキソニモ、小谷元彦、河原温、曽根裕、永田宙郷、
第7回	回 2001年	人谷和彦、SANAA
第8回	2003年	小沢剛、杉戸洋
第9回	2005年	_
第 10 回	2007年	木村太陽、篠田太郎、米田知子、Yushi Uehara/Berlage Institute
第 11 回	2009年	_
第12回	2011年	-
第 13 回	2013年	川俣正

6)サンパウロ・ビエンナーレ(Bienal Internacional de Artes de São Paulo)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1951 年
開催回数	30 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	ブラジル・サンパウロ(São Paulo)
主な会場	イブラブエラ公園内パヴィリオン
	・92 日間
会期	・2014年9月6日(土)~12月7日(日)
	・9 時~19 時(水曜と木曜は9 時~22 時)

- ・イタリア系ブラジル人実業家シシリオ・マタラッツォによりブラジルにおいて現代美術を浸透させ、国際的な存在感を高めることを目的に1951年に実施された国際美術展。
- ・ヴェネチア・ビエンナーレに次ぐ歴史を誇る国際美術展でもある。
- ・開始当初はサンパウロ近代美術館が会場となっていたが、1957年以降はビエンナーレの規模の拡大に伴い建設されたオスカー・ニーマイヤー設計のパヴィリオン (30,000m²) を会場としている。
- ・また、1962年にサンパウロ・ビエンナーレ財団が設立され、サンパウロ近代美術館から運営が引き継がれている。

(2)主な会場・運営方法

- ・毎年、サンパウロ市内のイブラブエラ公園 (Ibirapuera Park) の中に存在するパヴィリオンで実施されている。
- ・開始当初から国別のコミッショナー制を取り、コミッショナーが各国からの参加作家を選定していたが、第27回(2006年)からはこの制度が廃止され、キュレーターが全ての作家を選定する形となっている。



図表・28 サンパウロ・ビエンナーレ・パヴィリオンの場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

(3)入場料·来場者数

- ・サンパウロ・ビエンナーレの入場料は無料である。
- ・第 29 回サンパウロ・ビエンナーレでは約 23 万人、第 30 回(2012 年)では約 18.5 万人が来場した。

- サンパウロ・ビエンナーレのキュレーターは次表のとおり。
- ・第30回(2012年)には110の作家が参加した。

開催回	開催年	キュレーター
第 25 回	2002年	Alfons Hug
第 26 回	2004年	Alfons Hug
第 27 回	2006年	Lisette Lagnado
第 28 回	2008年	アーティスティック・ディレクター: Ivo Mesquita キュレーター: Ana Paula Cohen
第 29 回	2010年	Moacir dos Anjos, Agnaldo Farias
第 30 回	2012年	Luis Pérez-Oramas
第 31 回	2014年	Charles Esche、Galit Eilat、Nuria Enguita Mayo、 Pablo Lafuente、Oren Sagiv

図表・29 イスタンブール・ビエンナーレのキュレーター

図表・30 サンパウロ・ビエンナーレへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家
第 25 回	2002年	土屋公雄
第 26 回	2004年	宮崎進、畠山直哉
第 27 回	2006年	島袋道浩、アトリエ・ワン
第 28 回	2008年	_
学 20 同	2010 /=	Chim ↑ Pom、
第 29 回	2010年	ハイレッドセンター (赤瀬川原平、中西夏之、高松次郎)
第 30 回	2012年	木村友紀、サージ・チェレプニン with 荒川医
第 31 回	2014年	_

7)シャルジャ・ビエンナーレ(Sharjah Biennial)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1993 年
開催回数	11 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	アラブ首長国連邦 (UAE)・シャルジャ (Sharjah)
主な会場	シャルジャ・アート財団アートスペース、シャルジャ美術館、等
△₩	・61 日間
会期	・2013年3月13日(水)~5月13日(月)

- ・シャルジャはアラブ首長国連邦(UAE)の首長国の1つである(アブダビ、ドバイに次ぐ面積を持つ)。
- ・シャルジャ・ビエンナーレは1993年から実施されている国際美術展であり、地元アーティストのために世界に対する発信の場を提供しつつ、地域の文化形成にも貢献することを目的としている。
- ・当初はシェルジャ文化情報局により開催されていたが、2009 年以降はシャルジャ芸術財団 (Sharjah Art Foundation) が運営を担っている。財団はシャルジャ・ビエンナーレのほか、シンポジウム、アーティスト・イン・レジデンス、展覧会、作品制作支援、教育、作品収集などを行っている。

(2)主な会場・運営方法

- ・メイン会場はアーツ・アンド・ヘリテッジ・エリアにあるシャルジャ・アート財団アートスペース(SAF New Spaces)やシャルジャ美術館(Sharjah Art Museum)である。
 - ーシャルジャ・アート財団のスペースは 2009 年に開発され、約 20,000m² の広さを持つ。

(3)入場料·来場者数

- ・シャルジャ・ビエンナーレの入場料は無料に設定されている。
- ・第11回(2013年)の来場者数は約9万人であった。

- ・当初、シャルジャ・ビエンナーレは国単位で参加アーティストを選定するという形式をとっていたが、2003年のフール・アル・カーシィミィのキュレーション以降は、個々の作家や作品に焦点を向けることになった。各回のキュレーターは図表・31のとおりである。
- ・第11回(2013年)は41ヶ国から約100の作家が参加し、約40作家が新作を制作している。

開催回	開催年	キュレーター
第6回	2003年	Hoor Al Qasimi、Peter Lewis
第7回	2005年	Hoor Al Qasimi、Jack Persekian,
第8回	2007年	Hoor Al Qasimi、Jack Persekian
第9回	2009年	Jack Persekian
第 10 回	2011年	Suzanne Cotter、Rasha Salti,
第 11 回	2013年	長谷川祐子
第 12 回	2015年	Eungie Joo

図表・31 シャルジャ・ビエンナーレのキュレーター

開催年	参加作家
1999年	今井アレクサンドル、KOKIN
2001年	艾沢詳子
2003年	麻谷宏、折元立身、小金沢健人、長澤伸穂、眞島竜男
2005年	_
2007年	遠藤治郎、野口里佳
2009年	緒方慎一郎、増山裕之
2011年	_
2013年	池田亮司、井上有一、占部史人、笠原美希、坂本龍一、 島袋道浩、高谷史郎、SANAA
	1999年 2001年 2003年 2005年 2007年 2009年 2011年

図表・32 シャルジャ・ビエンナーレへの日本からの参加作家

8)シドニー・ビエンナーレ(Biennale of Sydney)

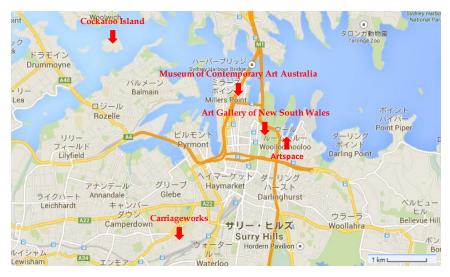
(1)基本情報·沿革

開始時期	1973 年
開催回数	19 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	オーストラリア・シドニー (Sydney)
主な会場	オーストラリア現代美術館、等
	・80 日間
会期	・2014年3月21日(金)~2014年6月9日(月)
	・10 時~17 時(※各実施場所により異なる)

- ・シドニー・ビエンナーレは1973年に現代美術の作家に国際的な発表のプラットフォームを提供することを目的として始められた、アジア太平洋地域で最大規模のビエンナーレ。
- ・ビエンナーレ・オブ・シドニー (The Biennale of Sydney) という非営利団体により実施されている。

(2)主な会場・運営方法

図表・33 シドニー・ビエンナーレの主な会場の場所



出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

- ・第9回(2014年)は5つの施設(Art Gallery of New South Wales、Artspace、Carriageworks、 Cockatoo Island、オーストラリア現代美術館(Museum of Contemporary Art Australia))で実 施されている。
- ・第9回 (2014年) の予算は約1,200万豪ドル (約11億円) である。予算の約33%はオーストラ リア政府 (Austrian Government Partners) から、約 28%は企業及び施設 (Coporate Partners and Venues) からの収入からもたらされている。

Art Gallery of New South Wales Carriageworks Museum of Contemporary Art Australia Artspace S # 30

図表・34 シドニー・ビエンナーレの主な会場のフロアプラン

出所) シドニー・ビエンナーレWeb サイト

(3)入場料·来場者数

- ・シドニー・ビエンナーレの入場料は無料に設定されている。
- ・第19回(2014年)の際には、約62.3万人が来場した(うち、約12.5万人が国外からの来場)。

- ・各回のアーティスティック・ディレクターは図表・35のとおり。
- ・第19回(2014年)では、31ヶ国から92の作家が参加した。

図表・35 シドニー・ビエンナーレのアーティスティック・ディレクター		
開催回	開催年	アーティスティック・ディレクター
第 10 回	1996年	Dr Lynne Cooke
第 11 回	1998年	Jonathan Watkins
第 12 回	2000 /5	Nick Waterlow (議長)、南條史生、Louise Neri、Hetti Perkins、
	2000年	Nicholas Serota、Robert Storr、Harald Szeemann
第13回	2002年	Richard Grayson
第 14 回	2004年	Isabel Carlos
第 15 回	2006年	Charles Merewether
第 16 回	2008年	Carolyn Christov-Bakargiev
第 17 回	2010年	David Elliott
第 18 回	2012年	Catherine de Zegher、Gerald McMaster
第 19 回	2014年	Juliana Engberg

開催回	開催年	参加作家
第 10 回	1996年	森村泰昌
第11回	1998年	折元立身、川俣正、島袋道浩、須田悦弘、
第12回	2000年	オノ・ヨーコ、草間彌生
第13回	2002年	やなぎみわ
第 14 回	2004年	笠原恵実子
第 15 回	2006年	宇治野宗輝、竹村京、東芋、向井山朋子、山口晃
第16回	2008年	倉重迅
第 17 回	2010年	会田誠、さわひらき、杉本博司、田中敦子、天明屋尚
第 18 回	2012年	照屋勇賢、中谷芙二子
第19回	2014年	-

図表・36 シドニー・ビエンナーレへの日本からの参加作家

9)アジア・パシフィック・トリエンナーレ(APT)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1993 年
開催回数	8 回
実施頻度	3年に1回
開催都市	オーストラリア・ブリスベン (Brisbane)
主な会場	クイーンズランド州立美術館、現代美術ギャラリー
	・127 日間
会期	・2012年12月8日(土)~2013年4月14日(日)
	・10 時~17 時(土日・祝日は 9 時~17 時)

- ・アジア・パシフィック・トリエンナーレ(Asia Pacific Triennial of Contemporary Art: APT)は、1993 年にクイーンズランド州立美術館(Queensland Art Gallery: QAG)により、美術館の基軸となる活動を作るために始められた国際美術展である。
- ・2006 年には別館である現代美術ギャラリー (Gallery of Modern Art: GOMA) を新設。GOMA では子供に特化したプログラムである Kids'APT などの専用施設を備えている。
- ・世界でもアジア、オセアニアの現代美術に特化した唯一の国際美術展である。

(2)主な会場・運営方法

- ・APT はクイーンズランド州立美術館と現代美術ギャラリーを主な会場としている。
- ・美術館は APT を作品の収集の機会ともして捉えており、出品作品の多くを購入している。
- ・APT7 の実施にかかる費用は約 600 万豪ドル(約 5.5 億円) とされ、多くはクイーンズランド州 及びオーストラリア政府が支援している。

(3)入場料·来場者数

- ・クイーンズランド州立美術館の入場料は無料であり、各回の APT の入場料も無料に設定されている。
- ・第7回 (2012年) には約56.5万人が来場した (1日あたり約4,450人、1/3がクイーンズランド州以外からの来場であった)。

・第1回(1993年)の入場者数は約6万人であり、入場者数は増加傾向にある。

図表・37 APT の入場者数

開催回	開催年	入場者数
第1回	1993年	約6万人
第2回	1997年	約 12 万人
第3回	1999年	約 15.5 万人
第4回	2002年	約 22 万人
第5回	2006年	約 37.3 万人(GOMA)、約 38 万人(QAG)
第6回	2009年	約 29.8 万人(GOMA)、約 23.2 万人(QAG)
第7回	2012年	約 56.5 万人(GOMA と QAG の合計)

- ・APT では、これまでクイーンズランド州立美術館のキュレーターによってキュレーションを行ってきた。
- ・第7回(2012年)では27ヶ国から75の作家が参加した。

図表・38 APT のキュレーター

開催回	開催年	キュレーター
第4回	2002年	Doug Hall
第5回	2006年	Doug Hall
第6回	2009年	Tony Ellwood
第7回	2012年	Tony Ellwood、Suhanya Raffel
第8回	2015年	Chris Saines、Maud Page

図表・39 APTへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家
勞 1 同	1993 年	秋岡美帆、福田美蘭、小山穂太郎、大竹伸郎、佐藤時啓、
第1回	1993 4	戸谷成雄、柳井嗣雄
第2回	1997年	笠原恵美子、森村泰昌、村上隆、土屋公雄、柳幸典
第3回	1999年	岩井成昭、宮島達男、中ハシ克シゲ、中村政人、杉本博司
第4回	2002年	草間彌生
第5回	2006年	小沢剛、寺岡政美、照屋勇賢
答 (日	2000 /5	北野武、名和晃平、大巻伸嗣、さわひらき、
第6回	2009年	奈良美智(Yoshitomo Nara and graf)
第7回	2012年	岩崎貴宏、笠木知子、パラモデル、高嶺格

10)上海ビエンナーレ(Shanghai Biennale)

(1)基本情報・沿革

開始時期	1996年
開催回数	9 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	中国・上海市
主な会場	上海当代芸術博物館、等
	・128 日間
会期	・2014年11月23日(日)~2015年3月31日(火)
	・11 時~19 時(月曜日は休館)

- ・中国文化省と上海市人民政府の主導のもと、上海美術館において 1996 年から実施されている国際美術展。中国で最も規模が大きく歴史がある国際美術展とされている。
- ・上海ビエンナーレがアジアと西欧を結ぶ主要な都市としての存在感を高めるために始められた。
- ・現在のような現代美術を中心とした展示を行う形になったのは、第3回(2000年)以降である。
- ・第8回 (2010年) までは上海美術館を主な会場としていたが、第9回 (2012年) 以降は上海当 代芸術博物館 (Power Station of Art) が主な会場となっている。

(2)主な会場・運営方法

・上海当代芸術博物館は2012年に上海市立として設立された中国で始めての公立の現代美術館である。元々は火力発電所であった施設を、上海万博の際にリノベーションし、2012年以降は美術館として使用することになった。



図表・40 上海当代芸術博物館の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

(3)入場料·来場者数

- ・第10回 (2014年) の入場料は20元 (約300円)、小学生、中学生、教師、60歳以上、30名以上の団体は10元 (約200円) である。人民軍関係者、身体障害者等は無料である。また、火曜日はどのような条件の方々でも無料で入場できる。
- ・第9回(2012年)の来場者数は約38万人であった。

(4)キュレーター・参加作家

- ・中国出身のキュレーターがキュレーションを行う場合が多いが、国外からキュレーターを招聘するケースも存在する(図表・41)。
- ・第9回(2012年)には23ヶ国から93の作家が参加した。

図表・41 上海ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	キュレーター
第3回	2000年	Hou Hanru、Li Xu、Zhang Qing、清水敏男
第4回	2002年	Xu Jiang、Fan Di'an、Alanna Heiss、Wu Jiang、Klaus Biesenbach、 長谷川祐子
第5回	2004年	Xu Jiang、Sebastián López、Zheng Shengtian、Zhang Qing
第6回	2006年	Zhang Qing
第7回	2008年	アーティスティック・ディレクター: Zhang Qing キュレーター: Julian Heynen、Henk Slager
第8回	2010年	Fan Di'an、Li Lei、Gao Shiming
第9回	2012年	チーフ・キュレーター: Qiu Zhijie. コ・キュレーター: Boris Groys(ロシア)、 Jens Hoffmann(ドイツ)、Johnson Chang
第 10 回	2014年	チーフ・キュレーター:Anselm Franke(ドイツ) コ・キュレーター:Freya Chou、Cosmin Costinas、Liu Xiao

図表・42 上海ビエンナーレへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家
第3回	2000年	安藤忠雄、舟越桂、宮島達男、森万里子
第4回	2002年	アトリエ・ワン、川俣正、津村耕佑、坂茂、SANAA
第5回	2004年	オノ・ヨーコ、鈴木涼子、off-Nibroll
第6回	2006年	中村哲也、奈良美智
第7回	2008年	_
第8回	2010年	_
数 0回	2012 /T	小泉明朗、西野康造、康本雅子、Chim↑Pom、
第9回	2012年	New Humans (Howie Chen & Mika Tajima)
第 10 回	2014年	酒井耕+濱口竜介

11)台北ビエンナーレ(Taipei Biennial)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1998年
開催回数	8回
実施頻度	2年に1回
開催都市	台湾・台北市
主な会場	台北市立美術館、等
	・113 日間
会期	・2014年9月13日(土)~2015年1月4日(日)
	・9 時半~17 時半(土曜日は9時半~20 時半、月曜は休館)

- ・台北市立美術館(Taipei Fine Arts Museum)が1998年から実施している国際美術展。
- ・1984 年から 91 年まで台北市立美術館によって 2 年に 1 度実施されていた「Contemporary Art trends in the R.O.C」や「An Exhibition of Contemporary Chinese Sculpture in the Republic of China」という企画展示が 1992 年に統合され、台北現代美術ビエンナーレ (The Taipei Biennial of Contemporary Art) となった。
- ・1980、90年代は海外から帰国した芸術家が多数いる中で、いかに台湾の現代美術を国際的に発信するかが課題となった。海外から最新の現代美術の動きを導入し、そして台湾の芸術家を国際舞台に送り出すことを目的とし、台北ビエンナーレが始められた。
- ・世界的なビエンナーレの流行の潮流を受け、1998年からは世界的に著名なキュレーターを招聘 し、現地キュレーターと協力して実施される現在の形となった。

(2)主な会場・運営方法

- ・各回ともに台北市立美術館を中心に実施されている (2014 年は台北市立美術館のみが会場となっているが、例えば 2012 年は旧製紙工場 (The Paper Mill) も会場となっている。)
- ・台北市立美術館が主催しており、台湾政府文化部、台北市文化局が資金的な援助を行っている。



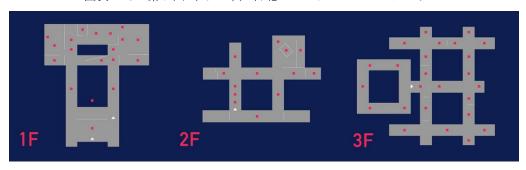
図表・43 台北市立美術館の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成



図表・44 台湾市立美術館の外観





図表・45 第9回 (2014年) 台北ビエンナーレのフロアプラン

出所) 台北ビエンナーレWeb サイトを元に野村総合研究所作成

• 1998 年から今までの予算規模は横ばいで推移している。 第 9 回 (2014 年) の予算は約 3,600 万台 湾ドル (約 1.2 億円) であった。

(3)入場料・来場者数

- ・通常料金は30台湾ドル(約100円)、割引料金(18歳以上の学生、軍人・警察官、教育機関・文化施設のボランティアに適用)は15台湾ドル(約50円)、グループ料金(20名以上のグループに適用)は21台湾ドル(約70円)である。
- ・そのほか、18歳未満、65歳以上、身体障害者、生活保護受給者等は入場無料である。
- ・第8回(2012年)の際には約17.9万人が来場した。

- ・台北ビエンナーレでは第2回(2000年)~第7回(2010年)まで、世界的に著名なキュレーターを招聘し、そのキュレーターが台湾人のキュレーターを選び、共同でキュレーションを行うという仕組みをとってきた。第8回以降はキュレーター間の意見の対立を懸念して単独キュレーター制をとっている。
- ・第9回 (2014) では52の作家が参加する予定である。

開催回	開催年	キュレーター
		コミッショナー:南條史生
第1回	1998年	アソシエイト・キュレーター:三木あき子、
		CHANG Fangwei
第2回	2000年	Jerome Sans(フランス)、Manray Hsu
第3回	2002年	Bartomeu Mari(スペイン)、Chia Chi Jason Wang
第4回	2004年	Barbara Vanderlinden(ベルギー)、Amy Cheng
第5回	2006年	Dan Cameron(アメリカ)、Jun-jieh Wang
第6回	2008年	Vasif Kortun(トルコ)、Manray Hsu
第7回	2010年	Tirdad Zolghadr(スイス)、Hongjohn Lin
第8回	2012年	Anselm Franke (ドイツ)
第9回	2014年	Nicolas Bourriaud(フランス)

図表・46 台北ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	参加作家
第1回	1998年	荒木経惟、小沢剛、日下潤一、草間彌生、宮島達男、 中島大輔、須田悦弘、やなぎみわ、柳幸典
第2回	2000年	キュピキュピ、花代、山出淳也
第3回	2002年	丸山直文、都築響一
第4回	2004年	オノ・ヨーコ、畠山直哉
第5回	2006年	ムラタ有子、田口和奈、田中功起
第6回	2008年	_
第7回	2010年	_
第8回	2012年	原田大三郎、高橋士郎
第9回	2014年	島袋道浩、工藤哲巳

図表・47 台北ビエンナーレへの日本からの参加作家

12)アジアン・アート・ビエンナーレ(Asian Art Biennial)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2007年
開催回数	4 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	台湾・台中市
主な会場	国立台湾美術館
	・92 日間
会期	・2013年10月5日(土)~2014年1月5日(日)
	・9 時~17 時(土曜日、日曜日は9時~18 時、月曜は休館)

- ・2007年に異文化交流のプラットフォームとして始められた国際美術展。
- ・アーティストと台湾美術館のキュレーターとのネットワーク構築、キュレーターの育成が重要な 目的となっている。

(2)主な会場・運営方法

- ・アジアン・アート・ビエンナーレは、1988年に設立された台湾唯一の国立美術館である国立台湾美術館(National Taiwan Museum of Fine Arts)が主催するとともに会場となっている。
- ・国立台湾美術館は2000年以降のヴェネチア・ビエンナーレにおける台湾パヴィリオンのオーガナイザーも務めている。
- ・第4回(2013年)の予算は1,700万台湾ドル(約5,700万円)であり、ほとんどの予算は文化部が支援している。
- ・キュレーターも含め美術館内部のスタッフのみで運営している。体制は、キュレーター1人、プロジェクト・コーディネーター1人、アドミニストレーター4人、広報1人、フォーラム担当キュレーター1人、プロジェクト・コーディネーター3人など。



図表・48 国立台湾美術館の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

図表・49 国立台湾美術館の外観・内観







(3)入場料·来場者数

・入場料は無料である。

- ・アジアン・アート・ビエンナーレのキュレーションは、これまで国立台湾美術館の所属キュレー ターによって行われてきた。
- ・第4回(2013年)では35の作家が参加した。

図表・50 アジアン・アート・ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	キュレーター
第1回	2007年	TSAI Chao-Yi
第2回	2009年	TSAI Chao-Yi
第3回	2011年	Iris Shu-Ping HUANG
第4回	2013年	Iris Shu-Ping HUANG

図表・51 アジアン・アート・ビエンナーレへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家
第1回	2007年	さわひらき、松蔭浩之、渡辺郷、remo
第2回	2009年	パラモデル、小金沢健人、瀧健太郎、外山ひとみ
第3回	2011年	会田誠、大巻伸嗣、篠田太郎
第4回	2013年	岩崎貴宏、下道基行

13)光州ビエンナーレ(Gwangju Biennale)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1995 年
開催回数	9 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	韓国・光州市
主な会場	ビエンナーレ・ホール、等
	・65 日間
会期	・2014年9月5日(金)~2014年11月9日(日)
	・9 時~18 時

- ・光州市は、1980年に民主化を求めた学生や市民による暴動が起こり、政府がこれを武力的に解決し、死者を出したことで国際的な非難を浴びた光州事件の舞台である。
- ・光州事件における民主化の精神 (光州精神) を文化的活動と結びつけ、国際的に発信するために、 1995 年から光州ビエンナーレが実施されるようになった。アジアで最も長い歴史を持つ現代美術 のビエンナーレである。
- ・2005年からは光州デザイン・ビエンナーレも実施されるようになり、光州ビエンナーレと交互に開催されている。

(2)主な会場・運営方法

・各回ともに仲外公園内に立地するビエンナーレ・ホールをメイン会場として実施されている。



図表・52 ビエンナーレ・ホールの場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

図表・53 ビエンナーレ・ホール、財団オフィスの外観





ビエンナーレ財団オフィス







- ・光州ビエンナーレ及び光州デザイン・ビエンナーレは財団法人光州ビエンナーレが実施している。
- ・財団法人光州ビエンナーレでは事務局長のもと、政策研究・立案 8 人(含む市民参加部門 2 人)、 展示部門 14 人(含むデザイン・チーム 2 人)、特別プロジェクト・チーム 13 人、PR & 商業部門 6 人、管理部門 7 人の計 48 人のスタッフが従事している3。
- ・総予算は90~100億ウォン(約9~10億円)である。以前は、政府からの支援が40%で、残りの60%を財団が拠出していた。しかし、近年の財政難により、光州市が20%を支出し、財団の基金から10%程度を支出、残りは入場料などの収入で補う形に変化してきている。
- ・自己収入拡大の観点から 2010 年からはビエンナーレ開幕の時期に合わせ、アートフェアを開催している。会場は、光州市庁と空港の間にある金大中コンベンションセンターである。
- ・2012年の光州ビエンナーレにおいて、第1回世界ビエンナーレ・フォーラムを開催。世界200以上のビエンナーレから関係者が400人以上集まり、5日間連続でイベントを開催した。

(3)入場料·来場者数

- ・第 10 回 (2014 年) の入場料はシングル・チケットが 14,000 ウォン (約 1,400 円)、展覧会パスが 30,000 ウォン (約 3,000 円) となっている。
- ・各回の来場者数は次表のとおり。

		22/11	711-97 11 291
開催回	開催年	会期	来場者数
第1回	1995年	約9週間	約 163 万人
第2回	1997年	約 12 週間	約 91 万人
第3回	2000年	約 10 週間	約 61 万人
第4回	2002年	約 13 週間	約 56 万人
第5回	2004年	約9週間	約 52 万人
第6回	2006年	約9週間	約 70 万人
第7回	2008年	約9週間	約 36 万人
第8回	2010年	約9週間	約 49 万人
第9回	2012年	約9週間	約 65 万人

図表・54 光州ビエンナーレへの来場者数

- ・光州ビエンナーレでは世界的に著名なキュレーターをディレクターとして迎える傾向がある。
- ・第10回(2014年)では39ヶ国から105人の作家が参加する予定である。

³ 光州ビエンナーレ Web サイトより、ビエンナーレ財団の組織図を元に算出。

図表・55 釜山ビエンナーレのキュレーター・参加作家

開催回	開催年	キュレーター	参加作家
		コミッショナー: Lim Young-bang、Clive Adams、	
第1回	1995年	Kathy Halbreich、Jean de Loisy、Anda Rottenburg、	50 ヶ国 92 人
		Oh Kwang-soo、Yoo Hong-jun	
第2回	1997 年	コミッショナー: Harald Szeemann、Yoo Jun Sang、	39ヶ国117人
77 Z E	1777 —	Park Kyong、Sung Wan Kyung、Bernard Marcade	37 / 国 117 八
		ディレクター:Kwangsu Oh	
第3回	2000年	コミッショナー: Rene Block、Thomas Finkel、	46 ヶ国 245 人
		Yu Yeon Kim、谷新、Kim Hong-hee	
笠 4 同	2002年	ディレクター: Wan-kyung Sung	21 > 〒 225 ↓
第4回	2002 4	コ・キュレーター: Charles Esche、Hou Hanru	31ヶ国325人
第5回	2004年	ディレクター: Yongwoo Lee,	43ヶ国 92 人
- 第3四	2004年	コ・キュレーター: Kerry Brougher、Sukwon Chang	43 万国 92 八
第6回 2006年	ディレクター: Kim Hong-hee	31ヶ国127人	
	2000 +	チーフ・キュレーター: Wu Hung	31 7 国 127 八
第 7 同	奈見 2000 年	ディレクター: Okwui Enwezor	25 → 〒 274 ↓
第7回	2008年	キュレーター: Kim Hyeon-jin、Ranjit Hoskote	35 ヶ国 374 人
第8回	2010年	ディレクター: Massimiliano Gioni	143 ヶ国 249 人
		コ・ディレクター:	
第9回	2012年	Nancy Adajania、Wassan Al-Khudhairi、片岡真実、	40ヶ国92人
		Sunjung Kim、Carol Yinghua Lu、Alia Swastika	
		ディレクター: Jessica Morgan	
第 10 回	2014年	アソシエイト・キュレーター:	39 ヶ国 105 人
		Fatos Ustek、Emiliano Valdes	

図表・56 日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家	
第1回	1995 年	久野利博、清野祥一、平林薫	
第2回	1997年	磯崎新、久保田博二、坂茂、森万里子	
第3回	2000年	笠原恵実子、戸谷成雄、坂茂、中山ダイスケ	
第4回	2002年	小谷元彦	
第5回	2004年	飯島浩二、大石広和、鳥光桃代、宮島達男、Muzucks	
第 (同	2006年	神里亜樹雄+柴田知司+真下武久、塩田千春、千住博、	
第6回		内藤礼、やなぎみわ	
第7回	2008年	_	
第8回	2010年	大竹伸朗、佐藤允、実験工房、山口勝弘	
第9回	回 2012年	笹本晃、下道基行、戸島麻貴、	
		Craig Walsh+Hiromi Tango	
第 10 回	2014年	荒川医、石田徹也、山下菊治、米田知子、Hidemi Nishida	

14) 釜山ビエンナーレ(Busan Biennale)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2002年
開催回数	6 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	韓国・釜山市
主な会場	釜山市立美術館、釜山文化センター、等
	・61 日間
会期	・2014年9月20日(土)~2014年11月22日(土)
	・10 時~20 時(関連企画は 10 時~18 時)

- ・2002年から実施されている国際美術展。
- ・1981 年から釜山ユース・ビエンナーレ (Busan Youth Biennale) が実施され、また、1987 年からは釜山シー・アート・フェスティバル (Busan Sea Arts Festival) が、1991 年からは釜山国際 野外彫刻展 (The Busan International Outdoor Sculpture Exhibition) が実施されていた。1998 年にはこれらの事業を統合し、釜山国際現代美術フェスティバル (Pusan International Contemporary Art Festival: PICAF) という名称となり、2000 年に第2回 PICAF が実施された。そして2002 年からは現在の釜山ビエンナーレ (Busan Biennale) という名称に変更されている (2011 年から釜山シー・アート・フェスティバルは釜山ビエンナーレが実施されない年に隔年で独立して実施されている)。
- ・釜山ビエンナーレは、「韓国の美術文化交流事業を振興し、また地域美術の特性化を掲げ、地域 美術の国際的位相向上及び現代美術の底辺拡大に寄与すること4」を目的としている。

(2)主な会場・運営方法

・各回ともに釜山市立美術館を主たる会場としているが、そのほかにも関連会場を設けている。例 えば、第7回 (2014年) は釜山市立美術館のほか、特別展示として「ビエンナーレ・アーカイブ」 を釜山文化センター (Busan Cultural Center) で、「アジアン・キュレートリアル」を工場跡地 (KISWIRE Sooyoung Factory) で行う予定である。



図表・57 釜山ビエンナーレの主要会場の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

-

⁴ 釜山ビエンナーレ Web サイトより引用。

図表・58 釜山市立美術館の外観





- ・釜山ビエンナーレ及び釜山シー・アート・フェスティバルを実施するための実行委員会オフィスが存在し、事務局長1人、展示チーム7人、広報チーム4人、総務チーム2人の計14人のスタッフが従事している5。
- ・財政的には主に文化体育観光部(Ministry of Culture, Sports and Tourism)が支援している。

(3)入場料・来場者数

- ・第7回(2014年)の入場料は通常料金が10,000 ウォン(約1,000円)、学生(7~18歳)・軍人・警察官が6,000 ウォン(約600円)である。
- ・各回の来場者数は次表のとおり。
- ・第1回が最も多く約170万人が来場したが、以降は減少傾向にある。

開催回 開催年 会期 来場者数 第1回 2002年 約9週間 約170.2万人 第2回 2004年 約10週間 約132.4万人 第3回 2006年 約10週間 約142.0万人 第4回 2008年 約10週間 約89.7万人 第5回 2010年 約10週間 約 55.1 万人 第6回 2012年 約9週間 約33.3万人

図表・59 釜山ビエンナーレへの来場者数

(4)キュレーター・参加作家

- ・各回ともにアーティスティック・ディレクターをおいている。韓国出身のディレクターが多いが、 第5回(2010年)は日本、第6回(2012年)はドイツ、第7回(2014年)はフランスからディ レクターが選ばれている。
- 第7回には30ヶ国から161の作家が参加する予定である。

図表・60 釜山ビエンナーレのアーティスティック・ディレクター・参加作家

開催回	開催年	ディレクター	参加作家
第1回	2002年	Tae-Won Park	40 ヶ国 227 人
第2回	2004年	Tae Man Choi	40 ヶ国 203 人
第3回	2006年	Manu D. Park	39ヶ国 314 人
第4回	2008年	Won Bang Kim	39ヶ国 189人
第5回	2010年	東谷隆司	23ヶ国 252 人
第6回	2012 年	Roger M. Buergel(ドイツ)	22 ヶ国 114 人
第7回	2014年	Olivier Kaeppelin(フランス)	30ヶ国 161 人

⁵ 釜山ビエンナーレ Web サイトより、実行委員会オフィスの組織図を元に算出。

開催回	開催年	参加作家
第1回	2002年	麻谷宏、川俣正、サトル・タカダ、菅原二郎、関根伸夫、
- 第1四		塚脇淳、戸田裕介、Koizumi Saya、Hashimoto Yoshimi
第2回	2004 年	加治瑞穂、齋藤徹、高嶺格、椿原章代、中村政人、
- 第 ∠ 凹	2004 +	ノーヴァヤ・リューストラ、早川満友
第3回	2006年 アトリエ・ワン、篠田太郎、安田侃、淀川テクニック	
		奥村雄樹、加藤豪、五味謙二、さわひらき、田中功起、
第4回	2008年	辻直之、徳冨満、花澤洋太、中村哲也、西尾康之、
		宮永愛子、村山瑠璃子、森村泰昌、山川冬樹、行武治美
数 F 同	2010 E	足立喜一郎、金山明、鴻池朋子、小松宏誠、徐美姫、
第5回 2010年		村岡三郎、ヤノベケンジ
第6回	2012年	高嶺格、東松照明
然	2014年	郡田政之、塩田千春、
第7回		Chiaki Wada+Unasaka Nakamura+Ryuichi Sakazaki

図表・61 釜山ビエンナーレへの日本からの参加作家

15)シンガポール・ビエンナーレ(Singapore Biennale)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2006年
開催回数	4 回
実施頻度	2年に1回
開催都市	シンガポール
主な会場	シンガポール・アート・ミュージアム、SAM at 8Q、等
	・113 日間
会期	・2013年10月26日(土)~2014年2月16日(日)
	・10 時~19 時

- ・シンガポールをビジュアル・アートの中心地として位置づけるべく、2006 年にナショナル・アーツ・カウンシル(National Arts Council: NAC)によって始められた国際美術展。
- ・2006 年の IMF 世銀総会のシンガポール開催にあわせて、シンガポールの存在感を世界中に広めるのが当初の狙いであった。
- ・地元作家が世界に作品を発信するきっかけを与えるとともに、市民と現代美術の交流を深める重要な機会となっている。また、世界においてシンガポールの文化的なイメージを浸透させる上で重要な事業の1つでもある。
- ・第1回(2006年)と第2回(2008年)はアーツ・カウンシルの主催によって実施されたが、第3回(2011年)からは国家遺産委員会(the National Heritage Board)が管轄するシンガポール・アート・ミュージアム(Singapore Art Museum)が主催し、アーツ・カウンシルがそれを支援する形で実施されている。

(2)主な会場・運営方法

・毎回、シンガポール・アート・ミュージアム、SAM at 8Q(シンガポール・アート・ミュージアムの別館)、シンガポール国立博物館(National Museum of Singapore)を中心に様々な場所を使って実施されている。

- ・第4回 (2013年) はこれら3つの施設のほか、プラナカン博物館 (Peranakan Museum)、国立 図書館ビル (National Library Building) などが会場となっている。また、第3回 (2011年) に は旧カラン飛行場 (Old Kallang Airport) も会場として使用した。
- ・政府は560万シンガポールドル(約4.5億円)を支出している。
- ・2011年のビエンナーレでは、シンガポール・アート・ミュージアムがオーガナイズを担当した。



図表・62 シンガポール・ビエンナーレの主要会場の場所

出所) Google Map を元に野村総合研究所作成

図表・63 シンガポール・ビエンナーレの主要会場の外観







シンガポール国立博物館

(3)入場料·来場者数

- ・通常料金は 10 シンガポールドル (約 800 円)、海外の学生及び外国の 60 歳以上の高齢者は 5 シンガポールドルである (約 400 円)。また、20 人以上の団体は 20%のディスカウントを受けることができる。
- ・そのほか、6歳以下の子供、国家公務員、公立学校の教師、シンガポール在住の学生及び60歳以上の高齢者は無料である。
- ・第4回(2013年)では期間中に約56万人の来場があった(3つの会場の延べ来場者数)。

第4回 2013年

開催回	開催年	会期	来場者数
第1回	2006年	約 10 週間	約 80 万人
第2回	2008年	約8週間	約 50 万人
第3回	2011年	約9週間	約 20 万人

約16週間

図表・64 シンガポール・ビエンナーレへの来場者数

(4)キュレーター・参加作家

・第1回 (2006年) と第2回 (2008年) は日本からアーティスティック・ディレクター (南條史生氏) を招聘したが、第3回 (2011年) はシンガポール人のアーティスティック・ディレクターを採用している。

約56万人

- ・第4回 (2013年) では、国際的に認知度の高いアーティストの名を借りて、ビエンナーレに正当性を持たせるのではなく、自国、東南アジアのアーティストの独自性を目立たせることに注力。 27人のキュレーターからなるチームによって作家を選定するという実験的な取り組みを行っている。
- ・第4回(2013年)には、13ヶ国から82人の作家が参加している。作家のうち93%はアジアの作家であった。

開催回	開催年	キュレーター	参加作家
第1回	2006年	アーティスティック・ディレクター:南條史生 キュレーター: Roger McDonald、Eugene Tan、Sharmini Pereira	38 ヶ国 95 人
第2回	2008年	アーティスティック・ディレクター:南條史生 キュレーター: Joselina Cruz、 Matthew Ngui	36 ヶ国 66 人
第3回	2011年	アーティスティック・ディレクター: Matthew Ngui キュレーター: Russell Storer、Trevor Smith	30 ヶ国 60 人
第4回	2013 年	グループディレクター: Tan Boon Hui キュレーター: Angkrit Ajchariyasophon、等 27名 Aminuddin TH Siregar "Ucok"、Aye Ko、David Chew、Charlie Co、Kawayan de Guia、Fairuz Iman Ismail、Faizal Sidik、Ark Fongsmut、Abraham Garcia Jr.、Erin Gleeson、Tamares Goh、Misouda Heuangsoukkhoun、Michelle Ho、Khairuddin Hori、 Mia Maria、Nguyen Nhu Huy、Claro Ramirez、Seng Yu Jin, Tan Siuli、Tay Swee Lin、Charmaine Toh、 Joyce Toh、Tran Luong、Naomi Wang、Yee I-Lann	33ヶ国 82人

図表・65 シンガポール・ビエンナーレのキュレーター・参加作家

図表・66 シンガポール・ビエンナーレへの日本からの参加作家

開催回	開催年	参加作家	
第1回	2006年	会田誠、草間彌生、栗林隆、杉本博司、中谷芙二子、 原高史、坂茂、松蔭浩之、森万里子	
第2回	2008年	志賀里江子、中谷芙二子、坂茂、福田龍郎	
第3回	2011年	金氏徹平、西野達	
第4回	2013年	キームラボ、米谷健+ジュリア、 Kazunori Takeishi+Lim Shing Ee	

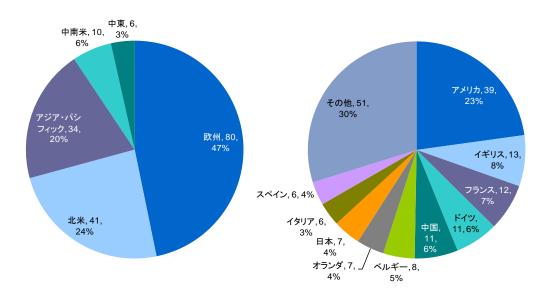
第3章 世界の代表的なアートフェア

3-1. 世界のアートフェアの全体像

本節では世界で実施されている主要な国際美術展を整理している6。情報を収集した171のフェアの開催地域をみると、うち約半数が欧州で開催されている。また、それらを開催国別にみるとアメリカでの開催が最も多く39フェア(23%)が開催されている。また、イギリス(13フェア、8%)、フランス(12フェア、7%)、ドイツ(11フェア、6%)などでの開催も多かった(図表・67)。

そのほか、都市別にみると、フロリダ(16 フェア)、ニューヨーク(12 フェア)、ロンドン(10 フェア)での開催が多かった(図表・68)。

個別のフェアの開催国、開催都市、名称、開催年、会期などを地域別に整理したものが図表・69である。



図表・67 世界のアートフェアの開催地域(左)・開催国(右)

図表・68 世界のアートフェアの開催都市

都市	開催フェア数
フロリダ	16
ニューヨーク	12
ロンドン	11
パリ	8
ブリュッセル	7
香港	7
マドリッド	5
ケルン	4
シンガポール	4
バーゼル	4
ベルリン	4
ロサンゼルス	4

_

⁶ ART VISTA、ART FORUM、ARTS ONLINE、MutualArt.com、ART FAIRS INTERNATIONAL、theartwolf.com、Art-Collecting.com、EUROPE-ART.org、be-Art magazine.com などを参考に作成。

図表・69 世界のアートフェアの概要

(欧州)

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催年	開始	終了	日数
	ハロゲイト	ハロゲイト・アンティーク&ファインアートフェア	The Harrogate Antique and Fine Art Fair	2014	5/2	5/5	4 日
	ブリストル	アフォーダブル・アートフェア ブリストル	Affordable Art Fair Bristol	2013	4/26	4/28	3 目
		サンデイ・アートフェア	SUNDAY art fair	2013	10/17	10/20	4 日
		アンタイトルド	UNTITLED	2014	5/30	6/1	3 日
		フリーズ・ロンドン	Frieze Art Fair London	2013	10/17	10/20	4 日
		ロンドン・アートフェア	London Art Fair	2014	1/21	1/25	5 目
14117		アフォーダブル・アートフェア・バタシー・ロンドン	Affordable Art Fair Battersea London	2014	3/13	3/16	4 日
イギリス	-12	アフォーダブル・アートフェア・ハムステッド・ロンドン	Affordable Art Fair Hampstead London	2013	6/12	6/16	5 日
	ロンドン	コレクト	COLLECT:The Interntional Art Fair for Contemporary Objects	2014	5/9	5/12	4 日
		20 21 インターナショナル・アートフェア	20 21 International Art Fair	2014	5/15	5/18	4 日
		マスターピース・アートフェア	Masterpiece London	2014	6/26	7/2	7 日
		アート・ロンドン	Art London	2014	2/28	3/2	3 日
		ロンドン・オリジナル・プリント・フェア	London Original Print Fair	2014	4/24	4/27	4 日
	トリノ	Artissima	Artissima	2013	11/8	11/10	3 日
	ボローニャ	アートフィエラ・ボローニャ・アートフェア	ARTE FIERA (by Bologna Fiere)	2014	1/24	1/27	4 日
7511-2		miart	miart	2014	3/28	3/30	3 日
イタリア	ミラノ	アフォーダブル・アートフェア・ミラノ	Affordable Art Fair Milan	2014	3/6	3/9	4 日
		MIA フェア	MIA Fair	2013	5/9	5/12	4 日
	ローマ	ROMA	ROMA - The Road to Contemporary Art	2012	5/25	5/27	3 日
ウクライナ	キエフ	アート・キエフ・コンテンポラリー	ART KYIV contemporary	2012	11/1	11/18	18 目
	3-1-1-1	ウィーン・フェアー	VIENNAFAIR	2013	10/10	10/13	4 日
オーストリア	ウィーン	アート・オーストリア	ART AUSTRIA	2014	4/3	4/6	4 日
	インスブルック	アート・インスブルック	ART Innsbruck	2014	2/19	2/23	5 日

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催年	開始日	終了日	日数	
		アフォーダブル・アートフェア・アムステルダム	Affordable Art Fair Amsterdam	2013	10/30	11/3	4 日	
	アムステルダム	クンストライ	KunstRAI	2013	5/15	5/20	6 日	
		パン・アムステルダム	PAN Amsterdam	2013	11/24	12/1	8 日	
オランダ		TEFAF マーストリヒト	TEFAF Maastricht	2014	3/14	3/23	10 日	
	マーストリヒト	アフォーダブル・アートフェア・マーストリヒト	Affordable Art Fair Maastricht	2014	4/3	4/6	4 日	
	ロッテルダム	アート・ロッテルダム	Art Rotterdam	2014	2/6	2/9	4 日	
	ロップルダム	ロウ・アートフェア	Raw Art Fair	2014	2/5	2/9	5 日	
ギリシア	アテネ	アート・アテナ	Art-Athina	2014	5/15	5/18	4 日	
		アート・バーゼル	Art Basel	2013	6/13	6/16	4 日	
	バーゼル	リステ	LISTE	2014	6/17	6/21	5 日	
スイス	/ - 6/0	ヴォルタ	VOLTA	2013	6/10	6/15	6 日	
		スコープ	SCOPE Basel (SCOPE / SCOPE Art Fair)	2013	6/12	6/17	6 日	
	チューリッヒ	アート・チューリッヒ	Art International Zurich	2013	10/10	10/13	4 日	
スウェーデン	ストックホルム	アフォーダブル・アートフェア・ストックホルム	Affordable Art Fair Stockholm	2013	10/3	10/6	4 日	
			エスタンパ	ESTAMPA	2013	10/10	10/13	4 日
	マドリッド	スンマ・アートフェア	SUMMA Art Fair	2013	9/19	9/22	4 日	
スペイン		ARCO	ARCO madrid	2014	2/19	2/23	5 目	
\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\		アート・マドリッド	Art Madrid	2014	2/19	2/23	5 目	
		JUSTMAD	JUSTMAD	2014	2/19	2/23	5 目	
	バルセロナ	SWAB	SWAB	2013	10/3	10/6	4 日	
チェコ	プラハ	プラハ・フォト	Prague Photo	2013	4/22	4/28	7 日	
		チャート・アートフェア	Chart Art Fair	2013	8/30	9/1	3 日	
デンマーク	コペンハーゲン	Alt_CPH	Alt_CPH	2013	8/30	9/1	3 日	
		アート・コペンハーゲン	Art Copenhagen	2013	8/30	9/1	3 日	
	ハンブルク	アフォーダブル・アートフェア・ハンブルク	Affordable Art Fair Hamburg	2013	11/14	11/17	4 日	
		ベルリナー・リステ	Berliner LISTE	2013	9/19	9/22	4 日	
ドイツ	ベルリン	ABC	ABC (Art Berlin Contemporary)	2013	9/20	9/22	3 目	
11/1/	- 1/2/2	ベルリン・アート・ウィーク	Berlin Art Week	2013	9/17	9/22	6 目	
		プレビュー・ベルリン	Preview Berlin	2013	9/19	9/22	4 日	
	ミュンヘン	アンペインテッド・メディア・アートフェア	UNPAINTED Media Art Fair	2014	1/17	1/20	4 日	

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
		アートフェア・ケルン	Art Fair Cologne	2013	10/31	11/3	4 日
	ケルン	アート・ケルン	Art Cologne	2014	4/10	4/13	4 日
ドイツ	77702	ケルン・ファインアート	Cologne Fine Art	2013	11/20	11/24	5 目
		NADA ケルン	NADA Cologne	2014	4/10	4/13	4 日
	リューベック	ハンス・アート・クンストメッセ	HanseArt Kunstmesse	2014	3/13	3/16	4 日
		ショウオフ	SHOW OFF Art Fair Paris	2013	10/21	10/23	3 日
		パリ・フォト	Paris Photo	2013	11/14	11/17	4 日
		スリック・パリ	Slick Paris	2013	10/24	10/27	4 日
	パリ	サロン・ドゥ・デッサン	Salon du Dessin	2013	4/10	4/15	6 目
	/\9	FIAC	FIAC	2013	10/24	10/27	4 日
7517		リール・アートフェアー	Lillie Art Fair	2013	3/7	3/10	4 日
フランス		アート・アップ	ART UP!	2014	2/13	2/16	4 日
		アート・パリ	Art Paris Art Fair	2014	3/27	3/30	4 日
	ストラスブール	ST-ART	ST-ART	2013	11/22	11/25	4 日
	マルセイユ	ART-O-RAMA	ART-O-RAMA	2013	8/30	9/7	9 日
	ジュネーブ	アート・ジュネーブ	Artgeneve	2014	1/30	2/2	4 日
	モナコ	アート・モナコ	Art Monaco	2014	4/24	4/27	4 日
	クノック=ヘイスト	アート・ノクターン・クノック	Art Nocturne Knocke	2013	8/10	8/18	9 日
		アフォーダブル・アートフェア・ブリュッセル	Affordable Art Fair Brussels	2014	2/7	2/10	4 日
		トラジェクター・アートフェア	Trajector Art Fair	2013	9/7	9/8	2 日
ベルギー		ユーランティカ	EURANTICA	2014	3/14	3/23	10 日
11/14-	ブリュッセル	アート・ブリュッセル	Art Brussels	2014	4/25	4/27	3 日
		BAAF	BAAF (Brussel Accessible Art Fair)	2013	6/5	6/9	5 目
		BRAFA	BRAFA (Brussels Antiques and Fine Art Fair)	2014	1/25	2/2	9 日
		BRUNEAF	BRUNEAF(Brussel Non European Art Fair)	2014	1/22	1/26	5 目
ポルトガル	リスボン	フェスティバル・イン・リスボン	Festival in Lisboa	2013	11/14	11/17	4 日
ロシア	モスクワ	アート・モスクワ	Art Moscow	2013	9/18	9/22	5 日

(北米)

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル (英語)	開催	開始日	終了日	日数
	サンタモニカ	アート・ロサンゼルス・コンテンポラリー	Art Los Angeles Contemporary	2014	1/30	2/2	4 日
	サンディエゴ	アート・サンディエゴ	Art SD (Art Sand Diego)	2013	11/7	11/10	4 日
	シカゴ	SOFA シカゴ	SOFA Chicago	2013	10/31	11/3	4 日
		エキスポ・シカゴ	EXPO CHICAGO	2013	9/19	9/22	4 日
	ダラス	ダラス・アートフェア	Dallas Art Fair	2014	4/10	4/13	4 日
		フリーズ・ニューヨーク	Frieze New York	2014	5/9	5/12	4 日
		アーモリー・ショー	Armory Show	2014	3/6	3/9	4 日
		NADA ニューヨーク	NADA New York	2014	5/9	5/11	3 日
		VERGE	VERGE Emerging Art Fair	2014	5/8	5/11	4 日
		ヴォルタ NY	VOLTA NY	2014	3/6	3/9	4 日
		プール・アートフェア・ニューヨーク	Pool Art Fair NY	2014	5/9	5/11	3 目
マルルカ	ニューヨーク	アートエキスポ・ニューヨーク	Art Expo NY	2014	4/4	4/6	3 目
アメリカ		ADAA	ADAA: The Art Show	2014	3/5	3/9	5 目
		ニューヨーク・アート・ブックフェア	NY Art Book Fair	2013	9/19	9/22	4 日
		アフォーダブル・アートフェア ニューヨーク	Affordable Art Fair New York	2014	4/3	4/6	4 日
		パルス・ニューヨーク	PULSE New York	2013	5/9	5/12	4 日
		ピンタ・ニューヨーク	Pinta NY - The Modern and Contemporary	2012	c 14	(/5	4.0
		ヒンダ・ニューョーク	Latin Ameriacan Art Show	2013	6/4	6/7	4 日
	ボストン	ボストン・インターナショナル・アートショー	Boston International Fine Art Show	2013	11/21	11/24	4 日
		パリ・フォト LA	Paris Photo Los Angeles	2014	4/25	4/27	3 目
	-11-12-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-	ADAA	ADAA: The Art Show	2014	1/16	1/19	4 日
	ロサンゼルス	ロサンジェルス・モダニズムショー&セール	Los Angeles Modernism Show & Sale	2013	4/26	4/28	3 日
		ロサンゼルス・アートショー	La Art Show	2014	1/15	1/19	5 目
	ワシントン	エマージ・アートフェア	(e)merge art fair	2013	10/3	10/6	4 目

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
		アート・パルムビーチ	art Palm Beach	2014	1/23	1/27	5 日
		AIFAF	AIFAF (American International Fine Art Fair)	2014	2/4	2/9	6 日
		ズーム・コンテンポラリー・アートフェア	ZOOM Contemporary Art Fair	2013	12/2	12/5	4 日
		アート・アンタイトルド	art UNTITLED.	2013	12/4	12/8	5 日
		アートアジア	ART ASIA (Miami/Basel)	2012	12/4	12/9	6 日
		NADA マイアミビーチ	NADA Miami Beach	2013	12/5	12/8	4 日
		アートマイアミ	Art Miami	2013	12/3	12/8	6 日
		デザインマイアミ	Design Miami	2013	12/3	12/8	6 日
アメリカ	フロリダ	アート・バーゼル・マイアミビーチ	Art Basel Miami Beach	2013	12/3	12/8	6 日
		ブラジル・アートフェア	Brazil ArtFair	2013	12/4	12/8	5 日
		スコープ・マイアミビーチ	SCOPE Miami Beach (SCOPE / SCOPE Art Fair)	2012	12/4	12/9	6 日
		パルス・マイアミ	PULSE Miami	2013	12/5	12/8	4 日
		MIA	MIA (Miami International Art Fair)	2014	1/17	1/20	4 日
		INK マイアミ・アートフェア	INK Miami Art Fair	2013	12/4	12/8	5 目
		マイアミ・アーツ&デザイン	Miami Arts and Design: MA+D	2014	2/14	2/18	5 日
		アート・ウィンウッド	Art Wynwood	2014	2/13	2/17	5 目
カナガ	1 -> 4	アフォーダブル・アートフェア トロント	Affordable Art Fair Love Art Toronto	2014	5/8	5/11	4 日
カナダ	トロント	アート・トロント	Art Toronto	2013	10/25	10/28	4 日

(南米)

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル (英語)	開催	開始日	終了日	日数
	サンパウロ	サンパウロ・アートフェア	Sao Paulo International Art Fair	2014	4/3	4/6	4 日
ブラジル	リオ・デ・ジャネイ ロ	アートリオ	Art Rio	2013	9/4	9/8	5 日
ベネズエラ	カラカス	FIA カラカス	FIA Caracas	2013	6/28	7/1	4 日
		アフォーダブル・アートフェア・メキシコシティ	Affordable Art Fair Mexico City	2013	10/17	10/20	4 日
メキシコ	メキシコシティ	マテリアル・アートフェア	Material Art Fair	2013	2/6	2/9	4 日
		ソナ・マコ	ZONA MACO (Mexico Arte Contemporaneo)	2014	2/5	2/9	5 日

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
マルボバムン	ゼンチン ブエノスアイレス	arteBA	arteBA	2014	5/23	5/26	4 日
プルセンサン		アルテクラシカ・コンテンポラレーニア	Arteclasica Contemporanea	2013	5/9	5/13	5 日
コロンビア	ボゴタ	artBO	artBO (Feria Internacional de Arte de Bogota)	2013	10/25	10/28	4 日
チリ	サンティアゴ	ChACO	ChACO: The Contemporary Art Fair of Chile	2013	9/27	9/30	4 日

(アジア・パシフィック)

開催国•地域	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
インド	ニューデリー	インド・アートフェア	India Art Fair	2014	1/30	2/2	4 日
インドネシア	ジョグジャカルタ	アート・ジョグジャカルタ	Art Fair Jogjakarta	2013	7/6	7/20	15 日
オーストラリア	メルボルン	メルボルン・アートフェア	Melbourne Art Fair	2013	8/23	8/25	3 日
	ソウル	KIAF	KIAF (Korea International Art Fair)	2013	10/3	10/7	5 日
持団	チャンウォン	慶南国際アートフェア	GIAF(Korea Gyeongnam International Art Fair)	2013	7/4	7/7	4 日
韓国	大邱	大邱アートフェア	Daegu Art Fair	2013	11/13	11/17	5 目
	釜山	アートショー釜山	Artshow Busan	2014	4/18	4/21	4 日
		アート・ステージ・シンガポール	Art Stage Singapore	2014	1/16	1/19	4 日
20 ABAR 11	シンガポール	シンガポール・アートフェア	Singapore Art Fair	2014	11/27	11/30	4 日
シンガホール		アフォーダブル・アートフェア・シンガポール	Affordable Art Fair Singapore	2013	11/21	11/24	4 日
		スポット・アート	SPOT ART	2013	10/26	11/4	10 日
		アート台北	Art Taipei	2013	10/30	11/3	4 日
台湾	台北	アート・レボリューション台北	Art Revolution Taipei	2014	4/17	4/20	4 日
		ヤングアート台北	Young Art Taipei	2014	4/18	4/20	3 目
	1. 3/=	上海アートフェア	Sganghai Art Fair	2013	11/14	11/17	4 日
	上海	SHコンテンポラリー	SH Contemporary	2012	9/7	9/9	3 日
中国		アート北京	Art Beijing	2014	4/30	5/3	4 日
	北京	チャイナ・インターナショナル・ギャラリー・ エクスポジション	Cige (China International Gallery Exposition)	2013	4/2	4/6	5 日

開催国•地域	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
		AIAA	AIAA (Asia International Arts & Antiques Fair)	2014	5/24	5/26	3 日
		アート香港	ART HK	2012	5/17	5/20	4 日
		アート・バーゼル香港	Art Basel Hong Kong	2014	5/15	5/18	4 日
中国	香港	LINK アートフェア香港	LINK Art Fair Hong Kong	2013	5/24	5/26	3 日
		ファインアート・アジア	Fine Art Asia	2013	10/4	10/7	4 日
		アジア・ホテル・アートフェア香港	AHAF(Asia Hotel Art Fair)	2014	2/28	3/2	3 日
		アフォーダブル・アートフェア香港	Affordable Art Fair Hong Kong	2014	3/20	3/23	4 日
フィリピン	マニラ	マニラート	MANILART	2013	10/10	10/13	4 日
マレーシア	マレーシア	アート・エキスポ・マレーシア	Art Expo Malaysia	2013	9/19	9/22	4 日
		アートフェア東京	Art Fair Tokyo	2014	3/7	3/9	3 日
	東京	東京フォト	Tokyo Photo	2013	9/27	9/30	4 日
		東京アート&アンティーク	Tokyo Art & Antiques	2014	4/24	4/26	3 日
日本	横浜	横浜フォト・フェスティバル	Yokohama Photo Festival	2013	1/16	1/20	5 日
	大阪	アート大阪	Art Osaka	2013	7/20	7/21	2 日
	京都	アート京都	Art Kyoto	2012	4/27	4/29	3 日
	札幌	アートフェア札幌	Art Fair Sapporo	2013	11/23	11/24	2 日

(中東)

開催国	開催都市	名称(日本語)	タイトル(英語)	開催	開始日	終了日	日数
TIAT	ドバイ	アート・ドバイ	Art Dubai	2014	3/19	3/22	4 日
UAE	アブダビ	アブダビ・アート	Abu Dhabi Art	2013	11/20	11/23	4 日
イスラエル	テルアヴィヴ	フラッシュ・ペイント・コンテンポラリー・アートフェア	Fresh Paint Contemporary Art Fair	2014	5/20	5/24	5 目
		アート・インターナショナル・イスタンブール	Art International Istanbul	2013	9/16	9/18	3 目
トルコ	イスタンブール	コンテンポラリー・イスタンブール	Contemporary Istanbul	2013	11/7	11/10	4 日
		アート・ビート・イスタンブール	Art Beat Istanbul	2011	9/14	9/18	5 日

3-2. 世界の主要なアートフェア

本章では、以下のアートフェアについて調査を行った結果を示している。

《世界の代表的なアートフェア》

- 1) アート・ケルン (ART COLOGNE)、ドイツ
- 2) フィアック(Fiac: Foire Internationale d'Art Contemporain)、フランス
- 3) アーモリー・ショー (The Armory Show)、アメリカ
- 4) フリーズ・ロンドン (Frieze London)、イギリス
- 5) フリーズ・ニューヨーク (Frieze New York)、アメリカ
- 6) リステ (LISTE)、スイス
- 7) ヴォルタ (VOLTA)、スイス
- 8) ナダ・マイアミビーチ (NADA Miami Beach)、アメリカ
- 9) アート・バーゼル (Art Basel)、スイス
- 10) アート・バーゼル・マイアミビーチ (Art Basel Miami Beach)、アメリカ

《アジアの代表的なアートフェア》

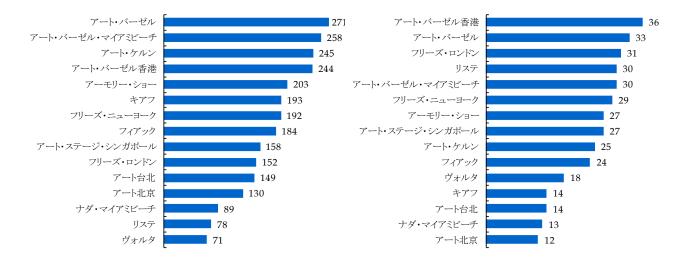
- 11) アート・バーゼル香港(Art Basel Hong Kong)、中国
- 12) アート・ステージ・シンガポール(ArtStage Singapore)、シンガポール
- 13) キアフ (KIAF)、韓国
- 14) アート台北 (Art Taipei)、台湾
- 15) アート北京 (Art Beijing)、中国

これらのアートフェアに関して以下の項目を整理している。

- 基本情報(開始時期、開催回数、開催都市、主な会場、会期、等)
- 沿革
- ・会場の詳細
- ・運営方法(主催者、運営者、運営の体制)
- · 入場料 · 来場者数
- ・出展者(国別出展ギャラリー数、日本からの出展ギャラリー、等)
- ・出展条件・方法(ブースのサイズ・出展費用、出展のプロセス、出展の条件、等)

これらのアートフェアの出展者数と出展ギャラリーの所在地の国数の比較を行ったものが図表・71 である。最も出展者が多かったのはアート・バーゼル(スイス)であった。またアート・バーゼル・マイアミビーチ、アート・ケルン、アート・バーゼル香港などの数も多く、アート・バーゼルの存在感の大きさが読み取れる。ナダ・マイアミビーチ、リステ、ヴォルタなど主要フェアのサテライトは比較的出展者が少ない傾向となった。

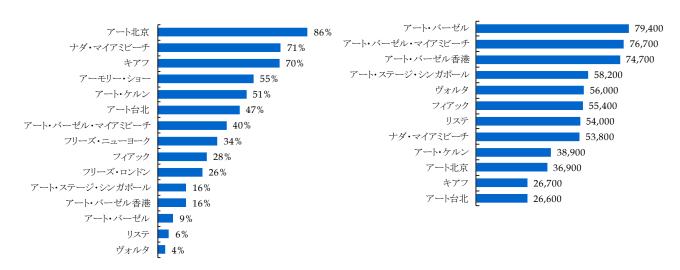
各アートフェアへの出展ギャラリーの所在地の国数をみると、30 前後の国からの出展が多い傾向があった。



図表・70 各アートフェアの出展者の数(左)・所在地国数(右)7

各アートフェアにおける全出展者に対する自国の出展者が占める割合と標準的な出展費用を示したものが図表・71である。アート北京は中国のギャラリーの割合が86%と自国色が強く、ナダ・マイアミビーチ、キアフなどの割合も高かった。一方で、香港、スイス、シンガポールで開催されるアートフェア(アート・ステージ・シンガポール、アート・バーゼル香港、アート・バーゼル、リステ、ヴォルタなど)は自国の比率が低い傾向があった。

各アートフェアの標準的な出展費用を比較すると、3つのアート・バーゼルの出展費用が特に高く、一方で、アジアで行われているアートフェア(アート北京、キアフ、アート台北)やアート・ケルンの出展費用は比較的安いことが明らかとなった。



図表・71 自国ギャラリーが占める割合(左)・標準的な出展費用(右、1m2あたり円)8

⁷ 直近の開催回の情報を基に比較を行っている。

⁻

^{*} フィアック:350~440 ユーロの中間値である 395 ユーロとして計算、LISTE:3 回目の出展(グループ)でスペースが 27.5m²として計算、ヴォルタ:5,500 ユ~12,500 ユーロの中間値である 9,000 ユーロ、スペースが 22.5cm²として計算、ナダ・マイアミビーチ:ミディアム・ブースのケース、アート・バーゼル:ギャラリーズのケース、アート・バーゼル・マイアミビーチ:ギャラリーズのケース、アート・バーゼル香港:ギャラリーズのケース、キアフ:Cタイプのケース

国内外の国際美術展、アートフェア、コレクター関係者に世界中のアートフェアの評価を尋ねたところ、最も評価が高かったのはアート・バーゼル(バーゼル、マイアミビーチ、香港)であった。

ヒアリングでの意見

- ・世界で最も注目しているアートフェアはアート・バーゼル。アート・バーゼルでの VIP の待遇はと ても優れている。(コレクター)
- ・アートフェアのなかでは、最も規模の大きいアート・バーゼルを最重視している。通常の企画とは 関係なく運営できるところがメリット。(ギャラリー関係者)
- ・アート・バーゼル香港への出品は、アーティストにとってブランドになっている。ここに出品できる作品は一定のレベルにあるということが認知されているため、アーティストの経歴にとって非常に有意義なことである。また規模が大きいため、作品を世界中の人にアピールできる。(アートフェア関係者)
- ・アート・バーゼル香港は国際的なアートフェアなので、以前から毎年参加している。(ギャラリー)

また、西欧ではあわせてフリーズ(ロンドン、ニューヨーク)、FIACを評価する意見があがった。

ヒアリングでの意見

- ・バーゼルの出現以降、その様式をコピーしたフェアが続出したが、どれも失敗に終わっている。フリーズだけが「若手アーティストに特化した」というオリジナリティーを持ち、唯一成功したフェアだと考えて良い。(アートフェア関係者)
- ・西欧では、バーゼル、フリーズ、フィアック、ケルン。(アートフェア関係者)
- ・注目している国際フェアは、バーゼル、フリーズ。(ギャラリー)
- ・イメージアップのためには、第1にアート・バーゼル、第2にフリーズ、第3に FIAC への出展援助を勧める。写真に関して言えば、パリ・フォトが特に良い。(コレクター)

また、アート・バーゼル香港を除くアジアのアートフェアの評価は、賛否両論であった。

ヒアリングでの意見

- ・アジアでは、アート台北、韓国の KIAF、シンガポールのアート・ステージ。(ギャラリー)
- ・上海アートフェアは中国の作家やギャラリーのみで構成され、かつ小規模であるので評価できない。 アート台北も小規模である。KIAF は金融危機以降、縮小しつづけている。アート・ステージ・シン ガポールは VIP コレクターへの対応について配慮に欠けるとの声が多く、評判が下がってきている。 (コレクター)
- ・アート・ステージ・シンガポールは東南アジアで最大規模のアートフェアであり、東南アジアのアーティストがメインとなる。(アートフェア関係者)
- ・アート台北などの台湾のアートフェアには、日本から参加するギャラリーが多い。台湾と日本は文 化的つながりも強く、日本からの作品は受け入れやすいためではないか。(アートフェア関係者)
- ・KIAF はマーケットが閉鎖的なので今後 10 年以上国際フェアとして成長できないだろう。日本、台湾、中国もまた然り。マーケットを隔てる境界線を開かない限りアジア諸国で国際的なフェアを運営する事は不可能だ。(アートフェア関係者)
- ・アジアで注目しているアートフェアは、アート・バーゼル香港とアート・ステージのみ。(アートフェア関係者)
- ・注目すべきは上海の新生フェアであるアート 21 (トゥエンティ・ワン)。ホワイト・キューブやヴィタミン・クリエイティブなどの強力なラインアップを有し、規模は小さいが取引は多く、国際マーケットにもオープンである。(コレクター)

1)アート・ケルン(ART COLOGNE)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1967 年		
開催回数	48 回		
開催都市 ドイツ・ケルン (Cologne)			
主な会場	ケルンメッセ (Koelnmesse)		
	・4 日間		
会期	・2014年4月10日(木)~13日(日)		
	・12 時~20 時(最終日は~18 時)		
	(4月9日(水) 17時~20時はベルニサージュを開催)		

- ・地元ケルンを基盤に活躍する 18 のアートディーラーによって立ち上げられたドイツ新進画廊協会(Verein progressiver deutscher Kunsthändler)によって、1967 年に近代美術の美術市クンストマルクト・ケルン(Kunstmarkt Köln)が実施された。
- ・クンストマルクト・ケルンは非常に盛況であり、この影響を受ける形で欧州内に幾つかのフェア が誕生している。アート・バーゼルもこの影響を受け誕生したフェアの1つとされている。
- ・1975 年、ドイツ画廊協会 (Bundesverband Deutscher Galerien: BVDG) が設立され、クンストマルクト・ケルンの主催者となり、また、1984 年に現在のアート・ケルン (ART COLOGNE) に名称を変更している。
- ・1995年の最盛期には349のギャラリーが出展し、開催期間は9日にも及んだ。ドイツ協会は、フェアの独占性を批判され、1997に年フェアの主催をケルンメッセに移行している。

(2)主な会場・運営方法

- ・見本市会場であるケルンメッセ(Koelnmesse)で行われている。
- ・会場の延べ床面積は33,200m²(2013年の値)である。



図表・72 ケルンメッセの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成



図表・73 アート・ケルンの会場プラン (2014年)

出所) アート・ケルン Web サイト

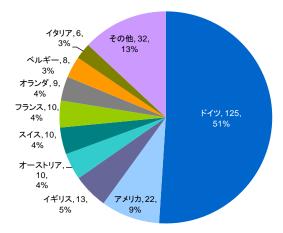
- ・現在のアート・ケルンの主催者は毎年約70の見本市、2000件以上の会議を主催・運営するケルンメッセ(Koelnmesse)である。ケルンメッセの概要は以下のとおり
 - -社名:Koelnmesse GmbH、設立:1922年(1973年民営化)
 - -資本: ケルン市 79.025%、ノルトライン・ウェストファーレン州 20%、
 - ケルン商工会議所 0.725%、その他の関連団体 0.25%
 - -売上高:2億2,900 万ユーロ (2009年)
- ・アート・ケルンの運営体制は次のとおり。
 - ーディレクター1名、プロジェクト・マネジャー1名
 - ー出展セールス2名、VIP担当2名、プレス担当2名、広告担当2名、ダイレクト・マーケティング担当1名、テクニカル・サービス2名、コンサルティング2名

(3)入場料·来場者数

- ・入場料は、1日チケットが25ユーロ(約3,500円)、2日チケットが35ユーロ(約4,900円)である。
- ・2013年の来場者数は約6万人とされている。

(4)出展者

- ・2013年の出展ギャラリーは245(機関、メディアも含む)である。-25ヶ国から参加、120の国外ギャラリー、125の国内(ドイツ)ギャラリー
- ・全てが近現代の美術を扱うギャラリーである。
- ・ドイツからの出展が半数を占め、その他は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー、イタリア等からの出展による。



図表・74 アート・ケルンの出展者の所在国 (2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート・ケルン Web サイトより野村総合研究所作成

- ・日本からは毎年3~4のギャラリーが出展している。
 - -2013 年: Akira Ikeda Gallery、タグチファインアート、MIYAKE FINE ART、NANZUKA
 - -2012 年: Akira Ikeda Gallery、タグチファインアート、BASE Gallery
 - -2011 年: Akira Ikeda Gallery、タグチファインアート、BASE Gallery、Whitestone Gallery

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

- ・スタンドの面積は以下のパターンから選択する。展示作家数も限定されている。
 - ー最大 40 m^2 (最大 4 人の作家)、最大 60m^2 (最大 6 人の作家)、最大 80m^2 (最大 8 人の作家)、最大 100m^2 (最大 10 人の作家)、 120m^2 以上(最大 14 人の作家)
- ・出展費用は1m²あたり277.1ユーロ(約38,900円)。

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 -アプリケーションが受け付けられた段階で出展希望ギャラリーは主催者側に500ユーロ(約
 - 70,200円)を支払う(出展を断られた場合でも返金はされない)。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2013年9月17日 (開催の約7ヶ月前)。

・出展の可否はアドバイザリー・ボード(メンバーは非公開)によって判断される。

出展の条件

- ・主に近現代の部門を扱っているギャラリーであること。
- ・2010年1月以前から存在するギャラリーであること。
- ・独自の展示スペースを持つギャラリーであること。
- ・定常的に経営し、年間4本以上の展覧会を行っているギャラリーであること。

出品の条件

- ・例えば、以下の作品は出品できない。
 - ー応用美術(セラミックス、ガラス、ジュエリー、デザイン等)、民芸、民族美術、 タペストリー
 - -エディションが 100 を超える作品

-出展者及びその親族が制作した作品

その他

・2003 年以降に設立された歴史の浅いギャラリーを対象に、アドバイザリー・ボードの推薦によって出展が可能なニュー・コンテンポラリーズ(NEW CONTEMPORARIES)というセクションも存在する。2014 年は、30 のギャラリーが出展予定である。

2)フィアック(Fiac)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1974 年
開催回数	40 回
開催都市	フランス・パリ (Paris)
主な会場	グラン・パレ(Grand Palais)
	・4 日間
会期	・2014年10月23日(木)~26日(日)
	・12 時~20 時(24 日は~21 時)

- ・フィアックは1974年にバスティーユにある古い鉄道駅で開催されたバール・ショー(Bâle show) というフェアを原型としている。
- ・初年度の出展ギャラリー数は80と小規模であったが、1975年に名前をフィアックと改め、場所をグラン・パレに移し、次第に人気が高まった。
- ・1980~90 年代にかけて出展ギャラリーやアーティストの選定方法が不明瞭だという批判により勢いを失う。
- ・1999 年、組織の再編を行うとともに、オープンなポリシーを掲げ、場所をポルト・ト・ベルサイユ (Porte de Versailles) に移す。また、新たに賞 (Marcel Duchamp prizes) を設立したり、ビデオアートを取り上げたりするようになっている。
- ・2006年には、会場をグラン・パレ (Grand Palais) に戻し、ルーブルのクール・カレ、チュイルリー庭園まで展示スペースを拡張し、以降、評価が上がっている。

(2)主な会場・運営方法

・フィアックはパリ市内のグラン・パレにおいて実施されている。



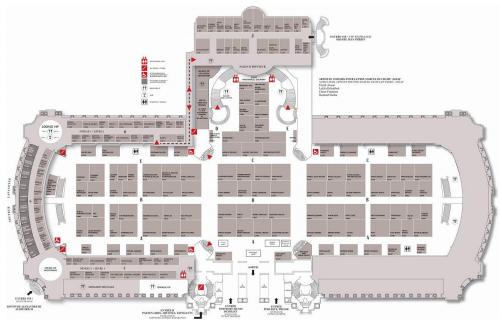
図表・75 グラン・パレの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

図表・76 フィアックの会場風景



図表・77 フィアックの会場プラン (2013年)



出所)FIAC Web サイト

- ・フィアックはリード・エクスポジション(Reed Expositions France)という世界的なイベント会社が主催している。リード・エクスポジションは 1968 年にイギリスで創業された企業で、40 ヶ国で 500 を超えるイベントを実施している。
- ・また、2009年からは百貨店などを展開するギャラリー・ラファイエット・グループをオフィシャル・パートナーとしている。

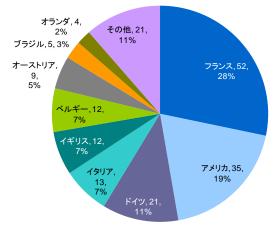
- ・フィアックの運営体制は次のとおり。
 - ーディレクター1名、副ディレクター1名、プロジェクト・マネジャー1名
 - ーコミュニケーション&パートナーシップ1名、メディア・プランニング1名、VIP&インスティチューションズ1名、出展者リレーションズ3名、マーケティング1名、ロジスティクス1名、テクニカル・ディレクター1名、インターネット&オンライン・サービス1名、販売管理1名

(3)入場料·来場者数

- ・一般料金が35 ユーロ(約4,900円)、割引料金が20 ユーロ(約2,800円)、12 才以下の子供は無料である。割引料金は26 才以下の若者等に適用される。
- ・2013年には66ヶ国以上から7万人以上の来場があったとされている。

(4)出展者

- ・2014年は184のギャラリーが出展している。
 -24ヶ国から参加、132の国外ギャラリー、52の国内(フランス)ギャラリー
- ・フランスからの出展が 28%を占め、アメリカ (19%)、ドイツ (11%) なども多い。そのほか、イタリア、イギリス、ベルギー、オーストラリア、ブラジル、オランダ等からの出展による。



図表・78 フィアックの出展者の所在国 (2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)フィアック Web サイトより野村総合研究所作成

(5)出展条件・方法

出展費用

・1m² 当たり 350 ユーロ~440 ユーロ (約 49,100 円~約 61,800 円)。

出展のプロセス

・ギャラリーは次表のようなセレクション・コミッティーによって選定される。

図表・79 フィアックのセレクション・コミッティー

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Daniele Balice	Balice Hertling	フランス
David Fleiss	Galerie 1900-2000	フランス
Solène Guillier	gb agency	フランス
Simon Lee	Simon Lee Gallery	イギリス
Samia Saouma	Max Hetzler	ドイツ
Alexander Schroeder	Neu	ドイツ
Christophe Van de Weghe	Van de Weghe Gallery	アメリカ、ドイツ
Gordon VeneKlasen	Michael Werner	アメリカ、ドイツ

出所) フィアック Web サイト

(6)その他

・フィアックは 2015 年 5 月にアメリカのロスアンゼルスでもフェア (Fiac LA) を実施すると発表している。フェアはパリ・フォト LA (Paris Photo LA) と連携して実施される予定である。

3)アーモリー・ショー(The Armory Show)

(1)基本情報·沿革

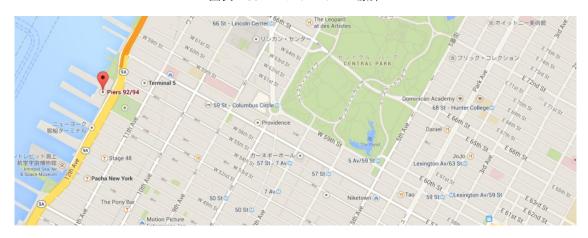
開始時期	1994 年
開催回数	15 回
開催都市	アメリカ・ニューヨーク (NY)
主な会場	ピア 92・94
会期	・4 日間
	・2014年3月6日(木)~9日(日)
	・12 時~19 時
	(3月5日はオープニングを開催)

- ・アーモリー・ショーは、1994年に4人のアートディーラーが始めた、グラマシー・インターナショナル・コンテンポラリー・アートフェア (The Gramercy International Contemporary Art Fair) を起源とする。
- ・1999年にレジメントアーモリー69番に移ったことにより、現在の名称に改めた(本フェア名は、1913年に開催されたヨーロッパのモダニズムをアメリカに紹介したことで知られるアーモリー・ショーからとられた)。
- ・2001 年、ハドソン川に隣接するピア 88・90 へ開催地を移した(後に、現在のピア 92・94 ピア に移転)。

(2)主な会場・運営方法

- ・アーモリー・ショーはピア92・94で実施されている。
- ・アーモリー・ショーの運営体制は次のとおり。
 - -エグゼクティブ・ディレクター1名、マネージング・ディレクター1名
 - ープログラム&スペシャル・プロジェクト2名、VIP リレーションズ1名、コミュニケーション1名

図表・80 ピア 92・94 の場所



出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

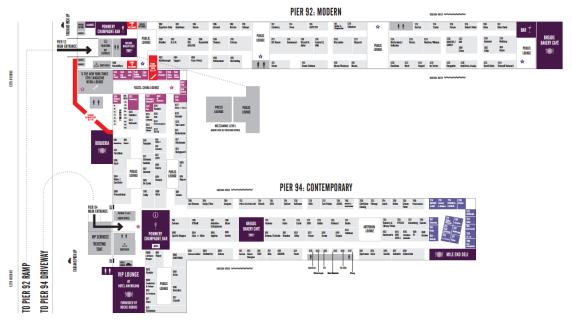
図表・81 アーモリー・ショーの会場風景





出所)アーモリー・ショー Web サイト

図表・82 アーモリー・ショーの会場プラン (2013年)



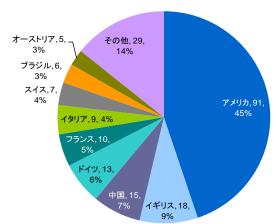
出所)アーモリー・ショー Web サイト

(3)入場料・来場者数

- ・入場料は一般料金が30USドル(約4,200円)、4日通し券が60USドル(約8,400円)、ヴォルタ (VOLTA) NY とのセット券が40USドル(約5,600円)である。
- ・2013年は6.6万人の来場があったとされている。

(4)出展者

- ・2014年は203のギャラリーが出展している。-27ヶ国から参加、91の国外ギャラリー、112の国内(アメリカ)ギャラリー
- ・アメリカからの出展が多く 45%を占め、(19%)、そのほかはイギリス、中国、ドイツ、フランス、イタリア、スイス、ブラジル、オーストラリア等からの出展による。
- ・2014年の日本からの出展は Whitestone Gallery のみである。
- ・なお、アーモリー・ショーへの出展ギャラリーのフェア中の総売上は公表していない。



図表・83 アーモリー・ショーの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アーモリー・ショー Web サイトより野村総合研究所作成

(5)出展条件・方法

・関係者以外には非公開となっている。

4)フリーズ・ロンドン(Frieze London)

(1)基本情報·沿革

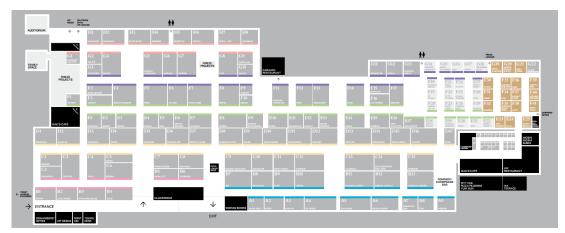
開始時期	2003年
開催回数	11 回
開催都市	イギリス・ロンドン (London)
主な会場	リージェンツ・パーク内仮説会場
	・4 日間
会期	・2013年10月17日(木)~20日(日)
	・12 時~19 時

・1991 年、フェアの創始者であるアマンダ・シャープとマシュー・スロトバーはアーティストであるトム・ギドリーと共に美術雑誌フリーズを創刊。

- ・2003年に第1回フリーズ・アートフェアを実施する。
- ・2011年には、2000年以前の歴史的な作品を現代的な目線でキュレーションするアートフェア、フリーズ・マスターズを開始。また、アメリカにてフリーズ・ニューヨークを新たに開催している。
- ・開催当初からドイツ銀行がメインスポンサーとなっている。

(2)主な会場・運営方法

・フリーズ・ロンドンはリージェンツ・パークの自然光を取り入れた特設会場で実施されている。



図表・84 フリーズ・ロンドンの会場プラン (2013年)

出所) フリーズ・ロンドン Web サイト

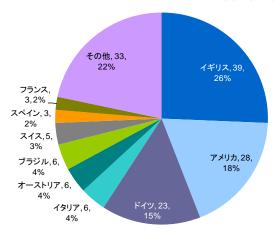
- ・2003 年に立ち上げられた非営利組織であるフリーズ財団(Frieze Foundation)が事業を主催している。財団は EU やアーツ・カウンシル等の公共機関や Emdash Foundation 等の民間の財団からも助成を受けている。
- ・フリーズ・ロンドンの運営体制は次のとおり。
 - -全般7人、フェア・マネジメント5名、マーケティング2名、コミュニケーションズ6名、 VIP11名、ファイナンス3名
 - ー地域別 VIP コンサルタントとしてヨーロッパ、ラテンアメリカ、ニューヨーク、USA、ウエストコースト USA、メキシコにそれぞれの担当が存在する。

(3)入場料·来場者数

- ・一般料金が32 ポンド(約5,500円)、学生が23 ポンド(約3,900円)、フリーズ・マスターズとのセット券が50 ポンド(約8,500円)である。
- ・2010~13年の間、毎年6万人を超える来場があったとされている。

(4)出展者

- 2013年は152のギャラリーが出展している。
 - -31 ヶ国から参加、113 の国外ギャラリー、39 の国内(イギリス) ギャラリー
- ・イギリスからの出展が 26%を占め、アメリカ (18%)、ドイツ (15%) なども多い。そのほか、イタリア、オーストラリア、ブラジル、スイス、スペイン、フランス等からの出展による。



図表・85 フリーズ・ロンドンの出展者の所在国 (2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)フリーズ・ロンドン Web サイトより野村総合研究所作成

・フェアは「メイン」、「フォーカス」、「フレーム」、「ライブ」(2014年から新設)とよばれるセクションから構成されている。

図表・86 フリーズ・ロンドンの出展区分

区分	条件
メイン	どのような条件のギャラリーでも応募でき、一定の基準から選定される。
フォーカス	2003 年以降に設立された、ギャラリーを対象としたもので、1 人の作家 による他のアートフェアで発表されていない作品を展示することを条件 としている。
フレーム	設立から8年未満のギャラリーを対象としたもので、これまで発表機会 の少なかった作家に焦点をあてたものである。
ライブ	野心的なライブ(実演型)の作品を取り扱う。

- ・2013年の日本からの出展は次の3ギャラリーである。
 - ーメイン:タカ・イシイギャラリー
 - ーフォーカス: Take Ninagawa
 - ーフレーム: AOYAMA | MEGURO
- ・なお、フリーズ・ロンドンへの出展ギャラリーのフェア中の総売上は非公開となっている。

(5)出展条件·方法

- ・関係者以外には非公開となっている。
- ・応募フォームは12月にWebサイトにアップされ、締め切りは2月に設定される。そして、選定結果は4月に通知される。毎年約500のギャラリーからの応募がある。
- ・選定は次表のセレクション・コミッティーが行う(ディレクターは会議には参加するが投票権は持たない)。

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Marcia Fortes	Galeria Fortes Vilaça	ブラジル
Cornelia Grassi	Greengrassi	イギリス
Carol Greene	Greene Naftali	アメリカ
Philomene Magers	Sprüth Magers	ドイツ、イギリス
Niklas Svennung	Galerie Chantal Crousel	フランス
Gigiotto del Vecchio	Supportico Lopez	ドイツ
Nicky Verber	Herald St	イギリス

図表・87 フリーズ・ロンドンのセレクション・コミッティー

5)フリーズ・ニューヨーク(Frieze New York)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2012年
開催回数	2回
開催都市	アメリカ・ニューヨーク (NY)
主な会場	ランダール・アイランド・パーク内仮説会場
会期	・4 日間
	・2014年5月9日(金)~12日(月)
	・11 時~19 時
	(5月8日はオープニングを開催)

・沿革はフリーズ・ロンドンを参照。

(2)主な会場・運営方法

・フリーズ・ニューヨークは、フリーズ・ロンドンと同じように自然光を取り入れた特設会場で実施されている。



図表・88 フリーズ・ニューヨークの会場プラン (2013年)

出所) フリーズ・ニューヨーク Web サイト

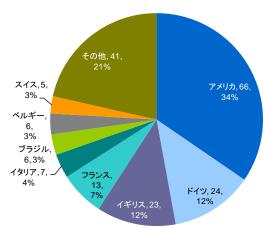
- ・2003 年に立ち上げられた非営利組織であるフリーズ財団 (Frieze Foundation) が事業を主催している。
- ・フリーズ・ニューヨークの運営体制の多くはフリーズ・ロンドンと共通である。以下のスタッフ に関しては、ニューヨーク独自のメンバーを採用している。
 - ーゼネラル・マネジャー1名、アシスタント・フェア・マネジャー2名、フリーズ・ニューヨーク・プロジェクト・マネジャー1名

(3)入場料・来場者数

- ・一般料金が43ドル(約4,400円)、学生料金が27ドル(約2,800円)、寄付込み一般料金が92ドル~、月曜日限定チケットが10ドル(1,000枚限定。17~25歳の方及び学生が購入可能)である。
- ・2013年の入場者は約4.5万人。

(4)出展者

- ・2014年は192のギャラリーが出展する予定である。
 - -29ヶ国から参加、126の国外ギャラリー、66の国内(アメリカ)ギャラリー
- ・アメリカからの出展が34%を占め、ドイツ(12%)、イギリス(12%)なども多い。そのほか、フランス、イタリア、ブラジル、ベルギー、スイス、スペイン等からの出展による。



図表・89 フリーズ・ニューヨークの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)Fiac Web サイトより野村総合研究所作成

- ・フェアは「メイン」、「フォーカス」、「フレーム」とよばれるセクションから構成されている。
- 2014年の日本からの出展は以下の4ギャラリーである。
 - ーメイン:タカ・イシイギャラリー、TARO NASU
 - ーフォーカス: Take Ninagawa
 - ーフレーム: Misako & Rosen

(5)出展条件·方法

- ・出展条件は関係者以外には非公開となっている。
- ・応募フォームは6月にWebサイトにアップされ、締め切りは8月に設定される。そして、選定結果は10月に通知される。
- ・選定はセレクション・コミッティーが行う(ディレクターは会議には参加するが投票権は持たない)。

David Kordansky

Andrzej Przywara

Esther Schipper

Tanya Bonakdar

Marc Payot

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Tanya Bonakdar	Tanya Bonakdar Gallery	アメリカ
Eivind Furnesvik	Standard	ノルウェー
Jeanne Greenberg	Salon 94	アメリカ

David Kordansky Gallery

Foksal Gallery Foundation

Tanya Bonakdar Gallery

Hauser & Wirth

Esther Schipper

アメリカ

アメリカ

アメリカ

ロシア ドイツ

図表・90 フリーズ・ニューヨークのセレクション・コミッティー

6)リステ(LISTE)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1996年
開催回数	18 回
開催都市	スイス・バーゼル (Basel)
主な会場	Warteck pp
	・6 日間
会期	・2014年6月17日(火)~22日(日)
	・13 時~21 時(最終日は~18 時)
	(6月16日(月)12時~17時はオープニングを開催)

- ・リステは、1996年にアート・バーゼルへの出展が難しい若手ギャラリスト達により設立。
- ・初回は12ヶ国から36のギャラリーが集い、大きな成功を博した。
- ・1997年より、プライベートバンク E.Gutzwiller & Cie, Banquiers がメインスポンサーとなっている。

(2)主な会場・運営方法

・リステはアート・バーゼルから徒歩10分の距離にあるWarteck ppという会場で実施されている。



図表・91 リステの会場の場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

Terror Table 1 Unterpretchoss
Lover Level

1 Unterpretchoss
First Roor

2 Obergretchoss
Saccond Roor

3 Obergretchoss
Saccond Roor

図表・92 リステの会場プラン (2014年)

出所) リステWeb サイト

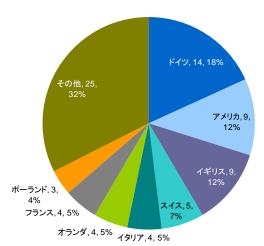
- ・リステの運営体制は次のとおり。
 - ーディレクター1人、フェア&コミュニケーションマネジメント責任者1人、アシスタント1人、VIP リレーションズ&フェアオフィス責任者1人、プレス&メディア担当1人、建設&技術責任者1人、財務担当2名、パフォーマンス・プロジェクト・キュレーター1人

(3)入場料·来場者数

・基本的な入場料金は 20 スイスフラン(約 2,300 円)である。そのほか、割引料金が 10 スイスフラン(約 1,200 円)、20 時以降の入場料金が 6 スイスフラン(約 700 円)である。なお、学生は無料である。

(4)出展者

- ・2014年の出展ギャラリーは78であり、全てが現代の美術を扱うギャラリーである。 -30ヶ国から参加、73の国外ギャラリー、5の国内(スイス)ギャラリー
- ・ドイツ (18%)、アメリカ (12%)、イギリス (12%) からの出展が多いが、あわせても 41%であり、様々な国 (30ヶ国) からの出展によって構成されている。



図表・93 リステの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)リステWeb サイトより野村総合研究所作成 ・2014年に日本からは Aoyama/Meguro が出展する予定である。

(5)出展条件·方法

・出展の区分は以下の4つの区分に分かれている。

 出展区分
 スペース数

 設立から 1~3 年のギャラリーによる展示
 20~30

 設立から 4~7 年のギャラリー、もしくは他のフェアに出展経験のあるギャラリーによる展示
 10~15

 設立から 8 年以上のギャラリーによる展示
 10~15

 40 歳未満もしくは 40 歳以上のアーティストによる展示(40 歳以上のアーティストはアート・バーゼルで紹介された経り)
 10~15

図表・94 リステの出展区分

ブースのサイズ・出展費用

- ・スタンドの面積は全て 25~30m² である。
- ・ブース代は次表の6つの区分に分かれている。
- ・1m² あたりに換算すると 245US ドル(約 25,100 円)~691US ドル(約 70,700 円)。

山屋屋八	出展費用	
出展区分	ソロ	グループ
LISTE への初出展	7,344US ドル	8,424US ドル
LISTE,NO初山展	(約75万円)	(約86万円)
LICTE - O 2 FILOUE	8,424US ドル	9,504US ドル
LISTE への 2 回目の出展	(約86万円)	(約97万円)
LICTE - A 2 ELL AUE	9,504US ドル	10,584US ドル
LISTE への 3 回目の出展	(約97万円)	(約108万円)
LISTE への 4 回目以上の出展	12,960US ドル	12,960US ドル
LISTE 、074回日以上の出展	(約133万円)	(約133万円)
動きなどの左門上のギュラリーの川屋	14,040US ドル	15,660US ドル
設立から8年以上のギャラリーの出展	(約144万円)	(約160万円)
40 歳未満もしくは 40 歳以上の		17,282US ドル
アーティストによる展示	_	(約177万円)

図表・95 リステの出展費用

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 -アプリケーションが受け付けられた段階で出展希望ギャラリーは主催者側に 250 スイスフラン (約28,800円) を支払う (出展を断られた場合でも返金はされない)。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2013年12月16日(開催の約6ヶ月前)。
- ・出展の可否はセレクション・コミッティー(メンバーは非公開)によって判断される。 ーセレクション・コミッティーはインディペンデント・キュレーター、博物館の有識者、アー
 - ーセレクション・コミッティーはインティペンテント・キュレーター、博物館の有識者、ア トフェアの有識者等から構成される。

・2014年2月中旬までに出展の可否が出展希望ギャラリーに伝えられる。

7) ヴォルタ(VOLTA)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2005年
開催回数	9 回
開催都市	スイス・バーゼル (Basel)
主な会場	MARKTHALLE
	・6 日間
会期	・2014年6月17日 (火) ~21日 (土)
	・12 時~20 時(最終日は~18 時)
	(6月16日(月)10時~20時はオープニングを開催)

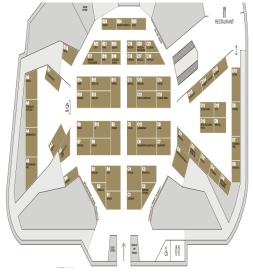
- ・2005年、3人のアートディーラーと1人の評論家により設立。
- ・2008年からはヴォルタ NY (VOLTA NY) も展開している。

(2)主な会場・運営方法

・ヴォルタはバーゼル市内にある MARKTHALLE という会場で実施されている。



図表・96 ヴォルタの会場の場所・会場プラン(2014年)



出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成、ヴォルタ Web サイト

・ヴォルタの運営体制は次のとおり。

-アーティスティック・ディレクター1名、マネージング・ディレクター1名、プロジェクト・マネジャー1名、プレス・マネジャー1名

(3)入場料·来場者数

・基本的な入場料金は 17 スイスフラン (約 2,000 円) である。そのほか、学生料金が 12 スイスフラン (約 1,400 円)、団体料金 (10 名以上) が 12 スイスフラン (約 1,400 円) である。

(4)出展者

- ・2014年の出展ギャラリーは71であり、全てが現代の美術を扱うギャラリーである。 -18ヶ国から参加、68の国外ギャラリー、3の国内(スイス)ギャラリー
- ・アメリカ(24%)、ドイツ(17%)、イギリス(10%)の3ヶ国のギャラリーが過半数を占める。
- 2014 年に日本からは、GALLERY KOGURE、MA2 Gallery、STANDING PINE、TEZUKAYAMA GALLERY が出展する予定である。



図表・97 ヴォルタの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)ヴォルタ Web サイトより野村総合研究所作成

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

- ・スタンドの面積は15~30m²。
- ・ブース代は中心価格帯が 5,500 ユーロ (約77万円)、最も高価なブースは 12,500 ユーロ (約175万円) である。
- ・仮に、5,500 ユーロを 20 m²で除すると、1m²あたり 275 ユーロ(約 38,600 円)となる。

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーは毎年 10 月に公開されるアプリケーションフォームに記入して、主催者に 送付を行う。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2013年12月30日(開催の約6ヶ月前)。
- ・出展の可否は主催者によって判断される。
- ・2014年3月25日以降に出展の可否が出展希望ギャラリーに伝えられる。

8)ナダ・マイアミビーチ(NADA Miami Beach)

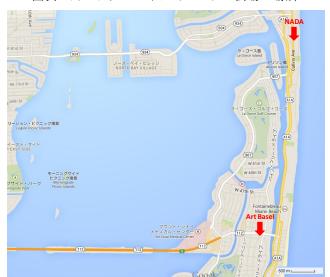
(1)基本情報·沿革

開始時期	2003年
開催回数	11 回
開催都市	アメリカ・マイアミ (Miami)
主な会場	Deauville Beach Resort
	・4 日間
<u> </u>	・2014年12月5日(木)~8日(日)
会期	・11 時~20 時(最終日は~17 時)
	(12月5日 (木) 10 時~14 時はベルニサージュを開催)

- ・NADA(New Art Dealers Alliance)は、2002年に現代美術の関係者間のコラボレーションや情報交換を促すため4人のディーラーによってに立ち上げられた非営利組織である。
- ・2003 年からは NADA Miami Bearch が実施され、2012 年からはドイツ・ケルンにおいて NADA Colongne が、また、アメリカの NY において NADA NY が実施されている。

(2)主な会場・運営方法

・NADA はマイアミにある、Deauville Beach Resort というホテルで実施されている。



図表・98 ナダ・マイアミビーチの会場の場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

- ・フェアは NADA を構成するギャラリーによって運営されている。
- ボードメンバーは次表のとおり。

図表・99 NADA のセレクション・コミッティー	-
---------------------------	---

立場	メンバー	所属ギャラリー名
プレジデント	Nicelle Beauchene	Nicelle Beauchene Gallery
バイス・プレジデント	James Fuentes	James Fuentes LLC
会計係	Jack Hanley	Jack Hanley Gallery
秘書	Amie Scally White Columns	
	Adam Abdalla	Nadine Johnson & Associates, Inc.
	Phil Grauer	CANADA LLC
その他メンバー	Dan Nadel	Artbook/D.A.P
その他メンハー	Chris Robinson	Davis Wright Tremaine LLC
	Laura Solomon	Laura Solomon Fine Art
	Mari Spirito	Protocinema

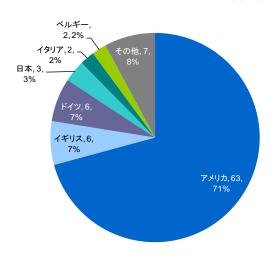
(3)入場料·来場者数

・入場料金は無料である。

(4)出展者

- ・2013年の出展ギャラリーは89である。
 - -13ヶ国から参加、26の国外ギャラリー、63の国内(アメリカ)ギャラリー
- ・アメリカからの出展が大半を占める(71%)。

図表・100 ナダ・マイアミビーチの出展者の所在国(2013年)



※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)ナダ・マイアミビーチ Web サイトより野村総合研究所作成

- ・2013年に日本からは次の3つのギャラリーが出展している。
 - ーギャラリーズ: MISAKO & ROSEN、無人島プロダクション
 - ープロジェクツ: XYZ Collective

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

・ブースのサイズ及び出展費用は次表のとおり。

図表・101 NADAの出展費用

区分	ブースのサイズ	出展費用	
	150 - (1 (14 0 - 2)	8,000US ドル(約 112 万円)	
スモール・ブース	153 sq ft (14.2m ²)	1m²あたり 563US ドル(約 57,600円)	
	204 sq ft (19.0m²)	10,000US ドル(約 140 万円)	
ミディアム・ブース		1m²あたり 526US ドル(約 53,800 円)	
ラージ・ブース	200 (1 (2(0 2)	13,500US ドル(約 190 万円)	
7-2.7-2	289 sq ft (26.8m²)	1m²あたり 504US ドル(約 51,500 円)	
エクストララージ・ブース	要相談	要相談	

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 ーアプリケーションが受け付けられた段階で出展希望ギャラリーは主催者側に 300 ドル (約30,700円) を支払う (出展を断られた場合でも返金はされない)。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2014年7月14日 (開催の約5ヶ月前)
- ・出展の可否は主催者によって判断される。
- ・2014年8月1日以降に出展の可否が出展希望ギャラリーに伝えられる。

9)アート・バーゼル(Art Basel)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1970年
開催回数	44 回
開催都市	スイス・バーゼル (Basel)
主な会場	バーゼル市内のメッセ・バーゼル (Messe Basel) という会場
	・4 日間
会期	・2014年6月19日(木)~22日(日)
	・11 時~19 時
	(6月17日(火)、18日(水)はオープニングを開催)

- ・アート・バーゼルは 1970 年にバーゼルの 3 人のギャラリストによって立ち上げられた。初回のフェアは 10 ヶ国から 90 のギャラリーと 30 の出版社が参加し、16,300 人が来場するなど盛況であった。
- ・1975年には出展者は300になり、37,000人が来場するまでに拡大した。
- ・2002年からはアメリカ・マイアミにて、アート・バーゼル・マイアミビーチを実施している (2001年から実施される予定であったが、9.11テロの影響で延期された)。また、2013年からは香港においても、アート・バーゼル香港を実施している。
- ・1994 年から UBS がメイン・パートナーとなっている。

(2)主な会場・運営方法

・アート・バーゼルは、バーゼル市内のメッセ・バーゼル (Messe Basel) という会場で実施されている。



図表・102 メッセ・バーゼルの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

・会場の延べ床面積は31,000m²を超える。



図表・103 アート・バーゼルの会場プラン (2014年)





出所) アート・バーゼル Web サイト



図表・104 アート・バーゼルの風景

出所) アート・バーゼル Web サイト

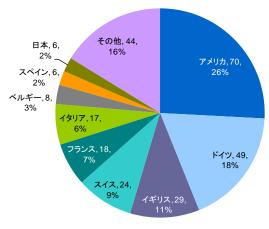
- ・アート・バーゼルは、アート・バーゼルの会場である Messe Basel を保有する MCH Swiss Exhibition (Basel) Ltd が運営を行っている。MCH Swiss Exhibition (Basel) Ltd はアート・バーゼルを含む年間 20 もの展示会を運営している。
- ・アート・バーゼルの運営体制は次のとおり。
 - ーエグゼクティブ・コミッティ4名、マネジメント・ボード7名、ディレクター・アシスタント4名、ギャラリー・リレーションズ9名、オペレーション&ロジスティクス4名、マーケティング&コミュニケーション12名、スポンサーシップ5名、VIP&ビジターサービス8名

(3)入場料·来場者数

- ・入場料は通常チケットが 45 スイスフラン (約 5,200 円)、イブニング・チケット (17 時以降の入場) が 25 スイスフラン (約 2,900 円) である。
- ·2013年には7万人の来場があった。

(4)出展者

- ・2014年の出展ギャラリーは271。-33ヶ国から参加、247の国外ギャラリー、24の国内(スイス)ギャラリー
- ・アメリカ(26%)、ドイツ(18%)、イギリス(11%)からの出展が多く、日本からも6ギャラリー(2%)が出展している。



図表・105 アート・バーゼルの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート・バーゼル Web サイトより野村総合研究所作成

- ・2014年に日本からはタカ・イシイギャラリー、ギャラリー小柳、スカイ・ザ・バスハウス、ShugoArts、 小山登美夫ギャラリー、Take Ninagawa が出展する予定である。
- ・フェアは「ギャラリーズ (Galleries)」、「フィチャー (Feature)」、「ステートメンツ (Statements)」、「エディション (Edition)」、「アンリミテッド (Unlimited)」、「マガジンズ (Magazines)」、「パーカーズ (Parcours)」、「フィルム (Film)」とよばれるセクション・プログラムから構成されている。

区分	特徴
W 11	アート・バーゼルの中心となるセクションで、世界において評価が定まってい
ギャラリーズ	るトップレベルのギャラリーが出展するセクション。
 .	単独や複数のアーティストのみに焦点を絞った展示を行うギャラリーが参加
フィチャー	するセクション。
ステートメンツ	若手のアーティストを扱った展示を行うギャラリーが参加するセクション。
	エディションのある印刷物やマルチプル作品を扱った展示を行うギャラリー
エディション	が参加するセクション。
	従来のアートフェアには収まらないサイズの彫刻、絵画、インスタレーション、
アンリミテッド	そしてライブパフォーマンスが行われるセクション。毎回、キュレーターに
	よって監修(14,000m ² の敷地が用意)。
マガジンズ	出版社がアートに関する印刷物を展示するセクション。
0 7	公共の歴史的な場所においてサイトスペシフィックな彫刻の展示やパフォー
パーカーズ	マンスを行うプログラム。
_ , , ,	アーティストが制作した映画やアーティストに関する映画を上映するプログ
フィルム	ラム。

図表・106 アート・バーゼルの出展区分

(5)出展条件·方法

・毎年1,000を超える応募の中から、約300の出展者を選定している。

ブースのサイズ・出展費用

・各セクションのブースのサイズ、出展費用は次のとおり。

セクション区分	ブースのサイズ	ブース代 (1m²あたり)	申込料
ギャラリーズ	30m ² (写真の展示のみ)、 60m ² 、90m ² 、120m ²	1m² あたり 690 スイスフラン** (約 79,400 円)	550 スイスフラン (約 63,300 円)
フィチャー	30~35m²	1m² あたり 690 スイスフラン (約 79,400 円)	450 スイスフラン (約 51,800 円)
ステートメンツ	30~32m²	13,000 スイスフラン (約 150 万円)	450 スイスフラン (約 51,800 円)
エディション	30m²、60m²	1m² あたり 690 スイスフラン* (約 79,400 円)	550 スイスフラン (約 63,300 円)

図表・107 アート・バーゼルの出展費用

※入口や中央の通りに面したような良好な立地を希望する場合、5%のサーチャージがある。

17,000 スイスフラン

(約196万円)

出展のプロセス

アンリミテッド

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 -出展希望ギャラリーは主催者側に申込料を支払う (出展を断られた場合でも返金はされな (√ √
- ・アプリケーションの申込期限と結果発表時期は次表のとおり。

規定なし

セクション区分	申込期限	結果発表	展示情報9発表	費用請求
ギャラリーズ				
フィチャー	2013年9月20日	2013年11月	2014年2月	2014年3月
ステートメンツ	2013年9月20日	2015 平 11 月	2014 年 2 月	2014 午 3 月
エディション				
アンリミテッド	2014年1月20日	_	2014年4月15日	_

図表・108 アート・バーゼルの出展の各期限

- ・出展の可否は次表のようなセレクション・コミッティーによって判断される。
- ・それぞれのメンバーの任期は5~10年である。

図表・109 アート・バーゼルのセレクション・コミッティー

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Xavier Hufkens	Xavier Hufkens	ベルギー
Lucy Mitchell-Innes	Mitchell-Innes & Nash	アメリカ
Jochen Meyer	Galerie Meyer Riegger	ドイツ
Tim Neuger	Neugerriemschneider	ドイツ
Franco Noero	Galleria Franco Noero	カナダ
Eva Presenhuber	Galerie Presenhuber	スイス

・また、フィチャー、ステートメンツ、エディション、クラシカル写真分野の選定に関しては次表 の専門家のアドバイスも受けている。

⁹ フロアプラン、出展者の情報等

区分	メンバー 所属ギャラリー名		所在地	
フィエル	Miguel Abreu	Miguel Abreu Gallery	アメリカ	
フィチャー、	Silvia Dauder	Projecte SD	スペイン	
ステートメンツ	Sunitha Kumar Emmart	Gallery SKE	インド	
エディション	Niele Pauch Ionean	Niels Borch Jensen Edition	ドイツ	
	Niels Borch Jensen	& Gallery	Γ1 <i>J</i>	
クラシカル写真	Edwynn Houk	Gallery Edwyn Houk	アメリカ	

図表・110 アート・バーゼルのセレクション・アドバイザー

10)アート・バーゼル・マイアミビーチ(Art Basel Miami Beach)

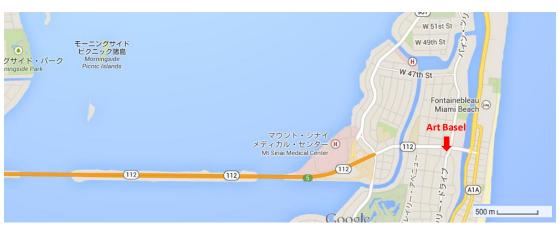
(1)基本情報·沿革

開始時期	2002年
開催回数	12 回
開催都市	アメリカ・マイアミ (Miami)
主な会場	Miami Beach Convention Center (MBCC)
	・4 日間
	・2014年12月4日(木)~7日(日)
会期	・12 時~20 時(初日は15 時~、最終日は~18 時)
	(12月3日(水) 11時~20時、4日(木) 11時~15時はプライベート・
	ビュー及びベルニサージュを開催)

- ・2002年に第1回のアート・バーゼル・マイアミビーチが開催される(2001年に実施予定であったが、9.11テロの影響で延期された)。第1回は160のギャラリーが出展し、約3万人が来場した。
- ・当初から UBS がメインスポンサーとして実施している。

(2)主な会場・運営方法

・アート・バーゼル・マイアミビーチはマイアミの Miami Beach Convention Center (MBCC) という会場で実施されている。



図表・111 MBCC の場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

図表・112 アート・バーゼル・マイアミビーチの会場風景



出所) アート・バーゼル・マイアミビーチ Web サイト

・会場の延べ床面積は50,000m2以上。

図表・113 アート・バーゼル・マイアミビーチの会場プラン (2013年)



出所) アート・バーゼル・マイアミビーチ Web サイト

(3)入場料·来場者数

- ・入場料は通常チケットが 42US ドル(4,300 円)、イブニング・チケット(16 時以降の入場)が 32US ドル(3,300 円)である。
- ・2013年には75,000人を超える来場があった。

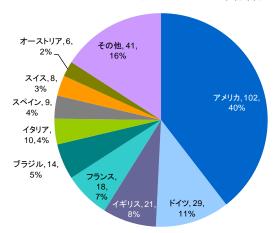
(4)出展者

・フェアは、「ギャラリーズ (Galleries)」、「ノバ (Nova)」、「ポジションズ (Positions)」、「エディション (Edition)」、「サーベイ (Survey)」、「キャビネット (Kabinett)」、「パブリック (Public)」、「フィルム (Film)」、「マガジンズ (Magazines)」とよばれるセクション及びプログラムから構成されている。

区分	特徴
	アート・バーゼルの中心となるセクション。少なくとも3年以上の開業経
ギャラリーズ	験がないと応募できない。プログラム全体の水準によって参加の可否を評
	価される。
) .S	2年以上の開業経験があるギャラリーが展示を行うセクション。過去3年
ノバ	の間に制作された作品の展示が求められる。
.18 5% 5	特にギャラリーの開業経験は求められないセクション。新進気鋭の若手作
ポジションズ	家を選んで展示を行う。
エディション	写真、印刷物などのようにエディションのある作品を扱うセクション。
11 0 2	歴史的な接続のあるキュレーション・コンセプトのもと作家や作品を紹介
サーベイ	するセクション。全てのギャラリーが応募可能。
	ギャラリーズやエディションに出展しているギャラリーの協力によって、
キャビネット	キュレーションのもとに展示が行われるセクション。コミッティーに招待
	されたギャラリーのみが応募できる。
	屋外彫刻やサイトスペシフィックなインスタレーション、パブリックアー
パブリック	トなどをキュレーションのもとに展示が行われるセクション。コミッ
	ティーに招待されたギャラリーのみが応募できる。
	アーティストが制作した映画やアーティストに関する映画を上映するプ
フィルム	ログラム。
マガジンズ	出版社がアートに関する印刷物を展示するセクション。

図表・114 アート・バーゼル・マイアミビーチの出展区分

- ・2013年の出展ギャラリーは258。
 - -30ヶ国から参加、156の国外ギャラリー、102の国内(アメリカ)ギャラリー
- ・アメリカからの出展が4割を占める。そのほか、ドイツ(11%)、イギリス(8%)、フランス(7%) からの出展が多い。



図表・115 アート・バーゼル・マイアミビーチの出展者の所在国 (2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート・バーゼル・マイアミビーチ Web サイトより野村総合研究所作成

・2013年に日本からはギャラリーズのセクションで、小山登美夫ギャラリー、スカイ・ザ・バスハウスが出展する予定である。

(5)出展条件・方法

・毎年約700の応募の中から、約250の出展者を選定している。

ブースのサイズ・出展費用

各セクションのブースのサイズは次のとおり。

セクション区分 ブースサイズ ブース代 申込料 60m²、80m²、 1m² あたり 750US ドル 550US ドル ギャラリーズ 100 m²、120m²※ (約76,700円) (約76,700円) 20.500US ドル 550US ドル ノバ 36m²(約210万円) (約76,700円) 10.000US ドル 250US ドル ポジションズ $24m^2$ (約102万円) (約25,600円) 1m² あたり 750US ドル 550US ドル エディション $60m^2$, $80m^2$ (約76,700円) (約76,700円) 1m² あたり 750US ドル 550US ドル サーベイ 30 m^2 (約76,700円) (約76,700円) キャビネット 作品ベースでの出展 なし パブリック

図表・116 アート・バーゼル・マイアミビーチの出展費用

※2 つのギャラリーで100m² 120m² のブースを共有することも可能

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 -出展希望ギャラリーは主催者側に申込料を支払う(出展を断られた場合でも返金はされない)。
- ・アプリケーションの申込期限と結果発表時期は次表のとおり。

セクション区分	申込期限	結果発表	展示情報10発表	費用請求
ギャラリーズ				
ノバ				
ポジションズ	2014年3月7日	2014年4月末	2014年8月中旬	2014年9月中旬
エディション				
サーベイ				
キャビネット	2014年0日4日	2014年0日		
パブリック	2014年8月4日	2014年8月	_	_

図表・117 アート・バーゼル・マイアミビーチの出展の各期限

- ・出展の可否は次表のようなセレクション・コミッティーによって判断される。
- ・それぞれのメンバーの任期は5~10年。

99

¹⁰ フロアプラン、出展者の情報等

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Márcio Botner	A Gentil Carioca	ブラジル
Joanna Kamm	Galerie Kamm	ドイツ
Martin Klosterfelde	Galerie Klosterfelde	ドイツ
Andrew Kreps	Andrew Kreps Gallery	アメリカ
Dr.Ursula Krinzinger	Galerie Krinzinger	オーストリア
José Kuri	Kurimanzutto	メキシコ.
Friedrich Petzel	Friedrich Petzel Gallery	アメリカ
Jeff Poe	Blum & Poe	アメリカ
Mathias Rastorfer	Galerie Gmurzynska	スイス
Mary Sabbatino	Galerie Lelong	アメリカ
Fredric Snitzer	Fredric Snitzer Gallery	アメリカ
Luisa Strina	Galería Luisa Strina	ブラジル
Márcio Botner	A Gentil Carioca	ブラジル

図表・118 アート・バーゼル・マイアミビーチのセレクション・コミッティー

11)アート・バーゼル香港(Art Basel Hong Kong)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2013 年
開催回数	2 回
開催都市	中国・香港
ナム人相	香港コンベンション&展示センター
主な会場	(Hong Kong Convention and Exhibition Center: HKCEC)
	・4 日間
	・2014年5月15日(木)~18日(日)
会期	・12 時~19 時(16 日は~21 時、最終日は~17 時)
	(5月14日(水) 12時~17時はプライベート・ビューを、
	17 時~21 時はベルニサージュを開催)

- ・2008 年、アジアン・アートフェアーズ(Asian Art Fairs Ltd)によって第1回アート香港(ART HK)が実施される。第1回は100を超えるギャラリーが出展を行い、2万人の入場者を迎えた。その後、アート香港は拡大し、2012年に行われた第5回には266のギャラリーが出展し、6.7万人の入場者があった。
- ・2010 年からドイツ銀行 (Deutsche Bank) がアート香港のメインスポンサーとなる契約を結ぶ (最大 5 カ年の契約)。
- ・2011 年に7月にアート・バーゼルを運営している MCH Swiss Exhibition (Basel) Ltd が Asian Art Fairs Ltd の株式の 60%を取得し、2013 年からアート香港の名称をアート・バーセル香港と変更する (2013 年のメインスポンサーはドイツ銀行)。
- ・2014 年からは、アート・バーゼル、アート・バーゼル・マイアミビーチと同様に UBS がメイン スポンサーとなっている。

(2)主な会場・運営方法

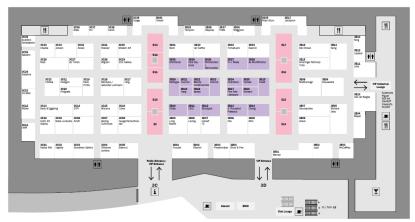
・アート・バーゼル香港は香港コンベンション&展示センターという場所で実施されている。



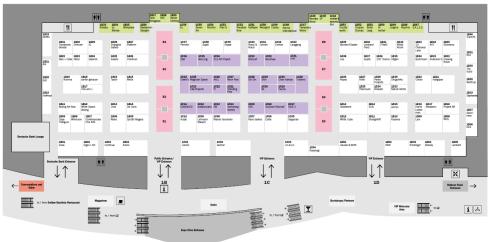
図表・119 香港コンベンション&展示センターの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

・会場の延べ床面積は約34,782m2である。



図表・120 アート・バーゼル香港の会場プラン (2014年)



出所) アート・バーゼル香港 Web サイト

図表・121 アート・バーゼル香港の会場風景





出所) アート・バーゼル香港 Web サイト

(3)入場料·来場者数

・入場料はウィークデイ・チケットが 250 香港ドル (約 3,300 円)、ウィークエンド・チケットが 300 香港ドル (約 4,000 円) である。

(4)出展者

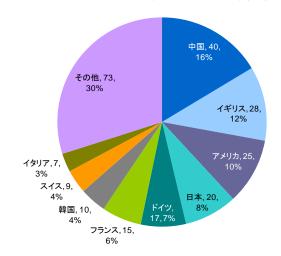
・フェアは、「ギャラリーズ(Galleries)」、「インサイツ(Insights)」、「ディスカバリーズ(Discoveries)」、「エンカウンターズ (Encounters)」、「フィルム (Film)」、「マガジンズ (Magazines)」とよばれるセクション及びプログラムから構成されている。

区分	特徴	
	アート・バーゼルの中心となるセクション。少なくとも3年以上の	
ギャラリーズ	経験がないと応募できない。プログラム全体の水準によって参加の	
	可否を評価される。	
	アート・バーゼル香港独自のセクション。出展はアジアもしくはア	
インサイツ	ジア・パシフィック(トルコからニュージーランド、中東を含む)	
	をベースとしたギャラリーから選出される。	
ディスカバリーズ	新進気鋭の現代アーティストを扱うセクション。ギャラリーは 1~2	
	名のアーティストを選定し展示を行う。	
	世界で評価されているアーティストの従来のアートフェアでは展示	
エンカウンターズ	されないような大規模な彫刻やインスタレーションの展示を行うセ	
	クション ¹¹ 。	
フィルム	アーティストが制作した映画やアーティストに関する映画を上映す	
	るプログラム。	
マガジンズ	出版社がアートに関する印刷物を展示するセクション。	

図表・122 アート・バーゼル香港の出展区分

- ・2014年の出展ギャラリーは244。
 - -36ヶ国・地域から参加、204の国外ギャラリー、40の国内(中国)ギャラリー
- ・内訳は、中国(15%)、イギリス(12%)、アメリカ(10%)、日本(8%)からの出展が多い。

¹¹ 長谷川祐子氏がキュレーションを担当。長谷川祐子氏は2012年のアート香港からプロジェクトのチーフ・キュレーターとなっている。



図表・123 アート・バーゼル香港の出展者の所在国(2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート・バーゼル香港 Web サイトより野村総合研究所作成

・2014年に日本からは次表のギャラリーが出展する予定である。

区分 ギャラリー名
タカ・イシイギャラリー、小山登美夫ギャラリー、ミヅマアートギャラリーズ NANZUKA contemporary art gallery、Kaikai Kiki Gallery、ギャラリー小柳、OTA FINE ARTS、スカイ・ザ・バスハウス、Shugo Arts、東京画廊+BTAP、山本現代ギャラリーヤマキファインアート、スタンディングパイン、GALLERY 小暮、MISA SHIN GALLERY、Gallery SIDE 2、Y++Wada Fine Arts
ディスカバリーズ ARATANI URANO、無人島プロダクション、Take Ninagawa

図表・124 アート・バーゼル香港への出展ギャラリー

(5)出展条件・方法

ブースのサイズ・出展費用

・各セクションのブースのサイズ、出展費用は次のとおり。

四次 120 / 1 1 2 7 日花 7 日 版			
セクション区分	ブースサイズ	ブース代	申込料
ギャラリーズ	40~50m ² 、50~70m ² 、70~90m ² 、90~110m ² 、110~130m ²	1m² あたり 730US ドル (約 74,700 円)	500US ドル (約 51,100 円)
インサイツ	30~40m²、40~55m²、 55~65m²	1m ² あたり 660USドル (約 67,500 円)	300US ドル (約 30,700 円)
ディスカバリーズ	24m²	13,500US ドル (約 138 万円)	300US ドル (約 30,700 円)
エンカウンターズ	80m²	4,800US ドル (約 49 万円)	_

図表・125 アート・バーゼル香港の出展費用

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。 -出展希望ギャラリーは主催者側に申込料を支払う(出展を断られた場合でも返金はされない)。
- ・アプリケーションの公開日と申込期限は次表のとおり。

 セクション区分
 アプリケーションの公開
 申込期限

 ギャラリーズ
 2014年5月23日
 2014年7月14日

 インサイツ
 (開催の約10ヶ月前)
 (開催の約8ヶ月前)

 エンカウンターズ
 2014年12月19日

図表・126 アート・バーゼル香港の出展の各期限

- ・出展の可否は次表のようなセレクション・コミッティーによって判断される。
- ・それぞれのメンバーの任期は5~10年。

図表・127 アート・バーゼル香港のセレクション・コミッティー

メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Massimo De Carlo	Massimo De Carlo	イタリア、イギリス
Emi Eu	Singapore Tyler Print Institute Gallery	シンガポール
Shireen Gandhy	Chemould Prescott Road	インド
Suzie Kim	Kukje Gallery	韓国
久保田真帆	SCAI THE BATHHOUSE	日本
David Maupin	Lehmann Maupin	アメリカ
Urs Meile	Galerie Urs Meile	中国、スイス
Zhang Wei	Vitamin Creative Space	中国

・また、ディスカバリーズ、モダンアート分野の選定に関しては次表の専門家のアドバイスも受けている。

図表・128 アート・バーゼル香港のセレクション・アドバイザー

区分	メンバー	所属ギャラリー名	所在地
ディスカバリーズ	Finola Jones	mother's tankstation	アイルランド
	蜷川敦子	タケニナガワ	日本
モダンアート	Mathias Rastorfer	Galerie Gmurzynska	スイス

出所) アート・バーゼル香港 Web サイト

12)アート・ステージ・シンガポール(ArtStage Singapore)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2010年
開催回数	5回
開催都市	シンガポール
主な会場	マリーナ・ベイ・サンズ(Marina Bay Sands)
	・4 日間
会期	・2014年1月16日(木)~19日(日)
	・12 時~19 時(最終日は~18 時)
	(1月15日は VIP ビューとベルニサージュを開催)

- ・アート・ステージ・シンガポールは、アート・バーゼルでディレクターの経験を持つロレンツォ・ルドルフ (Lorenzo Rudolf) によって 2010 年に立ち上げられ、2011 年に第1回を実施している。
- ・第2回 (2012年) からは、シンガポール・プラットフォーム (Singapore Platform) やプロジェクト・ステージ (Project Stage) というセクションを設けている。シンガポール・プラットフォームでは、シンガポール・ナショナル・アーツカウンシル (Singapore's National Arts Council) のサポートのもとシンガポールのアーティストを紹介し、プロジェクト・ステージ (Project Stage) ではキュレーターを設けアジアの複数の作家を紹介している。
- ・また、第4回(2014年)からは、これらをプラットフォーム(Platform)というセクションに一本化し、オーストラリア、中央アジア、中国、インド、日本、韓国、台湾、東南アジアといったセクションを設け、それぞれを各国・地域のキュレーター・コレクターがキュレーションを行っている。

(2)主な会場・運営方法

・アート・ステージ・シンガポールは、マリーナ・ベイ・サンズで実施されている。



図表・129 マリーナ・ベイ・サンズの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

図表・130 マリーナ・ベイ・サンズの外観、アート・ステージ・シンガポールの会場風景







図表・131 アート・ステージ・シンガポールの会場プラン (2014年)



出所) アート・ステージ・シンガポール Web サイト

- ・Art Stage Singapore Pte Ltd という企業が運営を担っている。
- ・Art Stage Singapore Pte Ltd の体制は以下のとおり。
 - -ファウンダー&フェア・ディレクター1名、マネージング・ディレクター1名、VIP リレーションズ3名、パブリック・リレーションズ担当2名、マーケティング担当2名、ショーマネジメント担当2名、出展者マネジメント担当2名、キュレーション・プロジェクト担当ディレクター1名、その他6名
- ・そのほかエグゼビター・コミッティーを設け、フェアのコンセプトや戦略に関するアドバイスを 受けている。

因表・132 アード・ペアージ・ジンガが一ルのエクとしケー・コミッティー		
メンバー	所属ギャラリー名	所在地
Matthias Arndt	ARNDT	ドイツ、オーストラリア、シンガポール
Tomio Koyama	小山登美夫ギャラリー	日本、シンガポール
Pearl Lam	Pearl Lam Galleries	中国、シンガポール
Jasdeep Sandhu	Gajah Gallery	シンガポール
Frédéric de Senarclens	Art Plural Gallery	シンガポール
Sundaram Tagore	Sundaram Tagore Gallery	中国、アメリカ、シンガポール
Cesar Villalon Jr	The Drawing Room	フィリピン、シンガポール
Can Yavuz	Yavuz Fine Art	シンガポール

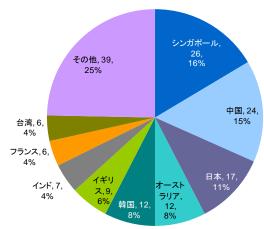
図表・132 アート・ステージ・シンガポールのエグゼビター・コミッティー

(3)入場料・来場者数

- ・入場料は1日パスが28シンガポールドル(約2,300円)、シーズン・パスが53シンガポールドル(約4,300円)である
- ・2014年には、45,700人の来場者があった。

(4)出展者

- 2014年の出展ギャラリーは158。
 - -27ヶ国・地域から参加、132の国外ギャラリー、26の国内(シンガポール)ギャラリー
- ・シンガポール (16%)、中国 (15%)、日本 (9%)、オーストラリア (8%)、韓国 (8%) などアジアから出展が多い。



図表・133 アート・ステージ・シンガポールの出展者の所在国 (2014年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート・ステージ・シンガポール Web サイトより野村総合研究所作成

- ・2014年、日本からは次表のギャラリーが出展している。
 - 児玉画廊、OTA FINE ARTS、ミヅマアートギャラリー、ギャラリー広田美術、ARATANI URANO、アートフロントギャラリー、CLEAR EDITION & GALLERY、Frantic Gallery、G/P+g3/gallery、小林画廊、NANZUKA、SHUGOARTS、WHITESTONE GALLERY、山本現代、酉福ギャラリー、YUMIKO CHIBA ASSOCIATES、小山登美夫ギャラリー

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ

・スタンドの面積は以下のパターンから選択する。 $-50m^2$ 、 $75m^2$ 、 $100m^2$ 、 $100m^2$ 以上

ブース代

・出展費用は 1m² あたり 720 シンガポールドル (約 58,200 円)。 (ただし 2013 年 6 月 30 日 (開催の約 6.5 ヶ月前) より前に申込を行うと、620 シンガポールドル (約 50,100 円) の早期料金が適用される。)

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う(応募費用は無料)。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2013年9月15日 (開催の約4ヶ月前)
- ・2013 年 10 月 7 日に出展の可否が応募者に対して伝えられる。

出展の条件

- ・自身のスペースにおいて定期的な展覧会の開催を最低3年以上行っているギャラリー(このような経験がないギャラリーも応募可能であるが、出品の可否は都度判断を行う)。
- ・出展の可否は以下のような基準によって判断される。
 - -展示・キュレーション内容 (強度、質、ダイナミズム、展示の成功に向けたコミットメントなど)
 - ーギャラリーのプログラム全体の質
 - アート・ステージ・シンガポールで展示を行う作家とギャラリーの協業経験
 - ーギャラリーが関係した展覧会・アートフェア
 - ーアジア・パシフィックのアートを強くフィチャーしたアート・ステージ・シンガポールとの 親和性

出品の条件

- ・1900年以降に制作されたビジュアルアーツが対象。
- ・民族美術、家具、デザインプロダクトは対象とならない。

13) **+ アフ**(KIAF)

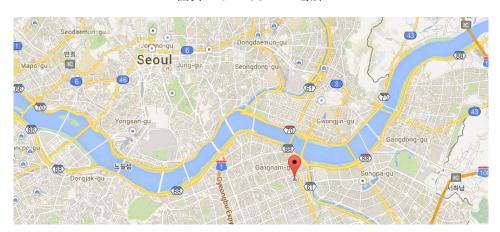
(1)基本情報·沿革

開始時期	2002 年
開催回数	12 回
開催都市	韓国・ソウル市
主な会場	COEX (Convention & Exhibition)
	・5 日間
会期	・2014年9月25日(木)~29日(月)
	・11 時~19 時(土曜日は~20 時、最終日は~17 時)
	(9月24日(水)17時~はVIPビューとベルニサージュを開催)

- ・KIAF は 2002 年に韓国画廊協会によって、アジア大会にあわせて釜山において実施された。
- ・2003年から会場をソウルに移し、現在まで12回実施されている。

(2)主な会場・運営方法

・KIAF は COEX (Convention & Exhibition) というコンベンションセンターで実施されている。



図表・134 COEX の場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成

図表・135 KIAFの会場プラン(2013年)

出所)KIAF Web サイト

・韓国画廊協会がオペレーティング・コミッティーを設け、フェアの運営を行っている。

役割	メンバー	所属
運営委員長	Pyo, Mi-Sun	PYO Gallery
副運営委員長	Yang, Ihn	Gallery IHN
組織委員長	Bhak, Byongwon	全国銀行連合会会長
事務局長	Yoo, Hae-sun	Chung Art Gallery
財務局長	Shon, Song-Ye	Chung Jark Gallery
	So, Jin-Su	江南大学 経済学教授
	Yoo, Jinsang	係造形芸術大学 融合芸術学科教授
	Choi, Jeongpyo	建国大学 経済学教授
海州 香具	Park, Sin-ui	慶熙大学 経営大学院 文化芸術経営学科教授
運営委員	Kim, Yongdae	梨花女子大学 造形芸術大学客員教授
	Kim, Tae-lck	朝鮮日報論説委員
	Yoo, Hae-sun	Chungart Gallery
	Kyu Hyon	美術批評家

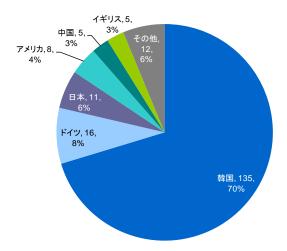
図表・136 KIAF のオペレーティング・コミッティー

(3)入場料·来場者数

- ・入場料は通常料金が15,000 ウォン(約14,000円)である。
- ・2013年には、約8.5万人の来場者があった。

(4)出展者

- ・2013年の出展ギャラリーは193。
 - -14ヶ国から参加、58の国外ギャラリー、135の国内(韓国)ギャラリー
- ・韓国のギャラリー倒的に多く、そのほかドイツ (8%)、日本 (6%) などが多くなっている。隣接 している中国からの出展は5ギャラリー (3%) にとどまっている。



図表・137 KIAFの出展者の所在国(2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)KIAF Web サイトより野村総合研究所作成

・2013年、日本からは次のギャラリーが出展している。

ーギャラリー・エデル、ギャラリー風、ギャラリー椿、It's Gallery (イッツギャラリー)、MEM、

OTA FINE ARTS、システマ ギャラリー、タグチファインアート、Toki-no-Wasuremono、WAKO WORKS OF ART、Whitestone Gallery

・2013年の総売上は190億ウォン(約18億円)としている。

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

・各セクションのブースのサイズ、出展費用は次のとおり。

		3. 130 KI/II り田及貝川
タイプ	サイズ	出展費用
	25.022	7,300 千ウォン(約 70 万円)
A	25.92m ²	1m² あたり 282 千ウォン(約 26,900 円)
D	38.88m ²	10,900 千ウォン(約 104 万円)
В		1m² あたり 280 千ウォン(約 26,700 円)
6	F1 04 2	14,500 千ウォン(約 138 万円)
С	51.84m ²	1m²あたり 280 千ウォン(約 26,700 円)
D	77.762	21,800 千ウォン(約 208 万円)
D	77.76m ²	1m² あたり 280 千ウォン(約 26,700 円)
Г	102 (02	32,000 千ウォン(約 306 万円)
Е	103.68m ²	1m² あたり 309 千ウォン(約 29,500 円)
Г	117.742	37,600 千ウォン(約 359 万円)
F	116.64m ²	1m² あたり 322 千ウォン(約 30,800 円)

図表・138 KIAFの出展費用

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う(ディポジットとして 3,000 千ウォン(約 29 万円)の払込みが必要)。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2014年3月21日 (開催の約6ヶ月前)。
- ・2014年4月30日前後に出展の可否が応募者に対して伝えられる。
- ・公平性を確保するため運営委員と外部の有識者で構成された審議委員を置き、出展の可否を判断している。

14)アート台北(Art Taipei)

(1)基本情報·沿革

開始時期	1992年				
開催回数	20 回				
開催都市	台湾・台北市				
主な会場	台北ワールド・トレード・センター(Taipei World Trade Center)				
	・4 日間				
<u> </u>	・2013年11月8日(金)~11月11日(月)				
会期	・11 時~19 時(最終日は~18 時)				
	(11月7日(木) 15時~21時は VIP ビューとベルニサージュを開催)				

- ・1992年に台湾画廊協会が設立され、同年、アート台北の第1回が実施される。
- ・2013年には20回目を迎え、アジアでは最も歴史のあるアートフェアとなっている。

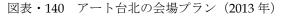
(2)主な会場・運営方法

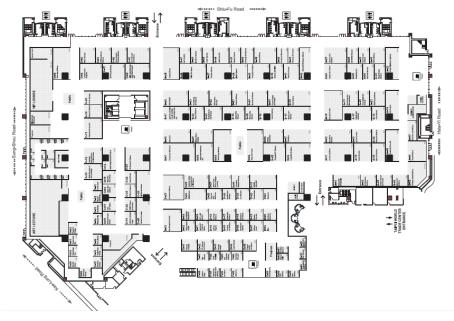
・アート台北は台北ワールド・トレード・センター(Taipei World Trade Center)で実施されている。



図表・139 台北ワールド・トレード・センターの場所

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成





出所)アート台北 Web サイト

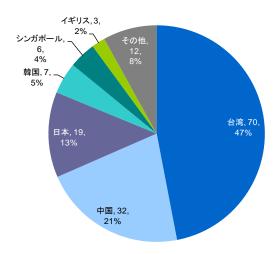
- ・アート台北は文化省が主体となり、運営は台湾画廊協会が行っている。
- ・台湾画廊協会の体制は以下のとおり。
 - -会長1名、副会長1名、事務局長1名
 - -コンストラクション&デザイン担当1名、マーケティング&コミュニケーション担当4名、 会計担当1名、CRM担当、管理担当2名

(3)入場料・来場者数

- ・入場料は1日券が300台湾ドル(約1,000円)、4日通し券が550台湾ドル(約1,900円)である。
- ・2012年には、約5.2万人の来場者があった。

(4)出展者

- ・2013年の出展ギャラリーは149。
 - -14ヶ国から参加、79の国外ギャラリー、70の台湾のギャラリー
- ・台湾が47%と約半数を占める。そのほか中国(21%)、日本(13%)などが多くなっている。



図表・141 アート台北の出展者の所在国(2013年)

※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)KIAF Web サイトより野村総合研究所作成

- ・2013年、日本からは次のギャラリーが出展している。
 - -DMO ARTS、G/P + g3/ gallery、ガレリアグラフィカ、カイカイキキギャラリー、小林画廊、ギャラリー小暮、ミヤケファインアート、日動コンテンポラリーアート、Ohsima Fine Art、彩鳳堂画廊、湘南台画廊、ShugoArts、Gallery Suchi、東京画廊+BTAP、ギャラリー戸村、ギャラリー椿、waitingroom、Whitestone Gallery、YOD Gallery
- ・2011年の総売上は10億台湾ドル(約34億円)としている。
- ・アート台北の出展区分は「アート・ギャラリーズ」、「ニューメディア」に分かれている。「ニューメディア」には、デジタルアート、バーチャル・アート、インタラクティブ・アート、ビデオ、マルチメディア、写真などの新しいメディアを使ったアートを扱うギャラリーが出展できる。

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

(アート・ギャラリーズ)

- ・各セクションのブースは 30m^2 、 36m^2 、 48m^2 、 60m^2 、 72m^2 以上のサイズから選択する。
- ・1m² あたりの価格は 400US ドル(約 40,900円)となっている。
- ・主要な通路沿いのスペースを希望する場合は 1m² あたり 120US ドル (約 12,300 円) の追加料金が必要となる。

(ニューメディア)

- ・ブースのサイズは 15m²のみ。
- ・価格は 3,600US ドル (約37万円)、1m² あたり 260US ドル (26,600円) となっている。

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。
- ・送付の期限は、2014年の出展の場合は2014年5月20日(開催の約5ヶ月前)である。
- ・出展が認められた場合は、応募者は2週間以内に8,000USドルを主催者に支払い、8月30日までに残りの出展料を支払わなくてはならない。
- ・出展の可否は次表のようなセレクション・コミッティーによって判断される。
- ・それぞれのメンバーの任期は5~10年。

メンバー	所属ギャラリー名	所在地					
Richard Chang	Galerie Grand Siecle	台湾					
Emily Chao	Eslite Gallery	台湾					
Chung Chinghsin	Da Xiang Art Space	台湾					
Huan-hsien Liu	East Gallery	台湾					
Isa Lorenzo	SILVERLENS	フィリピン					
Rick Wang	AKI Gallery	台湾					
Woo Chankyu	Hakgojae	韓国					
山本豊津&田畑幸人	東京画廊+BTAP	日本					
Zheng Lin	Tang Contemporary Art	中国					

図表・142 アート台北のセレクション・コミッティー

15)アート北京(Art Beijing)

(1)基本情報·沿革

開始時期	2006年				
開催回数	8 回				
開催都市	中国・北京市				
主な会場	国立農業展覧館(Agricultural Exhibition Center of China)				
	・4 日間				
会期	・2014年5月1日(木)~5月3日(土)				
云朔	・12 時~21 時 (最終日は~19 時)				
	※4月30日18時~22時はVIPプレビューを実施				

- ・2006年に第1回のアート北京が実施される。
- ・2011年からは現代美術だけでなく古美術も扱う現在の展示方法を採用している。

(2)主な会場・運営方法

・アート北京は国立農業展覧館(Agricultural Exhibition Center of China)で実施されている。



図表・143 国立農業展覧館

出所) Google Map をもとに野村総合研究所作成



E1 • E2 • E3 • E4 • E5 | E6 • E7 • E8 • E9 • E10 | E11 • E12 • E13 •

□ 标准限位 (E/F)
□ 专题展区 Special Exhibition
② 公共服务区 Service Desk

図表・144 アート北京の会場プラン (2014年)

出所)アート北京 Web サイト

・運営は、Beijing ArtFair Culture Co. Ltd が行っている。

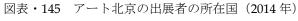
经典展区-3号馆 Classic Art Section-Hall 3

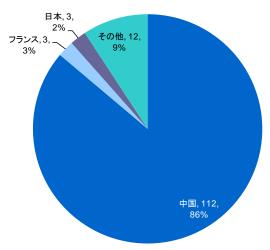
(3)入場料·来場者数

・入場料は50元(約800円)、身体障害者、身長120cm以下の子どもは無料である。

(4)出展者

- ・2014年の出展ギャラリーは130。
 - -12 ヶ国・地域から参加、18 の国外ギャラリー、112 の国内(中国) ギャラリー
- ・大半が中国(86%)からの出展である。





※国、出展ギャラリー数、全体に占める割合の順で記述 出所)アート北京 Web サイトより野村総合研究所作成

・2014年、日本からは次のギャラリーが出展する予定である。ーミヅマアートギャラリー、WHITESTONE GALLERY、東京画廊+BTAP

(5)出展条件·方法

ブースのサイズ・出展費用

- ・スタンドの面積は $18m^2$ 、 $36m^2$ 、 $42m^2$ のパターンから選択する。
- ・出展費用は1m²あたり2,200元(約36,900円)。

出展のプロセス

- ・出展希望ギャラリーはアプリケーションフォームに記入して、主催者に送付を行う。
- ・送付の期限は2014年の出展の場合は、2014年1月31日(開催の約3ヶ月前)
- ・2014年2月末まで出展の可否が応募者に対して伝えられる。
- ・出展の可否は次表のようなセレクション・コミッティーによって判断される(コミッティーのメンバーは非公開)。

第4章 アジアの諸地域の現代美術に係る支援制度や状況

4-1. 香港の状況

香港ではこれまでアート・バーゼル香港が行われたり、2大オークション会社(クリスティーズ、サザビーズ)によりセールが行われたりしているが、公立の現代美術館は存在しなかった。現在、2017年のオープンを目指し香港のウエスト・カオルーンという地区で M+という巨大な現代美術館の開発が進んでいる。

ウエスト・カオルーン地区の開発

- ・M⁺の建設は、ウエスト・カオルーンという地区で政府が保有する 40 万 m² にもわたる土地を文化 地区として開発する計画の一部として位置づけられている。
- ・ウエスト・カオルーン地区には美術館のほか、コンテンポラリー・パフォーミング・センター、ミュージカル・シアター、リリック・シアター、ミュージック・センター、中国オペラ(Xiqu)センターなどの文化施設、公園、商業施設などが開発される予定である。
- ・開発となっている施設は延床面積で74万 m²、開発費は216 億香港ドル(2,850 億円)となる予定である。
- ・土地は、芸術文化施設: 39.5%、住居: 20.0%、小売店・飲食店・娯楽施設: 16.4%、オフィス: 15.4%、 宿泊施設: 7.6%、政府機関: 1.1%の区分で利用される。
- ・小売店・飲食店・娯楽施設の収益は芸術文化施設の運営費にあてられ、また、住居、オフィス、宿 泊施設の収益は香港政府に還元される。
- ・ウエスト・カオルーン地区の開発は香港政府の外郭機関であるウエスト・カオルーン文化地区管理局が担っている。ウエスト・カオルーン文化地区管理局には CEO オフィス、M+(ディレクターはラース・ニッテヴェ氏)、パフォーミングアーツ部、財務部、人事部、コミュニケーション&マーケティング部などの様々な部署が存在する。

M⁺が目指すもの

- ・M+は「20 世紀・21 世紀の視覚芸術に世界的な目線と香港の目線を持ちながらフォーカスし、オープン・柔軟・前向きな態度で人々を啓発・教育し、人々に創造性と多様性をもたらすこと」をミッションとしている。
- ・また、「アジアの美術館の物理的、質的なレベルの向上」、「市民との強い結びつきを第一に考えた、 公共サービスの提供」、「今日の美術館とは、香港に必要な美術館とはという問いを考えること」を 3本柱としている。

M⁺の建築

- ・本地区の基本設計はフォスター&パートナーズが行い、地区に建つ各施設の設計はそれぞれデザイナーや建築家に依頼している。
- ・M+の建築はヘルツォーク&ド・ムーロンと TFP ファレルズのデザインを採用した。

\mathbf{M}^{+} のコンテンツ・コレクション

・扱うコンテンツは「ビジュアル・アート」、「デザイン・建築(含むファッション、ポップ・カルチャー)」、「ムービング・イメージ(映画、ビデオ、デジタルアートなど)」の3分野である。

- ・中国の現代美術の収集家として有名な、ウリ・シグ氏からの寄贈作品がコレクションの中心である。 美術館はウリ・シグ氏のコレクション(1,510 点)の一部(50 点)を購入し、残り(1,460 点)が 寄贈された。
- ・作品収集予算は10億香港ドル(約132億円)である。
- ・M+のキュレーターはアシスタントも含め 15 人、今後は 30 人程度まで増員予定である。キュレーター の国籍はアメリカ、ドイツ、中国、台湾、香港など多岐にわたる。

4-2. 台湾の状況

台湾の関係者のヒアリングを行った際には、台湾では作家やギャラリーへの補助制度が充実している との意見が多く聞かれた。ここでは、「アートフェア参加に関する補助制度」について紹介を行う。

ヒアリングでの意見

- ・台湾政府はヴェネチア・ビエンナーレの台湾パヴィリオンやアルセナーレといった国際 美術展だけでなく、台湾人アーティストが個人的に企画するプロジェクトにも支援してい る。(国際美術展関係者)
- ・台湾政府は国際的な活動に関しては、基本的に支援する方針となっており、助成金は申請書類を提出すれば必ず受けることができる。助成額が問題である。(国際美術展関係者)
- ・台湾政府の予算は、国内で開催される事業への助成と海外に出展する際の助成の2つに 分かれている。(国際美術展関係者)
- ・台湾ではアーティストが国際美術展に出展することが決定したら、政府に補助金を申請 することができる。また、現在、ギャラリーが補助金を受けることができるように、政府 が規制を変えている。(アートフェア関係者)
- ・国際的な観点からすれば、台湾はとても小さな国であり、台湾国内のギャラリーの規模 もとても小さい。アートフェアへの出展費用はギャラリーの規模に関わらず同一で、規模 の小さい台湾のギャラリーは不利であるので、政府の資金援助が必要不可欠である。ギャ ラリーだけの力で台湾人アーティストを世界に発信することは難しい。(アートフェア関 係者)

アートフェア参加に関する補助制度(「視覺藝術產業辦理或參加國際藝術展會」補助)

- ・アートフェアへの出展を行う企業や個人を対象として、航空運賃、輸送経費、保険、会場のレンタル費、登録費、マーケティング費、販売促進費などの費目について全体の支出の50%を上限として助成を行う制度。
- ・募集は2期にわたって行われている。
- ・評価は「参加する美術展の重要性」、「計画の質と実行可能性(計画は台湾の作家の展示が中心であることが必要)」、「マーケティング及びプロモーション施策」、「資金調達の合理性」、「関連企画と 人員計画」などの視点から行われる。
- ・例えば、2013 年度第1期の募集では11件に対して869万台湾ドル(約2,900万円)を助成した。内 訳は、台湾画廊協会(中華民國畫廊協會)によるアート台北の実施に対して600万台湾ドル(約 2,000万円)、Project Fulfill ART SPACE(就在藝術國際有限公司)によるアート・バーゼル香港へ の出展に対して80万台湾ドル(約270万円)などとなっている。また、2013年度第2期の募集で は27件に対して651万台湾ドル(約2,200万円)を助成した。

4-3. 韓国の状況

韓国でも香港と同じように、国立近現代美術館のソウル館という巨大な美術館の開発が進められ 2013 年に開館している。

国立近現代美術館ソウル館開発の経緯

- ・国立近現代美術館(果川館)は、1969年にソウルの景福宮内で開館し、1986年に果川にあるソウル 大公園に移転した。また、1998年に分館として徳寿宮美術館(現・国立近現代美術館徳寿宮館) が開館している。
- ・国立近現代美術館の立地する果川は、ソウルから最速で40分ほどの位置にあり、ソウル中心部の市 民は日常的にはアクセスしづらい場所にあった。2002年から、市の中心部にも現代美術に触れる ことのできる場所が必要であるという議論が盛り上がり、2009年にソウル中心部において国立現 代美術館の分館の建設が決められた。
- ・また、2015年開館を目標として、忠清北道清州市に国立近現代美術館清州館を建設中である。

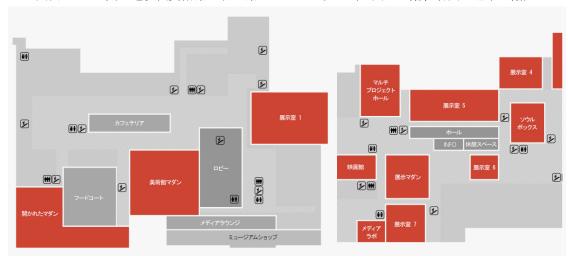


図表・146 国立近現代美術館ソウル館

国立近現代美術館ソウル館の概要

- ・国立近現代美術館ソウル館は、ソウル都心の景福宮近くに 2013 年に開館した。
- ・かつての軍事施設である赤レンガの建物を一部活用し建設された。
- ・敷地面積は 27,264m²で、延べ面積は 52,125 m²である。開発に際しては、総事業費 2,460 億ウォン (235 億円) が投じられた。
- ・ソウル館に関しては、入場者数や収入に関する目標は国から課せられていないが、年間で約200万

人の来場者を見込んで計画されている。



図表・147 国立近現代美術館ソウル館のフロアマップ (左図は1階、右図は地下1階)

出所) 国立近現代美術館Web サイト

国立近現代美術館ソウル館のコンテンツ・コレクション

- ・ソウル館は21世紀以降に制作されている現代美術作品及びメディアアートなど新しい形式の作品、 果川館は韓国の現代美術作品、徳寿宮館は20世紀初頭の韓国の近代美術作品、清州館は収蔵及び 保存(コンサベーション)を中心に扱っている。
- ・ソウル館にあるのは一時的な収蔵庫のみで、国立美術館のコレクションの大部分は、果川の収蔵庫に保管されている。展覧会のためにソウル館に輸送し展示している。清州館オープン後は、果川館にある全作品が清州館に収蔵されることになる。

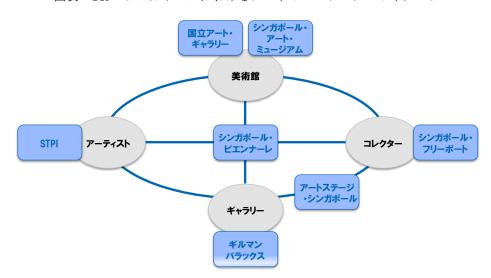
国立近現代美術館ソウル館の運営方法

- ・韓国政府文化体育観光部の中に文化芸術局視覚デザイン課があり、その傘下に国立近現代美術館が 位置づけられている。
- ・1986年に開館した果川館では職員 100 人全員が公務員であった。現在は、公務員だけでなく契約職員の割合が高まっている。
- ・国立近現代美術館は文化体育観光部の一部であるため、展覧会や事業に対する助成などの、民間ギャラリー、私立美術館の支援も行っている。民間へのコレクションの貸し出しも行っている。

4-4. シンガポールの状況

近年、シンガポールでは国家主導で現代美術に関する様々なインフラが整備されている。前述のシンガポール・アート・ミュージアムによるシンガポール・ビエンナーレの実施と、アート・ステージ・シンガポールの実施のほか、新たな美術館として国立アートギャラリー(2015 年開館予定)、アーティストのレジデンス施設であるシンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート、ギャラリーの集積地であるギルマン・バラックス、主に美術品向けの保税倉庫であるシンガポール・フリーポートなどを整備している。

本事業におけるシンガポールでのヒアリング調査では、複数の方々から「エコシステム(生態系)」というキーワードが聞かれた。シンガポールの現代美術の活性化のために、現代美術を支える各プレーヤー (美術館、コレクター、ギャラリー、アーティスト等)のそれぞれが、十分に機能し、さらには相互に 相乗効果を生み出すような環境を整備することを政策として重視している。



図表・148 シンガポールにおけるアートのエコシステムのイメージ

ヒアリングでの意見

- ・アート・ステージは 100%民間のプライベートフェア。政府からの援助も制約もない完全 に自由なフェアである。政府はアートのエコシステムの一環としてフェアを認識している。(アートフェア関係者)
- ・アートに関してはあまり政策を設けない方が賢明だと思うが、政府にしかできない事があるはず。アートはエコシステムとして考えなければならない。まずはその全体像を描く事から始めるべきである。お金は血液。身体の各臓器は血液が無ければ機能しない。美術館にできる事には限界があるため、アートにもビジネスは必要。(コレクター)

以下に、シンガポール政府の体制及び施策、各施設の概要について紹介する。

1)シンガポール政府の体制

シンガポールでは、文化社会青年省(Ministry of Culture Community and Youth)が文化政策を担当している。また、文化社会青年省が管轄する外郭機関として国家遺産局(National Heritage Board)やアーツ・カウンシル(National Arts Council)が存在する。

また、国家遺産局は各種文化施設を管轄しており、シンガポール・アート・ミュージアム(Singapore Art Museum)、国立アートギャラリー(National Art Gallery)、シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート(Singapore Tyler Print Institute)はこの国家遺産局の傘下にあり、各種文化施設の職員は国家遺産局職員でもある。国家遺産局の職員は約350名である。

アーツ・カウンシルは文化施設や文化団体への助成が主な役割である。また、アーツ・カウンシルはシンガポール・ビエンナーレのオーガナイザーでもあり、2013年のビエンナーレはアーツ・カウンシルがシンガポール・アート・ミュージアムに依頼し実施している。アーツ・カウンシルの構成人数

は200人。政府の機関であるので、各アートのカテゴリーごとに部署を設けている。各部署はディレクター、サブ・ディレクター、アシスタント・ディレクターなど、計4~5人で構成されている。ヴェネチア・ビエンナーレのシンガポール・パヴィリオン、過去3回のシンガポール・ビエンナーレもアーツ・カウンシルが企画している。

2)国立アートギャラリーの整備

2015年に国立アートギャラリーが開館する予定である。国立アートギャラリーの建物はシンガポールの歴史的建造物である、旧裁判所と旧市庁舎を利用して作られ、64,000m²の広さとなる予定である。総事業費は5.3億シンガポールドル(約430億円)とされている。

従来から、シンガポールには国立の美術館としてシンガポール・アート・ミュージアムが存在していたが、国のコレクションが増えるに伴い、展示・保管スペースが不足してきたため新たな美術館の建設に至った。シンガポール・アート・ミュージアムは現代美術の作品を中心に展示している中で、国立アートギャラリーはシンガポールや東南アジアの19世紀から現代までの作品を展示する。

現在、国立アートギャラリーのキュレーターは9人。将来的には20人ほどに増員する予定である。

図表・149 国立アートギャラリー (中央写真が旧裁判所、右写真が旧市庁舎)







3)ギルマン・バラックスの整備

ギルマン・バラックスは 2012 年にオープンしたシンガポールの中心地から車で 15 分ほどの場所にあるギャラリーの集積地である。64,000m²の土地にあるイギリスの植民地時代の軍関係の 14 の建物を活用し、17 の国際的なギャラリーが入居している(日本からは小山登美夫ギャラリー、ミヅマアートギャラリー、OTA FINE ARTS が入居)。

ギルマン・バラックスの開発・運営を行っているのは経済開発庁 (Singapore Economic Development Board: EDB)、ディベロッパー (JTC Corporation)、アーツ・カウンシルである。ギルマン・バラックス内のギャラリーの選定・営業の可否の判断はこれら3者が行っている。

また、2014年にギルマン・バラックス内に経済開発庁の支援を受け、南洋理工大学(NTU)の傘下として非営利の現代美術センター(Center of Contemporary Arts: CCA)がオープンした。



図表・150 ギルマン・バラックスと CCA

4)シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュートの整備

STPI(Singapore Tyler Print Institute)は、施設が持つ印刷と製紙技術をもとに、アーティストを招聘し、レジデンスを行ってもらい、これまでと違った新たな作品を作ってもらうための施設である。

1996年にシンガポール・アート・ミュージアムが唯一の美術館としてオープンしたが、現代美術コレクションの欠如という問題を抱えていた。一方で、コレクションを充実させる予算が不足していたため、世界中からアーティストを集めて現代美術を制作する場を設立する目的から STPI の設立が検討されはじめ、2002年にオープンしている。

プリンター7名を含む計 24人が従事している。運営費の 20%は政府からの支援、残り 80%は作品販売やプロジェクト企画などの自主事業によってまかなっている。アーティストが STPI で制作した作品は美術館やコレクターへ販売している。2013年は、STPI としてアート・バーゼルに出展している。STPIでは、国内から 1人、アジアから 4人、欧米から 1 を選定している。



図表・151 シンガポール・タイラー・プリント・インスティチュート



5)シンガポール・フリーポートの整備

シンガポール・フリーポートは2010年に設立された保税倉庫である。ここに作品を預ければ、国内への作品持ち込みに伴う関税を支払う必要がない。

株主兼経営者はスイスの民間企業 Natural Le Coultre SAGroup(ジュネーブ・フリーポートの株主 兼経営者)である。Natural Le Coultre SAGroup はジュネーブ・フリーポートの株主兼経営者でもあ り、ジュネーブ・フリーポートが補償限度額を超えたため、2006 年、シンガポールの経済開発庁とコンタクトを取り、シンガポール・フリーポートの開業に至った。

シンガポール・フリーポートは現状、満室状態である。今後は、シンガポール・フリーポートの正面の土地を活用し、拡張工事を行う予定である。

図表・152 シンガポール・フリーポート







6)その他の施策

これらの文化施設の整備以外にもシンガポール政府は文化振興において以下のような、特筆すべき 取り組みを行っている。

ルネッサンス・シティ・プラン(Renais<u>sance City Plan)の</u>策定

- ・政府は文化政策のマスタープランとして、2000 年より定期的に「ルネッサンス・シティ・プラン (Renaissance City Plan: RCP)」を策定し10年単位の文化政策のあり方を示してきている(2000年に Plan II、2005年に Plan II、2008年に Plan IIを発表)。また、2013年には「Arts and Culture Strategic Review」という補足レポートが示された。
- ・シンガポールの文化政策ではこのプランの遂行が徹底されており、近年、シンガポールで整備されてきた文化施設の多くはこれらのプランに明記されている。
- ・RCPⅢでは、RCPIとⅢの成果として「シンガポールが世界的に芸術文化の都市として認知されるようになってきたこと」、「芸術文化に活気が出てきたこと」、「芸術文化の需要の上昇と尊敬する気持ちが生まれてきたこと」、「国に関する誇りが増したこと」をあげている。
- ・また、直面する課題として「都市間競争が激しさを増していること」、「社会的、文化的な違いからの圧力」をあげており、図表・153のような戦略目標を示している。

図表・153 ルネッサンス・シティ・プランでの戦略目標

I. 特色のあるコンテンツ

- ・世界レベルの文化・エンターテイメント地区を作る
- ・シンガポールとアジアに焦点を当てたオリジナルコンテンツを初公開する選択肢となる
- ・メード・イン・シンガポールのコンテンツの世界的なショーケースとなる

Ⅱ. ダイナミックなエコシステム(生態系)

- ・才能とビジネスの盛んなクラスターを開発する
- ・プロの芸術や文化における能力、特に、アート・ビジネスのための専門的な能力を強化する
- ・産業と接続した専門的なアートのトレーニングを強化する

Ⅲ. コミュニティへの参加

- 一般的な芸術や人文科学教育の充実
- ・芸術文化を通じて地域社会・ボンディングと誇りを強化する
- ・芸術文化に対する民間慈善とスポンサーシップに対するインセンティブを強化する
- ・研究とコミュニケーションを通じて芸術文化の政策提言能力を強化する

出所)「Renaissance City Plan Ⅲ」をもとに野村総合研究所作成

シンガポール・アートウィークの策定

- ・シンガポールでは毎年1月のアート・ステージ・シンガポールが実施される4日間程度をシンガポール・アートウィークと位置づけ、国内の美術館、ギルマン・バラックス等の関連施設で連携したイベントが行われている。
- ・イベントの内容を告知するために、リーフレットも街中で無料で配布されている。
- ・シンガポール・ビエンナーレは元々、秋に実施されていたが、第4回(2013年)からシンガポール・アートウィークの期間にあわせて10月~2月に会期を変更している。

- ・観光庁が主体となり、アート・ステージの開催に合わせて多くのイベントが開催されている。(シンガポール関係者)
- ・フェア期間中に現代美術センター (CCA) がトークイベントを開催。各美術館のディレクターが集い、終日トークセッションを開催したり、オープニングイベントを会期中に集中させたりして足並みを揃えている。(シンガポール関係者)
- ・ビエンナーレの開催時期をアート・ステージと合わせたのも意図的である。ビエンナーレで展示している作家の作品をアートフェアで購入することができるという相乗効果を狙ったものでもある。アート・ステージの3ヶ月前からビエンナーレを開催することで、ギャラリーはビエンナーレに出品された作品を踏まえ、取り扱う作家を選ぶことになる。(シンガポール関係者)
- ・今回のアート・ウィークでは、アート・ステージとビエンナーレの開催期間が重なる様 に計画されていた。(シンガポール関係者)

カルチュラル・マッチング・ファンド(Cultural Matching Fund)

- ・2013 年 11 月、文化社会青年省により、アートや文化遺産への資金援助の取り組みとして、カルチュラル・マッチング・ファンド (Cultural Matching Fund) という制度が始められた。
- ・本制度は、これは個人から文化団体に寄付があった場合、その同額を政府が支援する制度で、文化団体は寄付額の2倍の額を収入とすることができる(また、シンガポールでは個人が寄付を行った場合、寄付総額の2.5倍の税額が控除される)。なお、政府が支援する額は1つの寄付あたり、上限は30万シンガポール・ドル(約2,400万円)となっている。
- ・本制度の運用はアーツ・カウンシルが行っている。
- ・2013年の個人による文化団体への寄付額は3,220万シンガポールドル(約26億円)であった。

パトロン・オブ・ザ・アート賞(Patron of the Arts Awards)

・アーツ・カウンシルは 2010 年より文化団体への寄付に貢献してくれた個人や企業を表彰する賞として、「パトロン・オブ・ザ・アート賞 (Patron of the Arts Awards)」の授与を行っている。事前にエントリーを行い、年間の寄付額によってランク別 (5 段階)の賞が授与される仕組みである。この賞を与えられる事により、新聞をはじめとしたメディアで取り上げられ、受賞者にとって大きな利益となる (従って、受賞者の多くは企業である)。

第5章 世界的に活躍する現代美術の作家・キュレーターの状況

5-1. 世界的に活躍する現代美術の作家

ここでは、現代美術の作家を一定の条件をもとに選定し、それらの作家がこれまで参加してきた国際 美術展を整理している。

作家の選定においては「マーケットにおける状況」、「アート関係者による評価」をもとにしている。「マーケットにおける状況」は「Artprice」が発表している「The Art price annual report¹²」を参考にしている(図表・154 参照)。また、「アート関係者による評価」は「Art Review」誌が 2002 年以降、毎年発表している「Art Review Power 100」を参考にしている(図表・155 参照)。なお、ここでの作家は存命かつ 1945 年以降に誕生した作家を対象としている。

作家の具体的な選定条件は以下のとおりである。

条件1

「The Art price annual report」において過去3年間のオークションの販売額が上位 25 位に入っている作家。

※中国人作家が多く含まれているため、中国人作家は2名とした。

基準2

「Art Review Power 100」において 2002 年~2013 年の間に 4 回以上取り上げられ、かつ 2012 年・2013 年のどちらかに取り上げられている作家。

基準1もしくは基準2を満たした作家として以下の23人が該当した(各作家の詳細は図表・156参照)。 それぞれの条件で抽出した作家の重複は少なく、マーケットにおいて評価されている作家とアート関係 者によって評価されている作家は必ずしも一致しないことが明らかになった¹³。

基準1と基準2の両方

ジェフ・クーンズ、ダミアン・ハースト、村上隆、シンディ・シャーマン

基準1のみ

ゼン・ファンジー(曾梵志)、ジャン・シャオガン(張曉剛)、クリストファー・ウール、 リチャード・プリンス、アンドレアス・グルスキー、ピーター・ドイグ、アンゼルム・キーファー、 アニッシュ・カプーア、奈良美智、マーク・グロッチャン

<u>基準2のみ</u>

アイ・ウェイウェイ、リアム・ギリック、マリーナ・アブラモビッチ、イザ・ゲンツケン、ローズマリー・トロッケル、スティーブ・マックイーン、トーマス・ヒシュホルン、 ティノ・セーガル、ヴォルフガング・ティルマンス

^{12 「}CONTEMPORARY ART MARKET 2011/2012」、「Contemporary Art Market The Artprice annual report 2013」を参考。

¹³ シンポジウムの中でも「ノンプロフィットの形でサポートを受けるのか、あるいはコマーシャルで作品が売れることで稼ぐのか、作家は住み分けている、住み分けざるを得ない状況があるような気がします。」といった意見があがった。

図表・154 「The Art price annual report」において過去3年間の販売額が多い作家

3年間	の合計						順位		金額 (億円)		
順位	金額 (億円)	作家名		誕生年	出身国	13 年	12年	11 年	13年	12 年	11年
1	297	ジャン=ミシェル・バスキア	Jean-Michel Basquiat	1960-1988	アメリカ	1	1	1	163	80	55
2	98	ゼン・ファンジー (曾梵志)	Zeng Fanzhi	1964	中国	4	2	2	25	33	39
3	86	ジェフ・クーンズ	Jeff Koons	1955	アメリカ	2	9	4	40	15	30
4	63	チェン・イーフェイ(陳逸飛)	Chen Yifei	1946-2005	中国	7	8	3	17	15	30
5	58	ジャン・シャオガン (張曉剛)	Zhang Xiaogang	1958	中国	17	5	5	9	19	30
6	58	クリストファー・ウール	Christopher Wool	1955	アメリカ	3	3	15	25	22	10
7	55	ジョウ・チュンヤ (周春芽)	Zhou Chunya	1955	中国	5	6	10	24	16	15
8	53	ダミアン・ハースト	Damien Hirst	1965	イギリス	8	4	9	17	21	15
9	45	リチャード・プリンス	Richard Prince	1949	アメリカ	13	7	6	10	16	18
10	35	ワン・ユイドン (王沂東)	Wang Yidong	1955	中国	22	15	7	8	10	16
11	34	村上隆	Takashi Murakami	1962	日本	21	13	8	8	11	16
12	31	アンドレアス・グルスキー	Andreas Gursky	1955	ドイツ	10	17	21	12	10	9
13	29	ピーター・ドイグ	Peter Doig	1959	イギリス	6	72	25	20	2	7
14	28	シンディ・シャーマン	Cindy Sherman	1954	アメリカ	35	11	12	5	12	11
15	27	アンゼルム・キーファー	Anselm Kiefer	1945	ドイツ	26	12	18	7	11	10
16	26	アニッシュ・カプーア	Anish Kapoor	1954	インド	11	23	31	12	8	6
17	26	リュウ・ウェイ (刘韡)	Liu Wei	1965	中国	23	24	13	8	8	11
18	26	ルオ・ゾングリィー (罗中立)	Luo Zhongli	1948	中国	18	18	23	9	9	8
19	25	ファン・リジュン (方力鈞)	Fang Lijun	1963	中国	36	14	16	5	10	10
20	25	ヤン・フェイユン (楊 飛雲)	Yang Feiyun	1954	中国	12	16	43	11	10	4
21	25	ヒ・ジアイン (舞之憩)	He Jiaying	1957	中国	31	10	34	6	13	6
22	25	リュ・イエ (劉燁)	Liu Ye	1964	中国	27	22	14	7	8	10
23	24	アイ・シュアン (艾軒)	Ai Xuan	1947	中国	15	26	22	9	7	8
24	22	奈良美智	Yoshitomo Nara	1959	日本	16	27	28	9	6	7
25	22	マーク・グロッチャン	Mark Grotjahn	1968	アメリカ	9	36	50	15	4	3

3年間	の合計						順位		金	額(億円])
順位	金額 (億円)	作家名		誕生年	出身国	13年	12年	11 年	13年	12 年	11 年
26	21	ミケル・バルセロ	Miquel Barcelo	1957	スペイン	42	25	19	4	7	10
27	20	キース・ヘリング	Keith Haring	1958-1990	アメリカ	19	30	30	8	5	6
28	20	ルドルフ・スティンゲル	Rudolf Stingel	1956	イタリア	20	33	26	8	4	7
29	19	リュー・シャオドン (劉小東)	Liu Xiaodong	1963	中国	51	54	11	3	3	14
30	17	グレン・ブラウン	Glenn Brown	1966	イギリス	28	20	61	6	8	3
31	16	ワン・ミンミン (王銘銘)	Wang Mingming	1952	中国	24	29	55	8	6	3
32	15	ユエ・ミンジュン (岳敏君)	Yue Minjun	1962	中国	64	19	37	3	8	5
33	15	マウリツィオ・カテラン	Maurizio Cattelan	1960	イタリア	59	21	38	3	8	5
34	15	ジョージ・コンド	George Condo	1957	アメリカ	34	28	47	5	6	4
35	15	ジョン・カリン	John Currin	1962	アメリカ	14	50	86	10	3	2
36	14	マルティン・キッペンベルガー	Martin Kippenberger	(1953-1997)	ドイツ	30	35	44	6	4	4
37	13	ショーン・スカリー	Sean Scully	1945	アイルランド	29	41	45	6	3	4
38	13	ウルス・フィッシャー	Urs Fischer	1973	スイス	63	38	29	3	4	6
39	12	ワン・グワンイー (王広義)	Wang Guangyi	1957	中国	180	37	24	1	4	7
40	12	ツァイ・グオチャン (蔡國強)	Cai Guoqiang	1957	中国	46	70	32	3	2	6
41	11	シュエ・リャン	Xue Liang	1956	中国	25	45	129	7	3	1
42	11	ホワン・ムニョス	Juan Muñoz	(1953-2001)	スペイン	115	133	20	1	1	9
43	11	シ・ガオリャン (史国良)	Shi Guoliang	1956	中国	32	43	76	6	3	2
44	10	トーマス・シュッテ	Thomas Schütte	1954	ドイツ	38	74	40	5	2	4
45	10	アントニー・ゴームリー	Antony Gormley	1950	イギリス	79	31	51	2	5	3
46	9	チェン・ダンキン (陈丹青)	Chen Danqing	1953	中国	40	76	46	4	2	4
47	9	アルバート・オーレン	Albert Oehlen	1954	ドイツ	43	34	104	4	4	1
48	9	グオ・ランメン (郭潤文)	Guo Runwen	1955	中国	41	49	67	4	3	2
49	9	レン・ジュン (冷军)	Leng Jun	1963	中国	110	66	35	1	2	6
50	9	マーク・クイン	Marc Quinn	1964	イギリス	48	48	54	3	3	3

図表・155 「Art Review Power 100」において選出回数が多い作家

回数 12回 グルハルト・リロジェフ・クーン	<u>作家名</u> ヒター		誕生年	選出年
17		Gerhard Richter	1932	02-13
V / / · ·		Jeff Koons	1955	02-13
_ ダミアン・ハース		Damien Hirst	1965	02-12
11 回 村上隆	<u> </u>	Takashi Murakami	1962	03-13
8回 アイ・ウェイウ:		Ai Weiwei	1957	06-13
シンディ・シャー		Cindy Sherman	1954	03, 08-13
7回 ジョン・バルデ		John Baldessari	1931	04-05, 07-09, 12-13
マウリッツイオ		Maurizio Cattelan	1960	02-04、06、08-11
ブルース・ナウ		Bruce Nauman	1941	05-10
マイク・ケリー	·	Mike Kelley	1954-2012	06-11
6回 ポール・マッカー	ーシー	Paul McCarthy	1945	03、05-09
リチャード・セラ		Richard Serra	1939	04-08
アンドレアス・ク		Andreas Gursky	1955	02-08
_ リアム・ギリック	ク	Liam Gillick	1964	08-09、11-13
5回 マリーナ・アブ	 ラモビッチ	Marina Abramović	1946	09-13
リチャード・プリ		Richard Prince	1949	05-09
アニッシュ・カン	プーア	Anish Kapoor	1954	04、06、10-11
アンゼルム・キー	ーファー	Anselm Kiefer	1945	02、05-07
4回 ツァイ・グオチ	ャン(蔡國強)	Cai Guo-Qiang	1957	03-04、06、08
ジャスパー・ジョ		Jasper Johns	1930	02, 04, 08-09
ジェフ・ウォーバ	rV	Jeff Wall	1946	05-08
エド・ルシェ		Ed Ruscha	1937	03-05
フランツ・ヴェン	スト	Franz West	1947-2012	07、10-11
イザ・ゲンツケン	·/	Isa Genzken	1948	09、12-13
ルイーズ・ブルミ	ジョワ	Louise Bourgeois	1911-2010	03、08-09
マシュー・バー	=-	Matthew Barney	1967	02-03、06
ネオ・ラウフ		Neo Rauch	1960	05-06、10
3回 ピーター・フェシェ	リ &デビッド・ヴァイス	Peter Fischli & David Weiss	1952、1946-2012	09-11
ロバート・ゴーノ	バー	Robert Gober	1954	06-08
ローズマリー・	トロッケル	Rosemarie Trockel	1952	11-13
スティーブ・マ	ックイーン	Steve McQueen	1969	11-13
トーマス・ヒシ	ュホルン	Thomas Hirschhorn	1957	06-07、13
ティノ・セーガノ	ri	Tino Sehgal	1976	10、12-13
ヴォルフガング	・ティルマンス	Wolfgang Tillmans	1968	10、12-13
サイ・トゥオン	ブリー	Cy Twombly	1928-2011	04、08
リュック・タイプ	マンス	Luc Tuymans	1958	04、06
マルレーネ・デュ	ュマス	Marlene Dumas	1953	05、08
オラファー・エ	リアソン	Olafur Eliasson	1967	04、08
ピーター・ドイク	グ	Peter Doig	1959	05、08
ピータ・ナギ		Peter Nagy	1959	08-09
2回 ピエール・ユイク		Pierre Huyghe	1962	06、13
リクリット・ティ	ィラバーニャ	Rirkrit Tiravanija	1961	09-10
ジグマー・ポルク	ケ	Sigmar Polke	1941	03-04
スボード・グプク	タ	Subodh Gupta	1964	07-08
セアスター・ゲ	イツ	Theaster Gates	1973	12-13
トレイシー・エ		Tracey Emin	1963	02、06
ワリッド・ラー	ř .	Walid Raad	1967	11-12
ウイリアム・エク	グルストン	William Eggleston	1939	04-05

図表・156 両基準により選定した作家

作家名				Art Price		Art Power 100		基準との適合	
		誕生年	出身国	順位	金額 (億円)	選出 回数	選出年	基準1	基準2
ジェフ・クーンズ	Jeff Koons	1955	アメリカ	3	86	12	02-13	•	•
ダミアン・ハースト	Damien Hirst	1965	イギリス	8	53	11	02-12	•	•
村上隆	Takashi Murakami	1962	日本	11	34	11	03-13	•	•
シンディ・シャーマン	Cindy Sherman	1954	アメリカ	14	28	7	03、08-13	•	•
ゼン・ファンジー(曾梵志)	Zeng Fanzhi	1964	中国	2	98	1	13	•	
ジャン・シャオガン (張曉剛)	Zhang Xiaogang	1958	中国	5	58	1	07	•	
クリストファー・ウール	Christopher Wool	1955	アメリカ	6	58	0	_	•	
リチャード・プリンス	Richard Prince	1949	アメリカ	9	45	5	05-09	•	
アンドレアス・グルスキー	Andreas Gursky	1955	ドイツ	12	31	5	02-08	•	
ピーター・ドイグ	Peter Doig	1959	イギリス	13	29	2	05、08	•	
アンゼルム・キーファー	Anselm Kiefer	1945	ドイツ	15	27	4	02、05-07	•	
アニッシュ・カプーア	Anish Kapoor	1954	インド	16	26	4	04、06、10-11	•	
奈良美智	Yoshitomo Nara	1959	日本	24	22	0	_	•	
マーク・グロッチャン	Mark Grotjahn	1968	アメリカ	25	22	0	_	•	
アイ・ウェイウェイ	Ai Weiwei	1957	中国	129	3	8	06-13		•
リアム・ギリック	Liam Gillick	1964	イギリス	_	_	5	08-09、11-13		•
マリーナ・アブラモビッチ	Marina Abramović	1946	ユーゴスラビア	_	_	5	09-13		•
イザ・ゲンツケン	Isa Genzken	1948	ドイツ	221	1.2	3	09、12-13		•
ローズマリー・トロッケル	Rosemarie Trockel	1952	ドイツ	120	3	3	11-13		•
スティーブ・マックイーン	Steve McQueen	1969	イギリス	_	_	3	11-13		•
トーマス・ヒシュホルン	Thomas Hirschhorn	1957	スイス	_	_	3	06-07、13		•
ティノ・セーガル	Tino Sehgal	1976	イギリス	_	_	3	10、12-13		•
ヴォルフガング・ティルマンス	Wolfgang Tillmans	1968	ドイツ	247	0.5	3	10、12-13		•

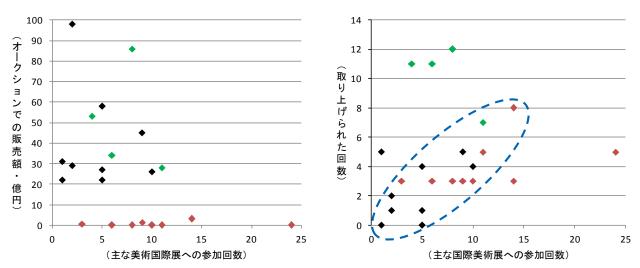
5-2. 作家が参加する国際美術展・作家の取扱ギャラリー

選定した作家がこれまで参加してきた主な国際美術展 14 を整理したものが図表・ 158 である。また、国際美術展の参加回数と「The Art price annual report」における過去 3 年間のオークションの販売額、「Art Review Power 100 」において取り上げられた回数の関係を示したものが図表・ 157 である。

これらをみると、国際美術展の参加回数と「The Art price annual report」における過去3年間のオークションの販売額の間には相関が見られないことがわかる。また、国際美術展の参加回数と「Art Review Power 100」において取り上げられた回数の間には、一部の外れ値が存在するものの緩やかな相関を見ることもできる。

すなわち、主な国際美術展への参加は、オークションでの販売額には影響を与えないが、業界における評価においては一定の評価を与えている可能性があるといえる¹⁵。

図表・157 オークションの販売額との相関(左)、「Art Review Power 100」で取り上げられた回数との相関(右)



※緑の点は基準1 と基準2 の両方を満たした作家、黒の点は基準1 のみを満たした作家、赤の点は基準2 のみを満たした作家を示している。 出所)野村総合研究所作成

¹⁴ 本調査で対象とした 15 の国際美術展(ヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタ、ミュンスター彫刻プロジェクト、リヨン・ビエンナーレ、イスタンブール・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ、シャルジャ・ビエンナーレ、シドニー・ビエンナーレ、アジア・パシフィック・トリエンナーレ、上海ビエンナーレ、台北ビエンナーレ、アジアン・アート・ビエンナーレ、光州ビエンナーレ、釜山ビエンナーレ、シンガポール・ビエンナーレ)のほか、ホイットニー・ビエンナーレ、リバプール・ビエンナーレ、トリノ・トリエンナーレ、リバプール・ビエンナーレ、ベルリン・ビエンナーレ、マニフェスト、ヨコハマ・トリエンナーレ、あいちトリエンナーレ、広州トリエンナーレも含めている。

¹⁵ ヒアリング調査においても「国際展に出展した事実はどちらかというと美術館やキュレーターが重宝する情報であり、コレクターにとっては、あったらいいが、なくてもいい経歴である。」(ギャラリー関係者)という指摘があった。

図表・158 選定した作家が参加してきた主な国際美術展

作家名	参加年	国際美術展名
	1987年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1989年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1990年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
ジェフ・クーンズ	1990年	シドニー・ビエンナーレ
(12回、86億円)	1993年	ヴェネチア・ビエンナーレ(関連企画)
	1997年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2002年	サンパウロ・ビエンナーレ
	2013年	リヨン・ビエンナーレ
	1993年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
ダミアン・ハースト	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(11回、53億円)	2011年	サンパウロ・ビエンナーレ
	2011年	ヨコハマ・トリエンナーレ
	1995 年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
	1996年	アジア・パシフィック・トリエンナーレ
村上隆	2000年	リヨン・ビエンナーレ
(11回、34億円)	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ(関連企画)
	2004年	リバプール・ビエンナーレ
	2005年	トリノ・トリエンナーレ
	1982年	ドクメンタ
	1982年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1983 年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1984 年	シドニー・ビエンナーレ
シンディ・シャーマン	1985 年	ホイットニー・ビエンナーレ
(7回、28億円)	1990年	シドニー・ビエンナーレ
(7 凹、20 1息门)	1991年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1993年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1995 年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1995 年	ホイットニー・ビエンナーレ
	2013年	ヴェネチア・ビエンナーレ

作家名	参加年	国際美術展名
ゼン・ファンジー	2009年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(1回、98億円)	2014年	ヴェネチア・ビエンナーレ(関連企画)
	1994年	サンパウロ・ビエンナーレ
28-2-1-12-1	1996年	アジア・パシフィック・トリエンナーレ
ジャン・シャオガン	1996年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(1回、58億円)	2000年	光州ビエンナーレ
	2004年	上海ビエンナーレ
	1990年	ホイットニー・ビエンナーレ
7117177 P. 1	1992年	ドクメンタ
クリストファー・ウール	1999年	イスタンブール・ビエンナーレ
(0回、58億円)	2003年	リヨン・ビエンナーレ
	2011年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1985 年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1986年	シドニー・ビエンナーレ
	1988 年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
リチャード・プリンス	1992年	ドクメンタ
(5回、45億円)	1997年	ホイットニー・ビエンナーレ
	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2004年	ホイットニー・ビエンナーレ
	2010年	ホイットニー・ビエンナーレ
アンドレアス・グルスキー (5回、31億円)	2012年	ヴェネチア・ビエンナーレ建築展
ピーター・ドイグ	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ(関連企画)
(2回、29億円)	2006年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1977年	ドクメンタ
アンゼルム・キーファー	1980年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1982 年	ドクメンタ
(4回、27億円)	1987年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1997年	ヴェネチア・ビエンナーレ

作家名	参加年	国際美術展名
	1982年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
	1983 年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1990年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1992年	ドクメンタ
	1993年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1996年	サンパウロ・ビエンナーレ
アニッシュ・カプーア	2000年	リヨン・ビエンナーレ
(4回、26億円)	2001年	上海ビエンナーレ
(4 凹、20 1息门)	2004年	光州ビエンナーレ
	2005年	横浜トリエンナーレ
	2006年	アジア・パシフィック・トリエンナーレ
	2006年	上海ビエンナーレ
	2009年	アジア・パシフィック・トリエンナーレ
	2009年	あいちトリエンナーレ
	2011年	ヴェネチア・ビエンナーレ(関連企画)
マーク・グロッチャン (0回、22億円)	2006年	ホイットニー・ビエンナーレ
	1999年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
	2002年	広州トリエンナーレ
	2004年	ヴェネチア・ビエンナーレ建築展
	2005年	広州トリエンナーレ
	2006年	アジア・パシフィック・トリエンナーレ
7 1 1 1 1	2006年	シドニー・ビエンナーレ
アイ・ウェイウェイ	2006年	釜山ビエンナーレ
(8回、3億円)	2007年	ドクメンタ
	2008年	ヴェネチア・ビエンナーレ建築展
	2008年	リバプール・ビエンナーレ
	2010年	サンパウロ・ビエンナーレ
	2011年	光州ビエンナーレ
	2013年	ヴェネチア・ビエンナーレ

作家名	参加年	国際美術展名
	1997年	ドクメンタ
	2001年	ベルリン・ビエンナーレ
	2001年	リヨン・ビエンナーレ
11-7 1211 12	2001年	横浜トリエンナーレ
リアム・ギリック	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(5 回)	2009年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2009年	シドニー・ビエンナーレ
	2010 年	上海ビエンナーレ
	2012 年	釜山ビエンナーレ
	1976 年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1977年	ドクメンタ
	1981 年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1982 年	ドクメンタ
	1983年	シドニー・ビエンナーレ
	1983 年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1983 年	ドクメンタ
	1983年	シドニー・ビエンナーレ
	1985 年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1989年	モスクワ・ビエンナーレ
マリーナ・アブラモビッチ	1989年	ドクメンタ
(5回)	1993年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(3四)	1993年	ドクメンタ
	1995 年	イスタンブール・ビエンナーレ
	1997年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2003年	横浜トリエンナーレ
	2004年	ホイットニー・ビエンナーレ
	2007年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2008年	サンパウロ・ビエンナーレ
	2009年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2011年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2012年	ドクメンタ

作家名	参加年	国際美術展名
	1982年	ドクメンタ
	1982 年	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
	1988 年	シドニー・ビエンナーレ
	1992年	ドクメンタ
イザ・ゲンツケン	1993 年	ヴェネチア・ビエンナーレ
(3回、1.2億円)	2004年	ホイットニー・ビエンナーレ
	2007年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2007年	ミュンスター彫刻プロジェクト
	2010年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1986年	シドニー・ビエンナーレ
	1990年	シドニー・ビエンナーレ
	1994年	サンパウロ・ビエンナーレ
	1995 年	イスタンブール・ビエンナーレ
ローズマリー・トロッケル (3回、3億円)	1996年	シドニー・ビエンナーレ
	1996年	マニフェスタ
	1997年	ドクメンタ
	1997年	光州ビエンナーレ
	1999 年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2000年	イスタンブール・ビエンナーレ
	2003年	シャルジャ・ビエンナーレ
	2011年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2012年	ドクメンタ
	2013年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1997年	ドクメンタ
	2002年	ドクメンタ
	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ
スティーブ・マックイーン (3 回)	2007年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2008年	リバプール・ビエンナーレ
	2008年	光州ビエンナーレ
	2009年	ヴェネチア・ビエンナーレ
	2010年	サンパウロ・ビエンナーレ
	2013年	ヴェネチア・ビエンナーレ

作家名	参加年	国際美術展名		
トーマス・ヒシュホルン (3 回)	1998年	ベルリン・ビエンナーレ		
	1999 年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2000年	リヨン・ビエンナーレ		
	2002年	ドクメンタ		
	2010年	光州ビエンナーレ		
	2011年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2013年	あいちトリエンナーレ		
ティノ・セーガル (3 回)	2002年	マニフェスタ		
	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2005年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2012 年	ドクメンタ		
	2012 年	上海ビエンナーレ		
	2013 年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
ヴォルフガング・ティルマ ンス(3 回、0.5 億円)	1998年	ベルリン・ビエンナーレ		
	2005年	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2009年	ヴェネチア・ビエンナーレ		

選定した作家の作品を取り扱っている主なギャラリーを整理したものが次表である。基準1(「The Art price annual report」)によって選定された作家の多くは、商業的に成功しているギャラリー(ガゴシアン・ギャラリー等)との契約を行っていることがわかる。また、基準1によって選定された作家は、基準2の作家と比較して複数のギャラリーと契約を行っている傾向がある。

契約を行うギャラリーが作家の作品のオークション販売額と大きく関係していることがわかる。

取扱ギャラリー 基準 基準 作家名 1 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 その他 ジェフ・クーンズ ダミアン・ハースト • 村上隆 Galerie Perrotin シンディ・シャーマン • ゼン・ファンジー (曾梵志) ジャン・シャオガン (張曉剛) クリストファー・ウール リチャード・プリンス Sadie Coles アンドレアス・グルスキー ピーター・ドイグ Victoria Miro アンゼルム・キーファー アニッシュ・カプーア 奈良美智 マーク・グロッチャン アイ・ウェイウェイ リアム・ギリック マリーナ・アブラモビッチ イザ・ゲンツケン Hauser & Wirth ローズマリー・トロッケル スティーブ・マックイーン

図表・159 選定した作家の作品を取り扱っている主なギャラリー

※取扱ギャラリーの番号との対応:

①ガゴシアン・ギャラリー (Gagosian Gallery)

トーマス・ヒシュホルン

ティノ・セーガル

- ②ホワイト・キューブ (White Cube)
- ③ブラム&ポー (Blum & Poe)
- ④ペース・ギャラリー (Pace Gallery)
- ⑤グラッドストーン・ギャラリー(Gladstone Gallery)

ヴォルフガング・ティルマンス

- ⑥デビッド・ツウィルナー・ギャラリー (David Zwirner)
- ⑦リッソン・ギャラリーLisson Gallery、
- ⑧マリアン・グッドマン・ギャラリー(Marian Goodman Gallery)
- ⑨モーリーン・ペイリー (Maureen Paley)

5-3. 世界的に活躍する現代美術のキュレーター

ここでは、特に、国際美術展において活躍する現代美術のキュレーターを一定の条件をもとに選定し、それらのキュレーターがこれまで参加してきた国際美術展を整理している。キュレーターを選出する基準として、特に影響力が強いと思われるヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタにおいて、過去4回の開催回にディレクターを担当したキュレーター、もしくは、本調査で対象とした15の国際美術展のうち複数のディレクション・キュレーションを担当したキュレーターを選定している。これらの基準により選出されたのは以下の方々である16。

- ・アダム・シムジック (Adam Szymczyk、1970年、ポーランド)
- ・アンセルム・フランケ(Anselm Franke、1978 年、ドイツ)
- ・ビーチェ・クリーガー (Bice Curiger、1948 年、スイス)
- ・キャロライン・クリストフ・バカルギエフ (Carolyn Christov-Bakargiev、1952 年、アメリカ)
- ・チャールズ・エシャ (Charles Esche、1962 年、イギリス)
- ・ダン・キャメロン(Dan Cameron、1956年、アメリカ)
- ・ダニエル・バーンバウム (Daniel Birnbaum、1963 年、スウェーデン)
- ・南條史生(Fumio Nanjo、1949 年、日本)
- ・ホウ・ハンル (Hou Hanru、1963年、中国)
- ・イザベル・カルロス (Isabel Carlos、ポルトガル)
- ・イェンス・ホフマン (Jens Hoffmann、1972 年、コスタリカ)
- ・ジェローム・サンズ (Jerome Sans、1960年、フランス)
- ・マッシミリアーノ・ジオーニ (Massimiliano Gioni、1973 年、イタリア)
- ・ニコラ・ブリオー (Nicolas Bourriaud、1965 年、フランス)
- ・オクウィ・エンヴェゾー (Okwui Enwezor、1963 年、ナイジェリア)
- ・ロジャー・ビュルゲル (Roger M.Buergel、1962年、ドイツ)
- ・バシフ・コータン (Vasif Kortun、1958 年、トルコ)
- ・長谷川祐子(Yuko Hasegawa、日本)

※ファーストネームのアルファベット順

これらのキュレーターがこれまで参加してきた主要な国際美術展を整理したものが図表・160である。 一部の例外を除く多くのキュレーターは主要な国際美術展のキュレーションを複数回行っていることが わかる。また、世界的に様々な国際美術展があるが、そのうち主要なもののキュレーションは、一部の キュレーターに集中していることが推察される。

¹⁶ 存命のキュレーターのみを対象とした。

図表・160 各キュレーターが参加した主な国際美術展

キュレーター名	参加年	国際美術展名		
11 y A	2008	四原天州成石 ベルリン・ビエンナーレ (コ・キュレーター)		
アダム・シムジック	2003	ドクメンタ		
	2017	マニフェスタ(コ・キュレーター)		
	2008	ブリュッセル・ビエンナーレ		
アンセルム・フランケ	2012	台北ビエンナーレ		
	2012	上海ビエンナーレ		
 ビーチェ・クリーガー	2014	ヴェネチア・ビエンナーレ		
	2008	シドニー・ビエンナーレ		
キャロライン・クリストフ・バカルギエフ	2013	ドクメンタ		
	2000	テート・トリエンナーレ		
	2002	光州ビエンナーレ		
チャールズ・エシャ	2005	イスタンブール・ビエンナーレ		
	2014	サンパウロ・ビエンナーレ		
	2003	イスタンブール・ビエンナーレ		
ダン・キャメロン	2006	台北ビエンナーレ		
	2010	光州ビエンナーレ (ゲスト・キュレーター)		
	2003	ヴェネチア・ビエンナーレ (コ・キュレーター)		
	2005	モスクワ・ビエンナーレ (コ・キュレーター)		
ダニエル・バーンバウム	2007	モスクワ・ビエンナーレ		
	2008	横浜トリエンナーレ (コ・キュレーター)		
	2008	トリノ・トリエンナーレ		
	1997	ヴェネチア・ビエンナーレ (日本館)		
	1998	台北ビエンナーレ		
南條史生	2001	横浜トリエンナーレ		
	2006	シンガポール・ビエンナーレ		
	2008	シンガポール・ビエンナーレ		
	1997	ヨハネスブルグ・ビエンナーレ		
	2000	上海ビエンナーレ		
	2002	光州ビエンナーレ (コ・キュレーター)		
ホウ・ハンル	2003	ヴェネチア・ビエンナーレ (「Z.O.U.」の企画)		
	2007	イスタンブール・ビエンナーレ		
	2007	ヴェネチア・ビエンナーレ (中国館) リヨン・ビエンナーレ		
	2009	サンパウロ・ビエンナーレ (ポルトガル)		
イザベル・カルロス	1996 1998	サンパウロ・ビエンナーレ (ポルトガル)		
	2004	シドニー・ビエンナーレ		
	2004	ヴェネチア・ビエンナーレ (ポルトガル館)		
	2009	シャルジャ・ビエンナーレ		
イェンス・ホフマン	1997	ドクメンタ (アシスタント・キュレーター)		
	1998	ベルリン・ビエンナーレ (アシスタント・キュレーター)		
	2007	リョン・ビエンナーレ (コ・キュレーター)		
	2011	イスタンブール・ビエンナーレ		
	2012	上海ビエンナーレ		

キュレーター名	参加年	国際美術展名
ジェローム・サンズ	1999	ヴェネチア・ビエンナーレ (デンマーク館)
	2000	台北ビエンナーレ
	2005	リョン・ビエンナーレ
	2003	ヴェネチア・ビエンナーレ(「The Zone」の企画)
	2005	マニフェスタ (コ・キュレーター)
マッシミリアーノ・ジオーニ	2006	ベルリン・ビエンナーレ (コ・キュレーター)
	2010	光州ビエンナーレ
	2013	ヴェネチア・ビエンナーレ
	1993	ヴェネチア・ビエンナーレ (アペルト部門)
	2007	モスクワ・ビエンナーレ
ニコラ・ブリオー	2009	テート・トリエンナーレ
	2011	アテネ・ビエンナーレ
	2014	台北ビエンナーレ
	1996	ヨハネスブルグ・ビエンナーレ
	2002	ドクメンタ
オクウィ・エンヴェゾー	2006	セビリア・ビエンナーレ
	2008	光州ビエンナーレ
	2015	ヴェネチア・ビエンナーレ
ロジャー・ビュルゲル	2007	ドクメンタ
ロジャー・ヒュルケル	2012	釜山ビエンナーレ
	1992	イスタンブール・ビエンナーレ
	1998	サンパウロ・ビエンナーレ(多キュレーター制)
	2001	ヴェネチア・ビエンナーレ (UAE 館)
バシフ・コータン	2003	ティラナ・ビエンナーレ
	2005	イスタンブール・ビエンナーレ
	2007	ヴェネチア・ビエンナーレ (トルコ館)
	2008	台北ビエンナーレ
巨公川分フ	2001	イスタンブール・ビエンナーレ 2001
	2002	上海ビエンナーレ
	2003	ヴェネチア・ビエンナーレ (日本館)
長谷川祐子	2006	メディアシティ・ソウル
	2010	サンパウロ・ビエンナーレ (コ・キュレーター)
	2013	シャルジャ・ビエンナーレ 2013

第6章 我が国の現代美術界の活性化・国際展開に向けた課題

本章では、これまでの調査結果及び各種ヒアリング調査・シンポジウムの結果を踏まえ、我が国の現代美術界の活性化・国際展開に向けたいくつかの課題について言及する。

なお、本調査は国際美術展やアートフェア及び各国の現代美術に係る支援制度や状況を明らかにする ことを目的としているため、本章で示しているものは、課題の全体像の一部であり、今後、課題を体系 的に整理するための検討が必要である。

課題1:支援対象とすべき有力な作家の選定方法と支援スキームの確立

文化庁では2014年度から「優れた現代美術の海外発信促進事業」の中で、海外のアートフェアへの出展や国際美術展への参加を支援している。本制度に関しては、ヒアリング調査の中でも評価する意見が聞かれるものの、「自力で海外のアートフェアに出展できないギャラリーや作家を支援しても競争力強化には貢献しない」、「資金の補助ではない、国でしかできない支援を行うべきである」といった旨の意見も聞かれた。

ヒアリングでの意見

評価する意見

- ・日本政府がビエンナーレに参加する日本のアーティストに支援することは歓迎すべきことである。 欧米の国は積極的に支援してくれる。(国際美術展関係者)
- ・海外からさまざまなゲストが来るが、彼らの出身国の文化担当省や大使館が、彼らの渡航費、滞在費、制作費を支出してくれる。(国際美術展関係者)
- ・日本のアートを紹介するギャラリーの海外進出をサポートしていくべき。(アートフェア関係者)
- ・日本が国として応援しているという姿勢が目に見えて行われる事を期待する。日本政府が深くコミットしてくれれば、(国名)の政府もそれに応えようとするかもしれない。(ギャラリー)
- ・日本政府はアーティストに様々な形で助成金を設定すべき。組織ではなくアーティスト個人を支援すべき。(その他)

評価しない意見

- ・ギャラリーは個人ビジネスなので支援する必要はない。(ギャラリー)
- ・日本のギャラリーが海外進出するための資金援助は必要ない。しっかりしたビジネスプランがないと海外に行っても成功できないだろう。(ギャラリー)
- ・日本政府はギャラリーが個人的にアートフェアに参加するのを補助するのではなく、国でなくて は出来ない規模の大きなこと、構造などに力を注いでほしい。(ギャラリー)
- ・アートに関してはあまり直接的な支援を行わない方が賢明だと思うが、政府にしかできない事があるはず。アートはエコシステムとして考えなければならない。まずはその全体像を描く事から始めるべきである。(その他)

また、このような制度の運営について、「資金の使途の管理」、「審査」の難しさについての言及もあった。作家が国外において活動する際の障害について、体系的に整理を行ったうえで、我が国の現代美術の国際展開において国として優先的に解決すべき課題の精査が必要である。

ヒアリングでの意見

- ・支援したお金の使い道を明確に管理、把握する必要がある。また、ギャラリーの海外進出は支援 すべきだが、1つのギャラリーに限らず、いくつかのギャラリーの集合体をチームとして支援する 方が望ましいと思う。(その他)
- ・ギャラリーを通して作家を応援するのであれば、どのギャラリーをどのようにサポートするのか 判断するのが非常に難しい。公費を使用するのだから、個人ではなく皆が利用できるサービスを構 築すべき。(ギャラリー)
- ・政府の選んだコミッティーの審査員に、専門性があるのかということが近年の論点となっている。 大学教授が審査員に選出されることが多いが、彼らはマーケットについては詳しくないという問題 もある。(台湾関係者)

課題2:世界的な評価を意識した国内の展示の充実・情報の整備

日本の作家の評価は既に世界的に高く、作家の国際展開(アウトバウンド戦略)よりも、国外の美術関係者や美術に興味のある方が来日した際に、適切に日本の作家の作品を見せられる場やその情報の整備(インバウンド戦略)の方が重要であるという意見が多くあげられた。

日本の美術館における世界的な評価を意識したコレクションの収集・展示の充実や、国外の美術関係者やコレクターの来日を意識したプラットフォーム(受付窓口、ポータルサイト等)の整備が必要である。

ヒアリングでの意見

- ・日本は海外でブームになっている作家をもっと戦略的に発信すべきではないか。たとえば、もの派がブームになっているが、日本の美術館やギャラリーにおいて積極的に扱われている印象は受けない。(コレクター)
- ・日本のアートマーケットの活性化が、ギャラリーや作家に取って何よりの助けになるはずだ。まずは、海外からのお客様が作品を購入しやすい環境を作ってあげる事に尽力した方が良いのではないか。(ギャラリー)
- ・今やるべき事は、海外ではなく国内の環境を整えることではないか。アートフェア東京の時に大きな展覧会を行うなど、足並みを揃える事にまず注力してほしい。(ギャラリー)
- ・良い作品を日本に貯めて、海外から人を呼んだらいいのではないか。美術館が観光地となり得ていないのも問題。(ギャラリー)
- ・日本コンシェルジュ協会へも協力を求め、毎月ギャラリーの展覧会情報、営業時間や場所、パーティーなどの情報をまとめて渡すなどの取り組みが必要。日本ではギャラリーが各地に点在し、営業時間や展示内容の情報も不明瞭。移動手段や所要時間も含め、綿密なプランニングが必要である。(ギャラリー)
- ・草間さんと同時代の80歳くらいの、国際的にはあまり名前が知られておらず、日本でも決して値段が高くない大御所の作家の作品を、外国の美術館は収集し始めている。それは日本の美術館が本当はやらなければならないことである。(ビエンナーレ関係者)
- ・日本のギャラリー情報をまとめたり、アートフェアの来日に併せてギャラリー巡りをコーディネートしたり、サポートしてあげるサービスの構築。例えば、海外のアート・アドバイザーは、海外からの顧客を作家のアトリエに連れて行くなどのサービスを行っているが日本にはそれがない。購入側と販売側との接点、環境を整えることにより、まだポテンシャルがあるのではないか。(ギャラリー)

課題3:日本の作家に係る情報の発信力の向上

日本の現代美術に興味を持つ方々に適切に情報を提供するうえで、日本語以外の言語での発信及び作家に係る情報の発信力の向上(作家自身、ギャラリー、批評家等)が重要である。このような点において、日本の現代美術に係る文書の英語化の支援、作家の発信力の向上、日本の現代美術に興味のある美術関係者とのネットワークづくりなど、政府が支援すべき点は多い。

ヒアリングでの意見

- ・日本語でしか手に入らない資料が多すぎるということ。今はアーティストでも話を上手にされる 方が多いのですが、少なくとも英語で、もしくは日本語以外の言語で、自分の作品についてきちん と話す能力が足りていないと感じます。(ビエンナーレ関係者)
- ・翻訳されていない、情報が出ないことに加えて、現場でアーティストたちがしゃべれない。ビエンナーレで作家が集まった際に日本人の作家はほとんど全員英語を話せなかった。世界中から来た若い作家が皆英語で話している中で、これはやはり障害にならざるを得ない。また、プレゼンテーション能力が弱く、なぜこれを作っているのかという質問に対して、ほとんど説明ができない。他者に対していかに自分のことを説明していくかという教育も非常に重要である。(ビエンナーレ関係者)

課題4:国外のインフルエンサー対応の充実

第5章で既述のとおり、現代美術の市場や関係者の評価は一部のインフルエンサー(影響力が大きい方)の態度により左右される部分が大きいと考えられる。

国外の政府では、このようなインフルエンサーの重要性を理解し、自国でアートフェアや国際美術展を実施する際には、このような方々を招聘したり、ヴェネチア・ビエンナーレ等の国外の主要な国際美術展に自国の作家が参加する際にはパーティーの実施などを支援したりしている。

我が国においても、このように作家の機会を最大化するための支援が必要であると考えられる。

ヒアリングでの意見

- ・オープニングでは海外から VIP を招いている。美術館は VIP のデータベースを持っており、コレクター、キュレーター、専門家、ギャラリーなどがリストアップされている。(ビエンナーレ関係者)
- ・VIP 招待に関しては、渡航費、宿泊代の費用の一部をビエンナーレ側で負担している。開幕の時期に合わせて招待している(ビエンナーレ関係者)
- ・ベルニサージュ期間中に政府主催のプログラムを企画したり、有数の限られた報道関係者を招致したりした。その中でも、我々の行程表に従って行動してもらうという約束のもと渡航費、滞在費を負担して招聘したのは20人余。スタジオやギャラリーの見学等をVIPツアーに盛り込んだ。(その他)

課題5:美術の生態系(エコシステム)を構成する各プレーヤーの連携

インバウンドを推進するにあたって、日本は地理的に有利な状況にあるとはいえず、また、対外発信を行うだけのリソース(資金、人員)が十分にあるとはいえない団体が多い。

一方で、我が国における美術館、ギャラリー、国際美術展の数は多く、これらの美術の生態系(エコシステム)を構成する各プレーヤー(美術館、ギャラリー、行政、アートフェア、コレクター等)が連携し、国内のコンテンツを魅力的に訴えたり、既存のリソースを共有化し、効果を最大化したりする取り組みを行うことが効果的である。

例えば、シンガポールにおいては 2013 年よりアートフェアと国際美術展の期間を重複するように設定し、それにあわせ、様々な施設においてイベントを行っている(シンガポール・アートウィーク)。また、韓国では限られた広報予算のなか光州ビエンナーレ、メディアシティ・ソウルなどが協力し、共同でインフルエンサーを招聘している。このような取り組みを参考としながら、日本として実現可能な連携のあり方を検討すべきである。

ヒアリングでの意見

シンガポールの状況17

- ・観光庁が主体となり、アート・ステージの開催に合わせて多くのイベントが開催されている。(シンガポール関係者)
- ・フェア期間中に現代美術センター (CCA) がトークイベントを開催。各美術館のディレクターが 集い、終日トークセッションを開催したり、オープニングイベントを会期中に集中させたりして足 並みを揃えている。(シンガポール関係者)
- ・ビエンナーレの開催時期をアート・ステージと合わせたのも意図的である。ビエンナーレで展示している作家の作品をアートフェアで購入することができるという相乗効果を狙ったものでもある。アート・ステージの3ヶ月前からビエンナーレを開催することで、ギャラリーはビエンナーレに出品された作品を踏まえ、取り扱う作家を選ぶことになる。(シンガポール関係者)
- ・今回のアート・ウィークでは、アート・ステージとビエンナーレの開催期間が重なる様に計画されていた。(シンガポール関係者)

韓国の状況

- ・2010年より光州ビエンナーレとメディアシティ・ソウルは実務的な協力体制をとり始めた。美術館のボードメンバー、影響力のある美術ライター等を招待する際、経費を折半している。(韓国関係者)
- ・2012 年には、光州ビエンナーレ、メディアシティ・ソウル、アート・ソンジェの3 展が資金を出し合い、3 展合同のガイド本を作成し、国内外に配布した。連携に関しては正式な書類を交わすなど行政的な手続きはなく、各展ディレクターの関係性で成り立っている自主的なものである。(韓国関係者)
- ・開催時期が近いため、2010年からは KIAF とも連携をとっている。光州ビエンナーレ、KIAF、メディアシティ・ソウルがともに出資して共同口座をつくり、ゲストの招待費などに充てている。ツアースケジュールを協議し、巡回経路を決めるなどしている。国際交流分野の担当者が、海外から来るゲストのスケジュール調整を行い、バスを貸し切るなどしてツアーを組んでいる。(韓国関係者)

_

¹⁷ 第4章4節の再掲。

平成25 年度文化庁委託事業 諸外国の現代美術に関する状況等に係る調査事業 報告書

平成 26 年 3 月 31 日

■委託元

文化庁文化部芸術文化課 支援推進室 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

■発行

株式会社野村総合研究所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-5 丸の内北口ビル

